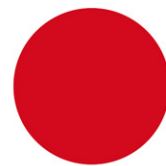


# 土堂小

# の研究



JAPAN HERITAGE

日本遺産

国立教育政策研究所指定  
教育課程研究指定校事業

尾道市教育委員会指定  
尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業  
(コミュニティ・スクール)

研究主題

## 未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

— 文学的な文章において“問い”を手掛かりに対話的な学びを育てる指導の工夫 —  
— 算数科「割合」の意味を理解するための系統的な指導計画や効果的な指導計画等の工夫改善 —



平成30年11月12日(月)  
主催 尾道市教育委員会  
尾道市立土堂小学校

尾道市立土堂小学校

# 目 次

I	平成30年度土堂小学校スクールプラン	4
II	教育研究計画	
1	研究構想	5
2	研究の概要	6
3	指導・助言者	7
4	研究計画	8
5	資料	
	主体性・積極性の系統表「国語科」「算数科」	9
	国語科「問いの系統表」	10
	算数科「割合の系統表」	11
	算数科「分数系統図」	13
	総合的な学習の時間「コンピテンシー表」	14
III	実践のまとめ	
1	国語科	16
2	算数科	26
3	特別支援教育	38
IV	基礎・基本定着のための取組	
1	モジュール授業の原理	44
2	モジュール授業の目標と内容	
3	モジュール授業の系統性	45
4	モジュール授業を共有，発展させるために	
5	フラッシュ教材例「割合」	47
V	研究の結果と考察（中間）	
1	全国学力・学習状況調査	49
2	質問紙調査	51
VI	研究のまとめ（中間）	
1	成果	52
2	課題と今後に向けて	
VII	日 程	54
	会場案内図	56

<b>VIII 全体会</b>	
開会行事	57
実践報告	58
分科会・講評	59
講演	60
閉会挨拶	62

## IX 公開授業 I

### モジュール授業

第1学年	64
第2学年	65
第3学年	66
第4学年	67
第5学年	67
第6学年	68
特別支援学級(知的)	69
特別支援学級(自閉症・情緒)	70
特別支援学級(難聴)	71

## X 公開授業 II

### 国語科

第1学年「おとうとねずみ チロ」	74
第2学年「ニャーゴ」	78
第3学年「モチモチの木」	81
第5学年「注文の多い料理店」	85
第6学年「海のいのち」	88

### 算数科

第1学年「たしざん(2)」	91
第2学年「かけ算(3)」	94
第3学年「分数」	98
第5学年「割合とグラフ」	102
第6学年「速さ」	106

### 総合的な学習の時間

第4学年「尾道の小路の魅力を伝えよう」	109
---------------------	-----

### 特別支援教育

特別支援学級(知的)「伝えよう, 6年生の学校生活」	114
特別支援学級(自閉症・情緒)「どんな模様ができるかな!」	117
特別支援学級(難聴)「お楽しみ会をしよう」	121

## ごあいさつ

土堂っ子太鼓の音が、今朝も尾道の町に響き渡っています。

本日、全国各地から多くの先生方のご参加をいただき、このように盛大に教育研究会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

本校は、平成17年度にコミュニティ・スクールの指定を受け、以来、地域とともに歩む学校として、学校運営協議会から示されたミッションステートメントの達成を目指し、教育活動の充実を図ってまいりました。本年度は、①基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校 ②学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校 ③尾道への郷土愛を高める学校 ④地域と保護者が共に育て支える学校-土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-の4つを目指す学校像として、日々取り組んでまいりました。

また、文部科学省から教育課程研究指定校事業、尾道市教育委員会から尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業の指定を受け、未来を拓く子供の資質・能力を育成するための教育の創造に取り組んでまいりました。

特に今年度は、国語科「問いの系統表」、算数科「分数の系統図」を新たに作成し、学年の発達段階を踏まえて、深い学びの実現をめざすとともに、全教科、領域を通じて資質・能力を育成するための単元開発・改善に努めてまいりました。じっくり考え、進んで話す子供たちの姿から確実に成果を実感しているところです。

本日、これらの実践の一端を発表いたしますが、私たちの取組は試行錯誤の繰り返しで、日々模索しながら歩んでいるところです。皆様から御指導、御助言をいただき、さらなる改善、発展に向け、一層の努力を重ねてまいります。

終わりにになりましたが、本校の研究推進に温かい御指導、御支援をいただきました多くの先生方に心から感謝を申し上げ、あいさついたします。

平成30年11月12日

尾道市立土堂小学校

校長 宮本 佳宏

# I 平成30年度 土堂小学校スクールプラン

夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成

## 平成30年度 コミュニティ・スクール 土堂小学校スクールプラン

教育課程研究指定校(国立教育政策研究所教育課程研究センター)  
尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業指定校

学校教育目標

**志を持ち未来を拓く子どもの育成  
「自ら学ぶ」**

ミッションステートメント (学校運営協議会)

- 1 基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校
  - 2 学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校
  - 3 尾道への郷土愛を高める学校
  - 4 地域と保護者が共に育て支える学校
- 土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-

スクールミッション (尾道市教育委員会)

主体的な学びの創造をめざした課題発見・解決学習の定着と発信

**知**

**「自ら学ぶ子」**

- 学びのための習慣づくりと基礎・基本の定着
  - ・ 個に応じた指導
  - ・ モジュール授業
  - ・ 検定試験への挑戦
  - ・ 家庭学習の定着
- 主体的な学習の構築
  - ・ 課題発見・解決学習の充実
  - ・ 作品募集への積極的応募
- 尾道への郷土愛の育成
  - ・ 「総合的な学習の時間」におけるカリキュラム開発

**徳**

**「思いやりのある子」**

- 「土堂っ子太鼓」の継承
- マナーの定着と奉仕の精神の涵養
  - ・ あいさつの励行
  - ・ 主体的な清掃活動
- 道徳実践力の向上
  - ・ 道徳授業の充実
  - ・ 道徳的環境の整備
- 読書活動の充実
  - ・ 朝読書
  - ・ 推薦指定図書を読破
  - ・ 委員会活動の活性化

**体**

**「根気よくやりぬくたくましい子」**

- 体力の向上
  - ・ 体育授業における運動量の確保
- 保健・安全指導の充実
- 保健・安全管理の徹底
- 食育の充実

**体験的な学習・異学年交流の推進 語彙力の向上**

**教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教師**

- ・ 「出会い」「きっかけ」「体験」を大切にする教師
- ・ 言葉を大切にする教師 ・ 傾聴できる教師

**家庭・地域との連携**

- ・ 学校評議員との連携 ・ 積極的な情報公開・発信
- ・ 地或行事への積極的な参加

## Ⅱ 教育研究計画

### 1 研究構想

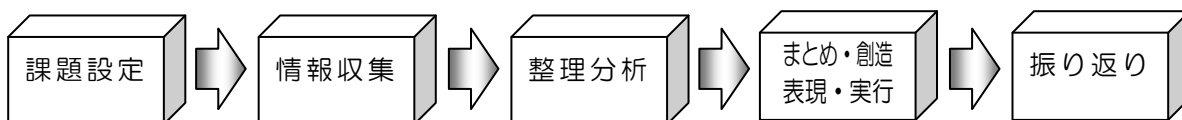
研究主題

未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

—文学的な文章において“問い”を手掛かりに対話的な学びを育てる指導の工夫—  
—割合の意味を理解するための系統的な指導計画や効果的な指導計画等の工夫改善—

### 課題発見・解決学習

各教科

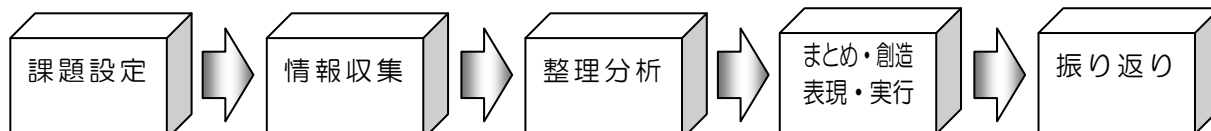


国語科  
「問いの系統表」  
作成・活用・改善

主体的・対話的で深い学びを通した  
より深い知識の習得  
思考力・判断力・表現力等の育成

算数科  
「割合の系統表」  
「分数系統図」  
作成・活用・改善

総合的な学習の時間



各教科で習得した力を活用し、仲間と協働して、最善解を創造

資質・能力の育成

### 学習習慣の定着

基礎的・基本的な学習習慣の定着

モジュール授業

家庭での学習習慣の定着

家庭学習

## 2 研究の概要

### (1) 研究主題・副題

#### 未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

—文学的な文章において“問い”を手掛かりに対話的な学びを育てる指導の工夫—  
—割合の意味を理解するための系統的な指導計画や効果的な指導計画等の工夫改善—

### (2) 研究主題の設定理由

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子供達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考したり、協力・協働したりしながら課題を解決することで、新たな価値を生み出し、社会に貢献していくことがより一層求められていく。

本校では、これまで、課題発見・解決学習のための単元開発や基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるための学ぶ習慣づくりについて研究をしてきた。

平成29年度は、生活場面や他教科・領域と関連付けた単元構成やかかわりを生かした協同学習の工夫等により、児童が学ぶ必然性を感じ、目的をもった学習が実現できた。また、算数科の割合の学習につながる系統性に関する理論研修を行い、各学年の発達段階における系統性を研修し、立式の説明に焦点化して系統表を作成した。さらに、モジュール授業における割合の学習につながる立式の説明の仕方や図の指導等に関するフラッシュ教材を開発した。全学年においては、割合の学習の系統性を意識した学習指導案を作成し、授業研究を公開した。しかし、算数科においては図を使って立式した理由を説明する力が十分でない児童も多い。国語科においては、単元を構成する際、児童の教材に対する学習意欲を高めることよりも、外発的要因によって意欲を高めることが多かった。そこで、平成30年度、算数科においては引き続き図のかき方指導と立式した理由を説明する活動を全学年で継続して取り組むことを重点として研究を進める。また国語科において、児童の文学的教材に対する“問い”の質を高め、読む力を育成することで、児童の主体的・対話的で深い学びを実現していく必要がある。

平成30年度は、昨年度に引き続き国語科と算数科の各部会が、学校全体の研修計画に基づいて、部会で研究計画を立て、部ごとにPDCAサイクルに則った研究推進を行う。その中で、教科固有の見方や考え方、資質・能力に関する理論研究と実践研究を推進し、学校全体で定期的に交流し合う。このことで、児童の変容に基づいて検証し、記録し、次年度へつなぐ体制づくりを行う。

研究主題を「未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造—文学的な文章において“問い”を手掛かりに対話的な学びを育てる指導の工夫—割合の意味を理解するための系統的な指導計画や効果的な指導計画等の工夫改善—」とし、単元開発や教科固有の見方・考え方について研究することを通して、主体的・対話的で、深い学びの実現を目指すこととする。

### (3) 研究のねらい

- 思考力・表現力を育成する。
- 主体的・協働的に学ぶ児童を育成する。
- 基礎的・基本的な力を付け、基礎的な知識の定着を図る。

(4) 研究仮説

基礎的・基本的な学習習慣の定着を図り、国語科・算数科，総合的な学習の時間において，課題発見・解決学習のための授業づくりを行うことで，主体的・対話的で，深い学びを実現することができるであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- 教科のカリキュラム開発と評価，検証を中心に単元開発を進める。
- 基礎的・基本的な力を付けたり，意欲を高めるためのモジュール授業の工夫を行ったりして，基礎的な知識の定着を図る。
- PDCA 検証部会を設け，学校全体としての研究の方向性を共有しながら，PDCA サイクルに基づいた単元ごとの検証と改善を行い，単元の質の向上を図るとともに国語科や算数科における資質・能力の系統表を作成し，その効果を検証する。
- 割合の意味を理解するための系統的な指導計画及び効果的な指導計画等の工夫を行う。
- 国語科の文学的教材における児童の“問い”の質を高め，読む力を育成するための指導の工夫を行う。

(6) 検証の指標

	指標	達成目標	検証時期	検証方法
成果指標 *本県の指標を参考にすること	総合学力テストにおける正答率	全国平均 + 10	平成 30 年 12 月 平成 31 年 1 月	総合学力テストを利用
	全国学力・学習状況調査における正答率	県平均 +14 (国・算B問題) 県平均 +12 (国・算A問題) 県平均 +12 (理科)	平成 30 年 4 月 平成 31 年 2 月	全国学力・学習状況調査問題を利用
	「基礎・基本」定着状況調査等の質問紙調査の肯定率	肯定的回答 75%以上	平成 30 年 6 月 平成 31 年 2 月	「基礎・基本」定着状況調査質問紙を利用

3 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
笠井 健一	文部科学省・国立教育政策研究所・教育課程調査官	
林 武広	比治山大学・比治山大学短期大学部・副学長 広島大学・名誉教授	
河野 智文	福岡教育大学・教授	
岩田 耕司	福岡教育大学・准教授	
神鳥 裕史	広島県東部教育事務所・指導主事	
保森 智彦	尾道市教育委員会・指導主事	
大矢 純一	尾道市教育委員会・指導主事	
井桁 陽介	広島県立尾道特別支援学校・教育相談主任	
新林 美穂	広島県立尾道特別支援学校・教育相談主任・地域支援部長	



#### 4 研究計画

	月 日	研 修 内 容	講 師
4	3日(火)	研究構想について モジュール授業について	
	17日(火)	全国学力・学習状況調査	
	26日(木)	授業研究(モジュール1組)	
	27日(金)	授業研究(モジュール2組)	
5	1日(火)	協議会(モジュール)	
	28日(月)	授業研究①算数科	笠井先生(文部科学省)
6	8日(金)	授業研究②国語科	河野教授(福岡教育大学)
	11日(月)	授業研究③特別支援教育	井桁先生(広島県立尾道特別支援学校)
	15日(金)	授業研究④特別支援教育	新林先生(広島県立尾道特別支援学校)
	22日(金)	授業研究⑤算数科	岩田准教授(福岡教育大学)
	25日(月)	授業研究⑥国語科	
	29日(金)	授業研究⑦算数科	岩田准教授(福岡教育大学)
7	6日(金)	授業研究⑧国語科	河野教授(福岡教育大学)
	23日(月)	P D C A 検証部会 1学期の反省 教育研究会に向けて モジュール授業について	
	30日(月)	教育研究会単元計画提出	
	31日(火)	指導案検討(算数部会)	岩田准教授(福岡教育大学)
8	3日(金)	指導案検討(国語部会)	河野教授(福岡教育大学)
	22日(水)	指導案検討(算数部会・特別支援教育部会)	岩田准教授(福岡教育大学) 井桁先生(広島県立尾道特別支援学校) 新林先生(広島県立尾道特別支援学校)
	24日(金)	学力テスト分析	
	28日(火)	指導案検討(国語部会)	河野教授(福岡教育大学)
11	12日(月)	教育研究会	笠井先生(文部科学省) 林副学長(比治山大学・比治山大学短期大学部) 河野教授(福岡教育大学) 岩田准教授(福岡教育大学) 神鳥指導主事(広島県東部教育事務所) 保森指導主事(尾道市教育委員会) 大矢指導主事(尾道市教育委員会) 井桁先生(広島県立尾道特別支援学校) 新林先生(広島県立尾道特別支援学校)
	14日(水)	P D C A 検証部会 教育研究会反省	
12	18日(火)	学力定着実態調査	
1	10日(木)	総合学力テスト	
	25日(金)	3年目研(上田)・6年目研(菅方)	
2	5日(火)	全学年検証実施	
3	8日(金)	P D C A 検証部会 来年度研究について	

## 土堂小学校版！ 国語科「主体性・積極性」の系統表

資料

学年		低学年	中学年	高学年
国語科	(見通し) 課題発見	教師との対話によって、学習の見通しをもつことができる。	既習学習を想起し関連づけながら、教師の支援を得つつ、学習の見通しをもつことができる。	児童相互の対話によって学習の見通しをもち、必要に応じて見直すことができる。
	学習展開 課題解決	自らの疑問について、調べたいという意欲をもつことができる。	解決のために必要な方法や手段を考え、実行することができる。	課題解決に向けて計画を立て、情報を集め、よりよい方法で解決することができる。
	次への展望 ふり返り	学習目標（ねらい）について、達成したことや困難だったことを振り返ることができる。	学習内容について、自分の考えを明確にしたり、既習内容と関連させたりして振り返ることができる。	学習内容や学習方法について自己評価したり、次時に向けての課題を設定したりすることができる。
	対話性	友達の多様な考えに関心をもち、積極的に交流・共有しようとする。	自分と友達の考えの相違点に関心をもち、自分の考えを見直そうとする。	多様な考えを対話によって分類・整理し、目的を意識して再構成しようとする。

## 土堂小学校版！ 算数科「主体性・積極性」の系統表

学年		低学年	中学年	高学年
算数科	見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を用いた活動を通して、数量や図形についての感覚を豊かにする。</li> <li>・数学的に考えることや数理的な処理に親しもうとする。</li> <li>・算数の学習が生活や学習と関係があることを見付けようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形についての感覚を豊かにする。</li> <li>・数学的に考えることや数理的な処理のよさに気付く。</li> <li>・算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活と結び付けて考え、数量や図形についての感覚をより豊かにする。</li> <li>・数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、活用しようとする。</li> <li>・よりよく生活や解決するために、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする。</li> </ul>
	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問をもち、よりよく問題を解決しようとする。</li> <li>・数字や図形を絵や具体物と関連付けて考えようしたり、具体物を数字や図形に表現しようしたりするなど、抽象と具体の双方から考えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする。</li> <li>・抽象的を具体的に表現したり、表現されたことをより一般的に表現したりするなど、多面的に考えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする。</li> <li>・抽象を具体的に表現したり、表現されたことをより一般的に表現したりするなど、統合的・発展的に考えようとする。</li> </ul>
	次への展望 ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が解いた問題を振り返り、自分が解いた計算や図が正しいのか、別の方法や友達の方法で確かめようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達が解いた問題を振り返り、解答や解き方が正しいのか複数の考えを比べて、共通点や相違点を見付けながら検討しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や他者が数学的に表現・処理したことを振り返り、根拠を明らかにしながらよりよい方法や新しい課題を見付け、批判的に検討しようとする。</li> </ul>

# 国語科 文学的な文章における問いの系統

	1年「おとうとねずみ チロ」	2年「ニャーゴ」	3年「モチモチの木」	4年「ごんぎつね」	5年「注文の多い料理店」	6年「海のいのち」
<b>問</b> <b>いの</b> <b>深</b> <b>化</b>	<b>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</b> ・1～4場面には、誰が出てくるか。(I) ・この絵は何をしているところだろう。(I) ・この絵は何と言っているところだろう。(I) ・にいさんねずみ、ねえさんねずみ、チロは何と言ったか。(I)		<b>登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。</b> ・中心となる人物は誰だろう。(I) ・登場人物、中心人物は誰だろう。(I) ・〇場面の兵十は、どんな気持ちだっただろう。(I) ・ごんはどんな子ぎつねだろう。兵十はどんな人だろう。(I)		<b>登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。</b> ・しんし達はどんな人なんだろう。(I) ・主と太一は、どのような関係か。(I) ・父は、どのような人物か。(I) ・太一の父への憧れは、どのようなものか。(I) ・与吉じいさは、どのような人物か。(I) ・与吉じいさのことを太一はどう思っていたか。(I) ・太一のことを、母はどう思っていたか。(I) ・主を前にした時に、太一はどんな気持ちだったのか。(I)	
	<b>場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</b> ・いいことを考えた時のチロはどんな様子だっただろう。(I) ・どうして飛び出して行ったのか。(III) ・チロがおばあちゃんに呼びかけた時、どんな言い方だったのだろう。(I) ・どうして、耳をすませていたのだろう。(I)		<b>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する。</b> ・豆太は臆病なのか、そうでないのか。(I) ・弱虫と臆病は違うのか。(I) ・豆太はどう気持ちが変わったのだろう。(I) ・なぜ、豆太は気持ちが変化したと思うか。(I)		<b>人物像や物語どの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。</b> ・しんし達がたくさんの注文をおかしいと思いはじめたのはいつだろう。(I) ・しんし達を食べようとしていたのは何だろう。(I) ・太一がクエを殺さなかったのはなぜか。(IV) ・太一は一人前の漁師か、それとも一人前ではないのか。(V) ・太一は誰のおかげで一人前の漁師になったのだろう。(I) ・自分だったら、クエを刺すだろうか。(V VI) ・太一が海の主を刺さなかったことに、賛成か、反対か。(VII) ・他の作品でも、葛藤が描かれているのか。(II III)	
	<b>文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。</b> ・チロがどんなことをしているところがわくわく・どきどきしたか。(V) ・小包を待っている間、チロはどんな気持ちだったのだろう。(IV)		<b>文章を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつこと。</b> ・気持ちが変化した豆太をどう思うか。(VII) ・物語を読んで、登場人物のどんなところに感動しただろう。(V)		<b>文章を読んで理解したことに基に、自分の考えをまとめること。</b> ・なぜ猫は人間を食べようとしたのか。(III V) ・なぜしんしはこんな怖い目に合ったのか。(III V) ・なぜしんしは最後に顔がもともどもどらなかつたのか。(III V) ・この作品で宮沢賢治は何を伝えたかったのだろう。(III IV)	
	<b>文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</b> ・友達はどこなところがわくわく・どきどきしたのだろう。(VI)		<b>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。</b> ・斎藤隆介さんは、作品を通して何を伝えたかったのだろう。(II VI)		<b>文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。</b> ・なぜ猫は人間を食べようとしたのか。(III V) ・なぜしんしはこんな怖い目に合ったのか。(III V) ・なぜしんしは最後に顔がもともどもどらなかつたのか。(III V) ・この作品で宮沢賢治は何を伝えたかったのだろう。(III IV)	

確認の問い

「物語を読むときには、登場人物や中心人物、行動や気持ちを確認しておこう。」

解決に向けての問い

初発の感想などから子供たちと設定できる。

考えを深める問い

「作者の思いは？」「他の作品は？」「自分だったら？」

考えを広げる問い

「みんなはどう考えたのかな。」「自分の考えをもっと広げたいな。」

問いの層  
 I：作品の中の問い      II：作品と別作品とを関わらせた問い      III：作品と作者とを関わらせた問い  
 IV：作品と（時代）情景・状況とを関わらせた問い      V：作品と読み手（自分自身）とを関わらせた問い  
 VI：読み手と他の読み手とを関わらせた問い

問いは学年で大きな違いはない。違うのは、教材の難しさと考える深さ。

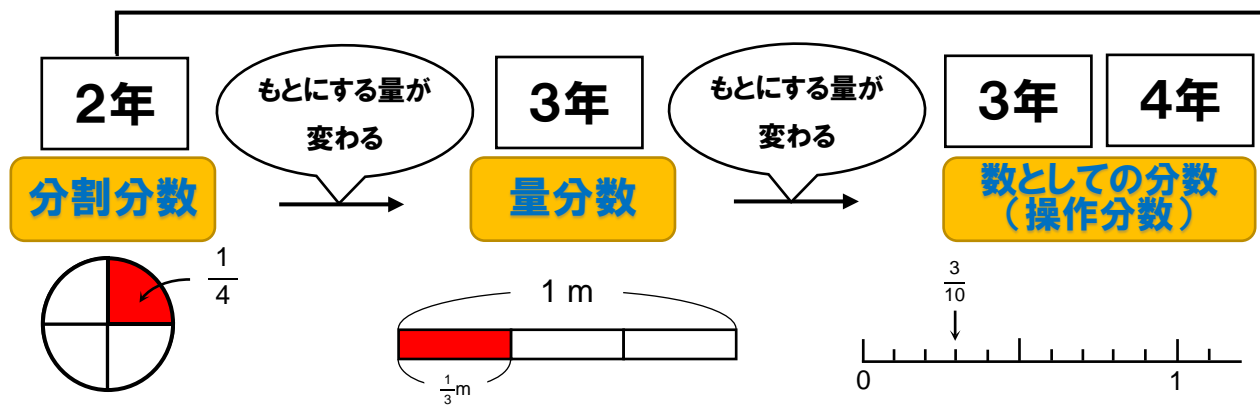
土堂小学校版！ 算数科「思考力・表現力」の系統表 —割合の学習につながる立式の系統性に着目して—

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
めざす資質・能力	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力							
	問題場面を適切に表して演算決定する力	「1つ分の数×いくつ分」や「何倍か」を用いて、全体の大きさを考える力	「1つ分」を「もとにする大きさ(1つ分、1倍)」として捉え、わり算を用いて、何倍かを考える力 かけ算を用いて、倍の大きさを考える力	「いくつ分」から「割合の見方」で倍を捉える力 「割合の見方」を用いて、かけ算になる理由を説明する力	かけ算を用いて、小数倍の大きさを考える力 基準量や比較量が小数のときも、わり算を用いて、何倍かを考える力 基準量・比較量・割合の関係を捉える力	「割合の見方」を用いて、身の回りの事象を捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力		
めざす説明の姿(3年生以上はわり算)	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力							
	ブロック操作やまる図等で、式の意味や立式した理由を表現する力	テープ図・比例テープ図で、かけ算で立式した理由を説明する力	比例テープ図・比例数直線で、わり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線で、「割合の見方」でわり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線や線分図等で、「割合の見方」で小数倍などの立式した理由を説明する力 図を用いて、基準量・比較量・割合の関係を説明する力	比例数直線・線分図等で、「割合の見方」を用いて立式した理由を説明する力		
めざす説明の姿(3年生以上はわり算)	<p><b>たしざん</b></p> <p><b>たしざん</b></p> <p><b>ひきざん</b></p>	<p><b>かけ算(1)</b></p> <p><b>1つ分を意識</b></p>	<p><b>わり算</b></p> <p><b>「1つ分」=「もとにする大きさ」を求める(等分除)</b></p>	<p><b>小数÷整数</b></p> <p><b>「もと=1つ分」から「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>整数÷小数</b></p> <p><b>「割合の見方」を小数で(基準量)</b></p>	<p><b>割合</b></p> <p><b>基準量を求める(第3用法)</b></p>	<p><b>速さ</b></p> <p><b>速さを求める(基準量)</b></p>	<p><b>分数÷分数</b></p> <p><b>基準量を求める</b></p>
	<p><b>かけ算(1)</b></p> <p><b>「倍」を意識</b></p>	<p><b>わり算、テープ作り</b></p> <p><b>「もとにする大きさ」の「いくつ分」かを求める(包含除)</b></p>	<p><b>小数÷整数、倍の計算</b></p> <p><b>「いくつ分」から「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>整数÷小数</b></p> <p><b>「割合の見方」を小数で(倍、割合)</b></p>	<p><b>割合</b></p> <p><b>割合を求める(第1用法)</b></p>	<p><b>速さ</b></p> <p><b>時間を求める(倍、割合)</b></p>	<p><b>分数÷分数</b></p> <p><b>倍、割合を求める</b></p>	

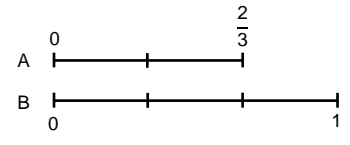
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
	<p><b>ひきざん</b></p> <p>左ひくは、わたしを入れて6人で、全員で9人から、わたしの右ひくは9-6で、3人です。 (順序数を含む減法)</p> <p><b>ひきざん</b></p> <p>あめは9つで、ガムはあめより3つ少ないので、9-3をして答えは6つです。(求小)</p> <p><b>ひきざん</b></p> <p>1人が1つずつおかわるので、5人おかわります。だから、おかわらない人は、7-5で2人です。(異種のものの数量を含む減法)</p> <p><b>ひきざん</b></p> <p>あめを3つもらったら全部で5つになったので、はじめの数は5-3をして2こです。(増加前推論, 2年)</p> <p>参考: みんなと学ぶ小学校算数(学校図書) 新しい算数(東京書籍)</p>	<p><b>かけ算(1)</b></p> <p>3cmが1つ分で、その2つ分だから3×2です。</p> <p><b>1つ分を意識</b></p>	<p><b>かけ算の筆算</b></p> <p>長いなわの長さは、短いなわの長さをもとにすると3つ分だから、140×3です。</p> <p><b>「1つ分」=「もとにする大きさ」を使って求める</b></p>	<p><b>倍の計算</b></p> <p>180cmを1としたとき、3にあたる長さを求めるので、180×3です。</p> <p><b>「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>分数×整数</b></p> <p>2/5を1としたとき、2にあたる大きさを求めるので、2/5×2です。</p> <p><b>分数×整数(比較量)</b></p>	<p><b>割合</b></p> <p>300㎡を100(1)としたとき、20(0.2)にあたる数を求めるので300×0.2です。</p> <p><b>比較量を求める(第2用法)</b></p>	<p><b>速さ</b></p> <p>68kmを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので68×2.5です。</p> <p><b>道のりを求める(比較量)</b></p>	<p><b>分数×分数</b></p> <p>3/5 dLを1としたとき、5/2にあたる大きさを求めるので3/5×5/2です。</p> <p><b>比較量を求める</b></p>
	<p><b>かけ算(1)</b></p> <p>3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4で12です。</p> <p><b>「倍」を意識</b></p>	<p><b>かけ算の筆算</b></p> <p>1つ分の値段をもとにすると全部の代金は3倍だから、20×3です。</p> <p><b>「1倍」=「もとにする大きさ」を使って求める</b></p>	<p><b>小数×整数</b></p> <p>0.3Lを1としたとき、6にあたる大きさを求めているので、0.3×6です。</p> <p><b>「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>整数×帯小数</b></p> <p>80を1としたとき、2.3にあたる大きさを求めるので、80×2.3です。</p> <p><b>帯小数倍へ(比較量)(2.3)</b></p>	<p><b>割合</b></p> <p>24を100(1)としたとき、125(1.25)にあたる大きさを求めるので、24×1.25です。</p> <p><b>百分率へ(比較量)(1.25)</b></p>	<p><b>速さのまとめ</b></p> <p>0.34kmを1としたとき、5にあたる大きさを求めるので、0.34×5です。</p> <p><b>道のりを求める(比較量)</b></p>	<p><b>整数×分数</b></p> <p>3kmを1としたとき、4/3にあたる大きさを求めるので、3×4/3をしてです。</p> <p><b>分数倍へ</b></p>	
	<p><b>かけ算(1)</b></p> <p>3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4で12です。</p> <p><b>「倍」を意識</b></p>	<p><b>□を使った式</b></p> <p>1本分の値段を□とすると、□がもとのので、全部の代金はその10倍だから、□×10=800です。</p> <p><b>「1倍」=「もとにする大きさ」を使って求める</b></p>	<p><b>整数×帯小数</b></p> <p>20mを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので20×2.5です。</p> <p><b>帯小数倍から導入(2.5, 1.5)</b></p>	<p><b>整数×純小数</b></p> <p>80を1としたとき、0.8にあたる大きさを求めるので80×0.8です。</p> <p><b>純小数倍へ(比較量)(0.8)</b></p>	<p><b>割合</b></p> <p>24㎡を100(1)としたとき、25(0.25)にあたる数を求めるので24×0.25です。</p> <p><b>百分率へ(比較量)(0.25)</b></p>	<p><b>速さのまとめ</b></p> <p>60kmを1としたとき、1/3にあたる大きさを求めるので、60×1/3です。</p> <p><b>道のりを求める(比較量)</b></p>	<p><b>比とその利用</b></p> <p>砂糖と小麦粉の重さの比は5:7。砂糖の重さは、小麦粉の重さを1としたときの5/7にあたります。だから、140×5/7です。</p> <p><b>「割合の見方」で</b></p>	



# 分数の系統図(土堂小学校)



## 5年 割合分数



もとする量を1としたときの比べられる量の割合を表す。

Bを1としたとき、Aは $\frac{2}{3}$ にあたるよ。



これまでに学習した整数倍、小数倍をもとに、分数倍を指導する。その際、 $\frac{4}{3}$ 倍は「もとの大きさを1としたときの $\frac{4}{3}$ にあたる大きさ」であることや「もとの大きさを3等分した大きさの4つ分の大きさ」であることをおさえる。分数を用いると、小数倍では正確に表せない場合でも、倍を表すことのできるよさに気付かせる。

## 商分数

整数の除法の結果(商)を表す。

$2 \div 3 = \frac{2}{3}$ と表すことができるよ。  
小数ではわり切れないけれど、分数だと正確に表せるよ。



2Lの牛乳を1人~5人で分けたときの1人分を考え、3人で分けたときに商が0.666...となって割り切れないことから、分数を用いた表し方を考える。その際、量分数の学習を振り返り、もとする量は1Lでなければならないことをおさえる。

分数の意味	もとする量が任意であり、具体物を等分割したもののいくつか分を表す。	もとする量が1mや1Lといった普遍的な基本単位であり、測定した量の大きさを表す。	もとする量が数の「1」であり、1を等分割したもののいくつか分を表す。
子供の姿	<p>ピザを4等分した1つ分の大きさをピザの<math>\frac{1}{4}</math>というよ。</p>	<p>1mを3等分した1つ分の長さを<math>\frac{1}{3}</math>mというよ。 1Lを3等分した1つ分のかさを<math>\frac{1}{3}</math>Lというよ。</p>	<p>1を10等分した3つ分の大きさを<math>\frac{3}{10}</math>というよ。0.3と同じ大きさだ。1を6等分した1つ分が<math>\frac{1}{6}</math>で、それが7つ分だと<math>\frac{7}{6}</math>だ。</p>
指導のポイント	具体物を半分にするなど、具体物を操作することによって、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{8}$ などの大きさをつくり、等分の意味をおさえる。また、もとの大きさとその $\frac{1}{2}$ の大きさや $\frac{1}{4}$ の大きさなどを比べ、その観察を通して、乗法や除法の素地となる見方を指導する。さらに、もとする大きさが変われば、同じ $\frac{1}{4}$ でも大きさが異なることをおさえる。	1mのテープなどの具体物を操作することによって、 $\frac{1}{2}$ m、 $\frac{1}{3}$ m、 $\frac{2}{3}$ mなどの具体的な量をつくり、分数を用いて長さやかさなどの具体的な量を表すことができることを指導する。分割分数としての $\frac{1}{3}$ はたくさんあるが、量分数の $\frac{1}{3}$ mは1つしかないことや、分割分数はもとの大きさを超えないが、量分数は1mや1Lを超える大きさが存在することをおさえる。	1を10等分した1つ分の大きさが $\frac{1}{10}$ であり、0.1と等しい大きさであることを指導する。また、「 $\frac{3}{10}$ は $\frac{1}{10}$ の3つ分」など単位分数のいくつかで数えたり、表したりすることを大切にする。また、1を10等分した目盛りで $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{5}$ の位置を考えることなどを通して、数としての分数はもとする量が常に数としての1であることをおさえる。

※ 本系統図は、福岡教育大学・准教授・岩田耕司氏の指導のもと、以下の文献をもとに作成している。  
 ・文部科学省(2018).『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編』, 日本文教出版, pp.245-246.  
 ・山村翔(2017).『算数科における系統的な分数指導の研究』, 福岡教育大学卒業論文(未公開).

自分に身に付いてきた「コンピテンシー」(資質や能力)を振り返ろう。( )学期 年 組 番 名前( )

	活動内容		活動内容
①		⑨	
②		⑩	
③		⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	

あてはまるところだけ印を付けましょう。よくできた◎ できた○ あまり△ ※全部に○, △, ×を付けなくていいです。

コンピテンシー		活動番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
スキル																		
いよく 意欲・態度	たいど																	
かちかん 価値観	りんりかん 倫理観																	
ち 知	しき 識																	

付けたい力, なりたい姿(すがた)

	がんばったこと, 成長してきていることなど	もっと~してみたいこと, 次の目標など
①		
②		
③		
④		



⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		
⑮		
⑯		

# III 実践のまとめ

# 本当に抜いているみたいに読もう！

国語

第1学年

尾道市立土堂小学校

指導者 灰垣 亜希子

単元名

## なりきって よもう！おおきなかぶ 1年 おおきなかぶ

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 単元の最後に音読発表会を行うことを通して、読み取る際に、叙述から想像を広げたり、自分の思いを表現したりしている。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、音読発表会を行うという言語活動を設定し、「本当にかぶを抜いているみたいに読む」という目標をたて、学習の目的をもたせた。単元の始めには、お話を読んで不思議だと思ったところを挙げさせ、不思議だと思ったことを解決しながら読み取っていくことを確認した。場面の様子を想像して読み取った一人一人の理解や感想などを音読に反映させられるよう、教科書の挿絵だけではなく、絵本の挿絵も活用しながら、登場人物の表情や様子などに注目し、気持ちを想像できるような時間を確保した。

### 3 具体的な実践の場面

#### (1) 第一次・・・課題の設定

単元の最後に音読発表会をすることを伝え、どんな音読をしたいかを考えた。大きな声で読みたい、はっきりと読みたい、本当にかぶを抜いているみたいに読みたいという目標を個々に立てた。教師の範読を聞き、初発の感想を書く際、不思議だと思ったところを書くよう伝え、問いを出させた。

<初発の感想から出た問い>

- ・ どうしてかぶの種をまいたのか。
- ・ どうしてかぶはとてつもなく大きくなったのか。
- ・ どうしてねずみの力で抜けたのか。
- ・ すごく大きいかぶなのにどうして抜けたのか。
- ・ どうして動物も抜くのか。

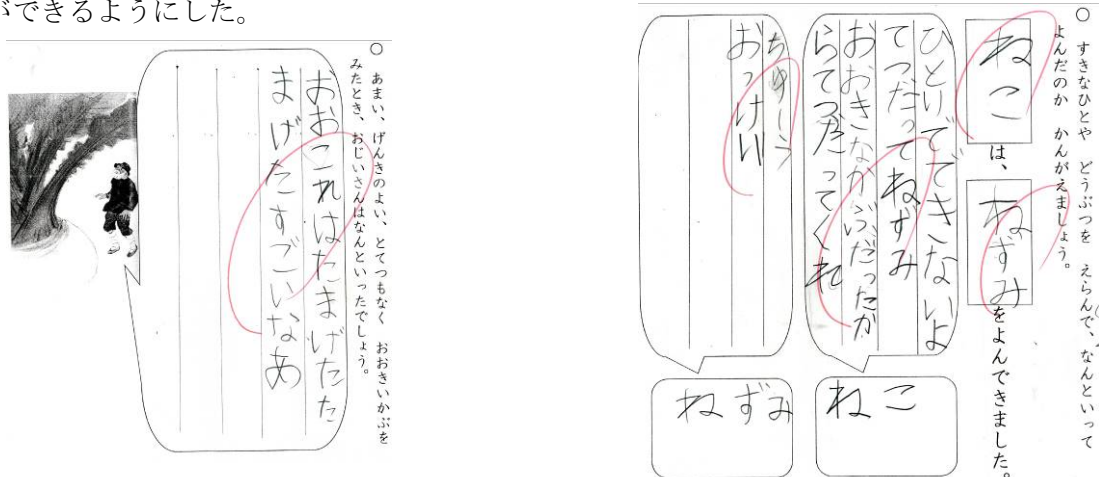
#### (2) 第二次・・・情報の収集、整理・分析

前単元の物語文「とん こと とん」に比べて本単元は長文なので、場面ごとに分けて登場人物の行動に沿って気持ちを丁寧に読み取っていった。そのために、まず家庭学習や、毎回の授業の最初には音読を繰り返し行った。全員で全文をただ読むだけではなく、列ごとにおじいさん、おばあさん・・・と役割を与え、音読をしながら順序を捉えたり、かぶを抜く人数が増えていることを



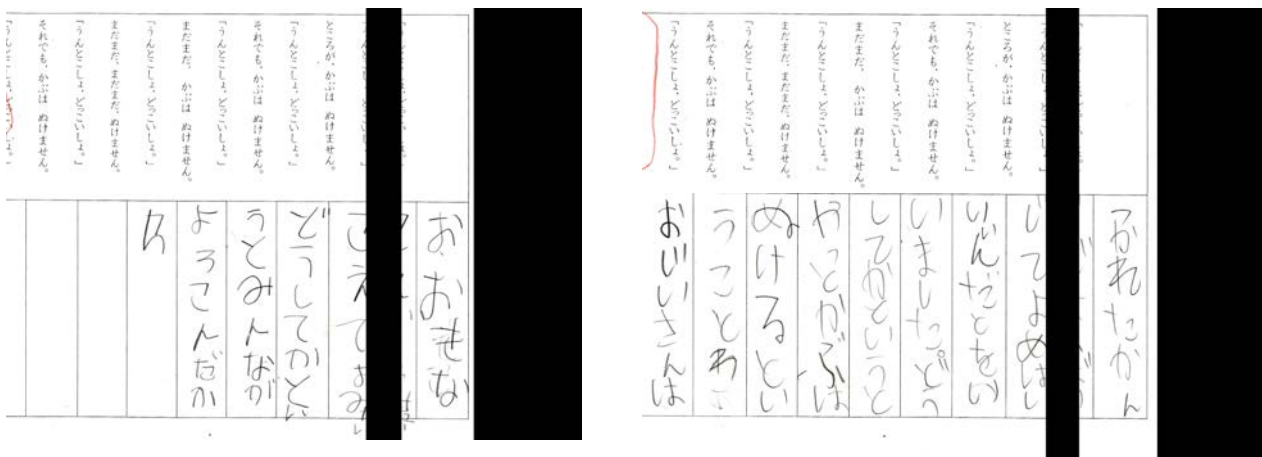
捉えたりした。場面ごとに、どの問いが解決できそうかを考え、みんなで出した問いを解決しながら読み進めていった。

また、気持ちを表現させる手段として、吹き出しを活用した。かぶが抜けずに応援者を呼んでくる時の登場人物の気持ちや会話、頑張っているのになかなかかぶが抜けなときの気持ちや会話、やっと抜けたときの気持ちや会話などを、吹き出しを使って書かせることで、想像をふくらませながら読み取ることができるようにした。



(3) 第三次・・・表現・まとめ (本時6/8)

第二次で場面ごとに読み取ったことを生かして、場面の様子を振り返りながら音読発表会の練習をした。まず、どの部分の読み方を考えたいかを決め、どのように読みたいかを書かせた。



「どのように読みたいか」は全員が書くことができた。しかし、「みんなが喜んでいいるから大きな声で読みたい」「最初から抜いているから疲れた感じで読みたい」「ずっと抜けなかったのにやっと抜けたから喜んでいいるように読みたい」というように登場人物の気持ちと併せて考えている児童はとても少なかった。

4 考察 (成果や課題の要因, 今後の単元の改善に向けて)

- 音読を繰り返し行ったことは、とても効果的だった。初発の段階で問いを出すことは難しいので、本単元に入る前から、家庭学習の中に音読を取り入れた。それにより、様々な問いを出すことができたと考える。
- 1年生の発達段階から考えると、「なぜ大きな声で読みたいのか」「なぜ喜んでいいるように読みたいのか」というように「なぜ」を考えることは難しかったと感じた。理由にこだわらず、物語そのものを楽しんで音読ができるような手立てを考えることが必要だったと考える。

# 音読を工夫して紙芝居を発表しよう!

国語

第2学年

尾道市立土堂小学校

指導者 岡 明美

単元名

## 紙芝居で伝えよう 2年 お手紙

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元でめざす資質・能力

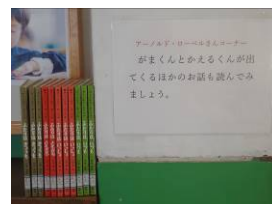
【思考力・表現力】

- 叙述を手がかりに、大まかな展開をとらえることのできる思考力や音読で登場人物の気持ちを表現する力を育成する。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、文学的文章読解の基本として、物語がいくつかの場面からできていることを知り、場面ごとの人物の様子や気持ちを押さえながら読む力を付けることをねらいとする。

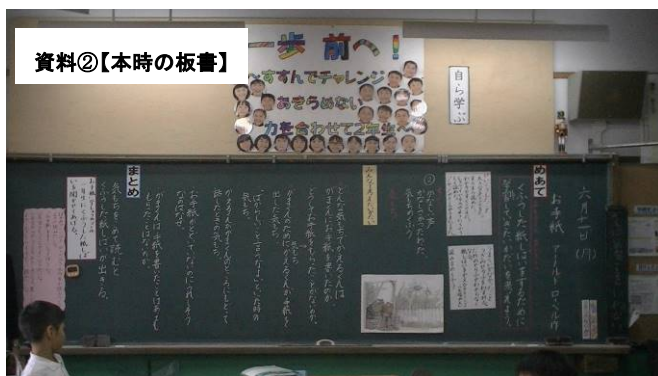
導入では、教材文を読んだ初発の感想を発表し合い、単元のゴール「1年生に紙芝居を聞かせてあげる。」に向けて学習で解決していきたい課題を設定した。二次では、場面ごとに課題について意見を出し合い、友達の考えを知ることにより考えを広げることができた。三次では、みんなで話し合ったことをもとに1年生を楽しませることを目標にしながら、紙芝居の練習をした。紙芝居の発表を通して達成感を味わうとともに、「課題を解決してよかった。」「次も解決していきたい。」という気持ちを味わわせたいと考えた。



資料①【アーノルド・ローベルさんの本のコーナー】

### 3 具体的な実践の場面

(1) 課題を設定する。



教師の紙芝居の読み聞かせを聞き、自分たちも紙芝居をやってみたいという意欲を持たせた。その時に、誰に聞かせてあげたいかを尋ねると、学校探検を一緒にやった1年生に聞かせてあげたいという答えで全員が一致した。本時では、1年生に工夫した読み聞かせをする際にどんな工夫をすればよいのか、教師の2つの音読(悲しい気分の場面を明るく元気に読んだ場合と沈んだ悲しい声で音読した場合)の聞き比べをし、「気持ちをこめた読み方をしたい。」「気持ちを想像したい。」という視点を持たせた。その際に、どの場面の誰のどんな気持ちを考えたいかを課題としてみんなで考えた。初発の感想で出ていた課題も教師が控えており、意図的指名をして課題を増やしたり、教師が不思議に思っていることを課題に設定したりして、バランスよくどの場面からも課題を作ることができた。児童は、話し合いをしたことにより、自分たちが考えた課題を解決することができたという思いをもつことができた。

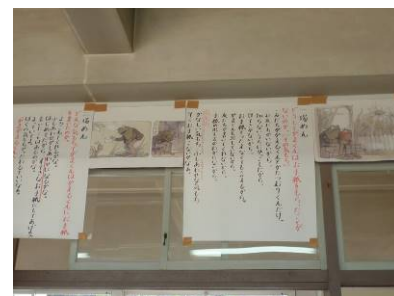
～本時で出てきた課題～

- ・どんな気持ちでがまくんはかえるくんの手紙を書いたのか。(2場面の課題になった。)
- ・どうしてがまくんは手紙をもらったことがないのか。(1場面の課題になった。)
- ・がまくんのためにかえるくんが手紙を出した時の気持ち。(2場面の課題になった。)
- ・「ばからしいこと言うなよ。」といったときのがまくんの気持ち。(3場面の課題になった。)
- ・かえるくんががまくんのところにもどってきて話をしたときの気持ち。(3場面の課題になった。)
- ・お手紙が届いていないのに二人がしあわせそうなのはなぜ。(教師から提示：4場面の課題となった。)
- ・がまくんは手紙を書いたことはあってももらったことはないのか。(どの場面にもあてはまらない)
- ・長いこと待っていた時の気持ち。お手紙をもらってがまくんがとても喜んだ時の気持ち。(5場面の学習時に児童と設定)

## (2) 課題を解決する。

みんなが考えた課題を短冊に書き、教室に掲示した。

1場面から、どれが解決できるかを児童に選択させ、その時間の課題とした。まず自分の考えを持たせ、ペアで交流した後、全体交流をし、考えを広げていった。児童の中には、友達の考えを聞くことによって考えが広がるのがうれしくて、友達の考えをノートにどんどん書き込む様子も見られるようになった。授業で出た考えは、すぐに思い出せるように、教室掲示をした。そのことにより、その場面の前後の関わりを見たり、比べたり、登場人物の気持ちを思い出したりすることができたのがよかった。



資料③【学習の足跡の掲示】

## (3) 学習のゴール「1年生に紙芝居を聞かせてあげる。」

二次で課題解決をし、それを生かして紙芝居を練習しようとなったところで、いろいろな事情により少し間が空いてしまった。子供たちは、その間も紙芝居のことを忘れることはなく、モチベーションを保つことができた。紙芝居を練習するときも、教室掲示の学習の足跡を読んで思い出し、紙芝居練習をすることができた。実際に1年生に紙芝居をした後の児童は、とても満足気であった。振り返りの時に、「緊張したけれど、楽しかった。」「課題を解決して、みんなの考えをたくさん聞き、紙芝居ができたのがうれしかった。」という感想を聞くことができた。



資料④【紙芝居の発表】

## 4 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 児童は、4月に一つ上の学年に上がり、自分達よりも年下の1年生に何かしてあげたいという気持ちを強く持っている。そのことにより、紙芝居を聞かせてあげたいという気持ちのモチベーションを持ち続けることができた。お手本になるような紙芝居にするために、気持ちを込めた読み方をしたいという願いから、登場人物のどの気持ちを考えたいかという枠組みの中で課題を考えたので、解決しやすい学習課題となった。こちらが期待していた学習課題と少しずれていたが、子供たちの発想から出てきた課題は児童にとっては考えやすかったようで、よい意見がたくさん出た。友達の意見を聞くことの楽しさやそれを解決していった後の喜びを味わうことができたのがよかった。
- 初発の感想でよい課題を考えている児童がいたが、友達との交流や全体の場で発表ができず、取り上げることができなかったのが残念であった。そういった児童にもっと自信を付けてもらうために、これからも課題設定を児童と共に取り組んでいきたい。

# 物語のみ力を知り、いろいろな物語を読もう！

国語

第3学年

尾道市立土堂小学校

指導者 重光 泰徳

単元名

## ブックトークでしかけのある物語を紹介しよう

3年 ゆうすげ村の小さな旅館

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- しかけを探すために、それぞれの場面の出来事に関連づけ、文章中の語や表現に着目して読んでいる。
- 自分のお気に入りの物語の魅力友達に伝えようとしている。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、物語のしかけをさがす活動を通して、それぞれの場面の出来事に関連づけ、文章中の語や表現に着目して読む力を身に付けることをねらいとする。本単元を通して、物語の魅力に気づき、「もっといろいろな物語を読もう」とする児童を育てる。

そのために導入では、クラスの課題として、「本を読む児童は多いが、物語を読む児童が少ない」ということに気付かせる。そこから、教師のおすすめの本としてしかけのある本を読み聞かせし、本教材への興味付けを図る。「物語のみ力を知って、いろいろな物語を読もう」という単元を通じたためあてを提示し、単元の最後に自分のお気に入りの物語を紹介することを予告し、そのために本教材を読み、物語の楽しさを味わうという読む目的、必然性を持たせる。

### 3 具体的な実践の場面

(1) 「問い」を手掛かりに主体的で対話的な深い学びを実現するための指導の工夫

第一次

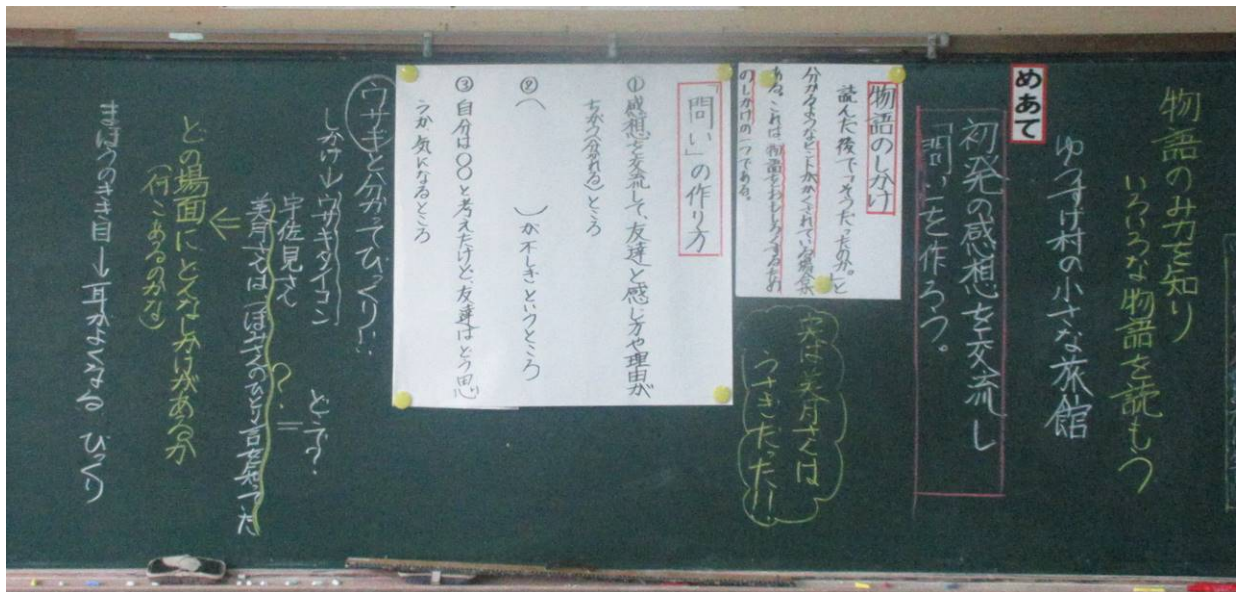
資料①【司書教諭にしかけのある本やおすすめの本を紹介してもらい、司書教諭おすすめコーナーをつくる】



まず、児童に自分たちは、本が好きであるが物語を読んでいないという実態に気付かせた。次に、司書教諭に、物語を読むことのよさを話してもらうとともに、しかけのある本やその他のおすすめの本を紹介してもらい「司書教諭おすすめコーナー」を設けた。さらに、「担任おすすめコーナー」も設け、読書環境を整えた(資料①)。並行読書ができるようにしておくことで、最終的に自分のお気に入りの本を選ぶことができるようにした。

第二次

初発の感想から出た「問い」を基に、物語のしかけを探していった(資料②)。しかけを探していく中で、「つぼみさんは、美月さんがウサギと分かったのに、なぜ、エプロンを置いていったのか」「美月さんは、最後の手紙でなぜ、『ウサギの美月より』と、ウサギをつけたのか」という新たな「問い」を作り、話し合っていた。話し合いの際には、ペアやグループで話し合う活動を取り入れ、自分の考えをもてるようにした。友達の意見を聞くときは、自分の意見と比べながら聞き、質問したり意見を言ったりしながら話し合わせた。話し合いを進める中で、つぼみさんや美月さんの気持ちの変化や人柄に気付くことができ、物語のおもしろさを味わうことができた。さらに、しかけを探すためのこつを見付けるために、本文で見付けたしかけを分類し、しかけのある本コーナーのしかけ見付けへの意欲付けを図ることができた。振り返りで、自分の考えの変容について書かせ、価値付けることで、話し合いのよさや自分の考えが深まったことを感じさせ、友達と話し合う楽しさを実感させることができた。



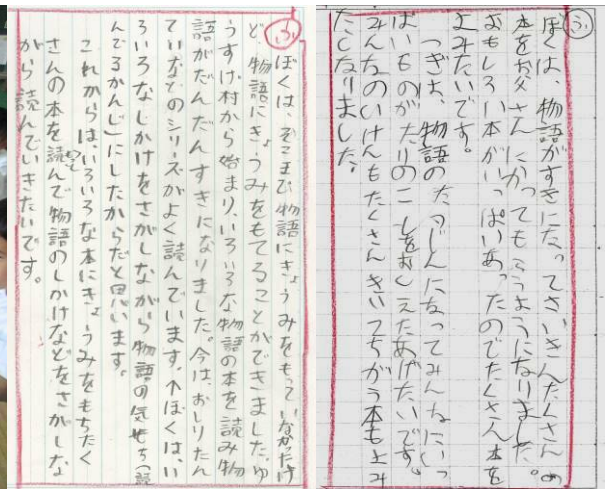
資料②【二次1時間目の板書】

第三次

並行読書で読んでいた物語のうち、自分がお気に入りの本をブックトークで紹介し合った。(資料③) 友達が紹介してくれる本の感想を伝えたり話し合ったりする中で、さらに読みたい本を見付けたり、お気に入りの本を見付けたりする児童がいた。(資料④)



資料③【ブックトーク】



資料④【単元末の振り返り】

4 考察 (成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 導入によって、「どんなしかけがあるのだろう」と興味をもって、物語を読むことができた。初発の感想では、しかけに関する感想が多く出てきて、「本当にこれは、しかけなのか。他にはないのか」という「問い」が生まれ、学習課題を作っていた。しかけかどうか話し合う場面では、意欲的に探し出し、話し合おうと、主体的に授業に取り組む姿が見られた。教師が考えていた以上のしかけを、話合いの中で見付け出すことができた。物語のおもしろさを知り、魅力に気付いたことで、おすすめ本コーナーの物語を読む児童が増え、読書タイムで物語を読んでいた児童が4名から18名に増えた。また、アンケートによると物語が前より好きになった児童は、24名中23人になった。さらに、資料④にあるように、しかけのある物語を発端に興味をもち、ほかの物語を読むようになったり、ブックトークによって、読みたい本を見付けたりして、いろいろな物語に興味をもったりする児童が増えてきた。
- 本単元で児童が考えた「問い」は、「しかけ」に関するものばかりになり、教師が考えていた「問い」が出なかった。教師が出させたい「問い」と児童が出した「問い」のギャップをうめるために「問い」を考える際の手立てや支援を、今後研究していく必要がある。



# 物語の「面白さ」を見つけ、構成の秘密を解こう！

国語

第5学年

尾道市立土堂小学校

指導者 赤羽 夏美

単元名

## 物語はなぜ「面白い」！？秘密の物語 SHOW☆NOTE Part1 5年 世界でいちばんやかましい音

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 物語の構成を捉え、山場で起きた変化と面白さを関連付けて読むことができる。
- 自分で選んだ本でも、山場での変化が起きているかを見付け、ノートに書くことができる。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

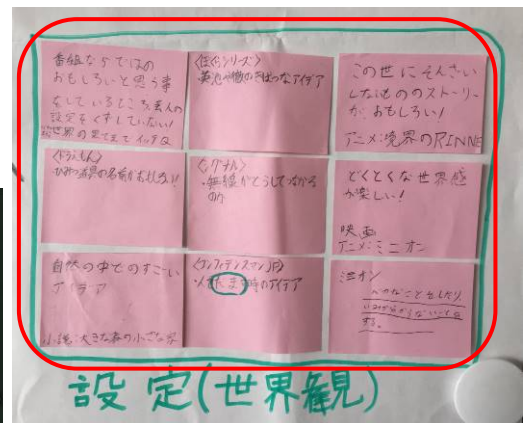
本単元では、導入時に「自分たちがどんなものを面白いと感じるか」を振り返ることで、「面白さ」を分析することから始めた。改めて聞かれると客観的にまとめづらいものの、出し合っていく中で共通点を見出すことができた。その共通点は、「国語科の教材にも通ずるのか」「この先に出会うものにも同じ要素があるのか」という視点で、物語の読みをスタートした。また、物語を「問い」を手掛かりに読み進め、読みの深まりが新たな「面白さ」の発見につながる体験をすることができたら、自力読みで読みを深める力の育成につながると考える。

### 3 具体的な実践の場面

#### (1) 「問い」を手掛かりに主体的で対話的な深い学びを実現するための指導の工夫

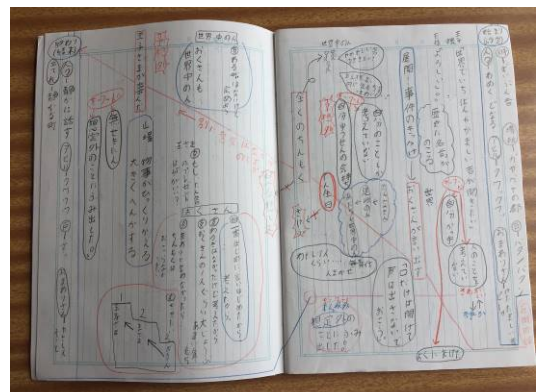
第一次 「面白さ」とは何か？を考える。

児童アンケートで81%が物語や小説を好きだと答えていたこと、その理由として「面白いから」というものが最も多かったことを児童に提示し、「面白さ」とは何かを考えた。今まで読んだ物語や小説だけではなく、映画やアニメなどで何を面白いと思ったかを出し合った結果、「設定(世界観)」「キャラクター(人物)」「展開」「表現」「読者への影響(読後感)」の5つに分類することができた。その上で教材文を読み、「面白さ」を考えるとともに、教材を通して考えていきたい「問い」を出し合った。

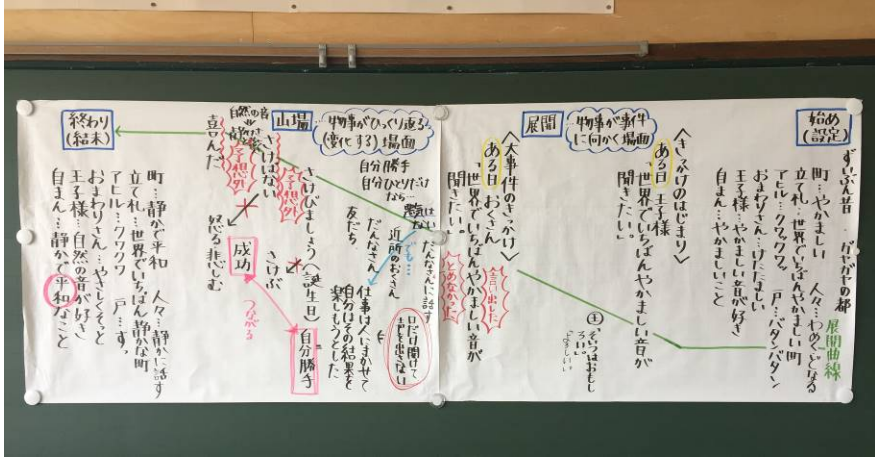


第二次 「問い」を手掛かりに読み、「面白さ」を再発見する。

初発の感想から出た面白さの「設定」「人物」「表現」を全体で整理した後、「展開」部分と「問い」が物語の山場に集まっていることから、構造曲線を使って「なぜ王子さまは喜んだのか」「なぜみんなだまることに賛成したのか」など、児童が考えた「問い①」を考えていった。その時に、物語が「設定」「展開」「山場」「結末」という構成になっており、展開部分が山場に向かってつながっていることを確認しながら学習を進めた。学習



は板書をそのままノートに写すのではなく、友達と話して気付いたことや、全体交流で学んだことを各自でノートに書きこんで思考の整理を行った。学習を進める中で、「奥さんとだんなさんの自分勝手な考えが全くの沈黙を生んだのではないか」「いや、みんな悪気はなかった、と書いてあるから自分勝手とは言えない」「自分勝手というのはもっと悪意があるときに使う言葉ではないか」という新たな「問い②」が生まれ、話し合っていた。ペア、グループ、全体などの話し合いを行う中で、叙述から「みんな自分のことを一番に考えて行動したので、自分勝手なのではないか」という考えがまとまった。そこで教師から、「では、王子様の誕生日を祝うことは成功したと言えるのだろうか」という「問い③」を投げかけた。「みんな自分勝手な行動をしたのに、成功したとは言えないのではないか」「町は平和になったし、成功したのではないか」「そもそも何がどうなったら成功と言えるのか」と話し合いが進み、最終的には「王子様が喜んでくれることが一番の成功だ」という考えにまとまった。振り返りで、初発の感想で見つけた「面白さ」が、「問い」を通して広



がったかどうかという質問に、広がった児童が15人、「変わらなかった」児童が6人だった。また、児童自身が初発の感想でもっていた「問い①」、学習の中で出てきた「問い②」、教師が投げかけた「問い③」で、どの問いを考えることが楽しかったかという質問に関しては、「問い③」が14人「問い②」が6人、「問い①」が1人であった。

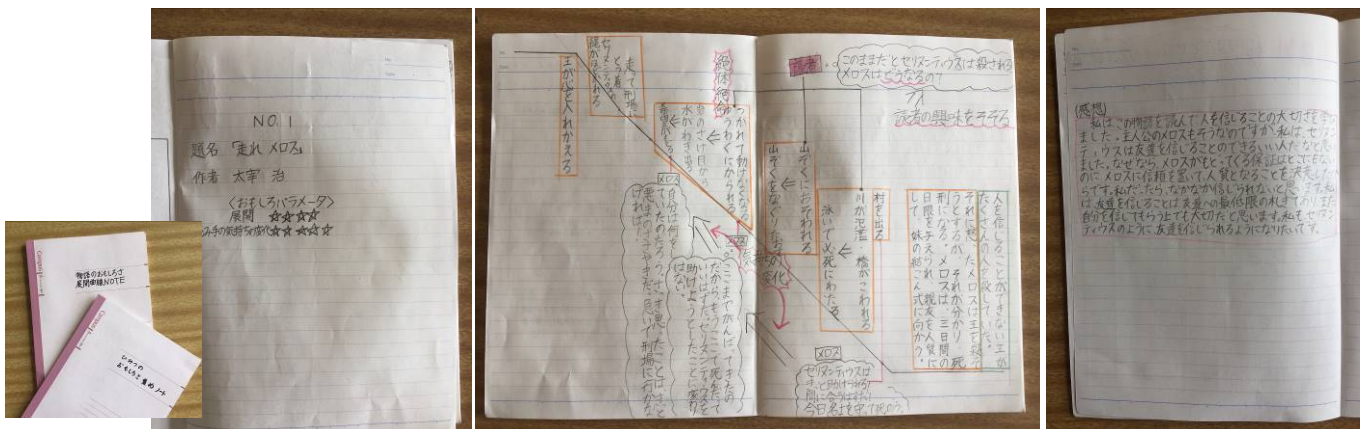
第三次 選んだ本の「面白さ」を「秘密の物語 SHOW☆NOTE」にまとめる。

自分が選んだ本の「面白さ」を5つの視点でまとめた「秘密の物語 SHOW☆NOTE」を書いた。ノートの題名は各自で好きなものをつけ、「設定」(緑)「人物」(黄色)「表現」(青)「展開」(オレンジ)「読者の変化」(ピンク)で表した。1ページ目は題名・作者・面白パラメータを書き、自分がどのポイントを面白と感じたか整理してノート作りを行った。

<1ページ目>

<2, 3ページ目>

<4ページ目>



**4 考察 (成果や課題の要因, 今後の単元の改善に向けて)**

- 構造曲線を使って学習することによって、「山場」で物事が大きく変化したり逆転したりすることが「面白さ」につながるという物語の構成を理解できた児童が多かった。
- 1次と3次が「面白さ」、2次が「問い」というように児童の思考がスムーズに流れにくい単元構成であったために、「問い」を生かして「面白さ」を考えることが難しかった。
- 振り返りで児童が一番考えることが楽しかったのは、やはり教師からの問いかけであったことから、どのように学習を進めたらより質の良い「問い」が生まれるのかに課題が残った。

# 対話を通して主題を練り直そう！

国語

第6学年

尾道市立土堂小学校

指導者 亀本 拓朗

単  
元  
名

## 主題は本当にこれなのかな？ 6年 風切るつばさ

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

### 1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。

【主体性・積極性】

- 多様な考えを対話によって分類・整理し、目的を意識して再構成しようとする。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、人物の行動や気持ちの変化、物語の構造に着目して読み、叙述をもとに内容を正確に捉えるための読解の手がかりを学ぶことをねらいとする。

導入では、話すこと・聞くこと領域の単元「意見と理由とのつながりを聞き取ろう」で行ったディベートを本単元においても行うことを知らせ、その論題を『風切るつばさ』を用いて作るという方向性で導入を行い、教材文を読む目的意識をもたせる。

単元二次の前半において主題（仮の主題）を読み取らせる。そして、ディベートもしくはディベート的な話し合いを繰り返す中で、児童の考えが少しずつ変容していくことをねらっていく。二次の最後の時間では、再度主題をまとめ、仮の主題と比べさせることで、自身の考えが変容したことを感じさせることを意図した。

### 3 具体的な実践の場面

#### （1）年間を見通した対話的活動への取組

校内研修において、対話的活動を①教材との対話②他者との対話③自分との対話の3種類と捉えた。その中で特に②と③の対話的活動について、様々な文献を参考にしながら、1年間の児童の成長のイメージを教師の指導内容とセットにして見通しをもった。対話的活動、特に②に取り組み始めた時には、例えば、特定の仲の良い友達としか話し合わない児童やテーマに関係のないことを話す児童など、教師にとって指導の対象となる児童が必ずいるものである。このような児童に出会った時に、「対話的活動をすると、児童が不真面目になる。」と教師が感じ、すぐに対話的活動を止めてしまう。このような場当たり的な指導をしていては、児童は豊かなコミュニケーション能力をもった1人の人間へは成長をしていかない。年間を見通しを教師がもつことによって、目の前のマイナスの姿をいかにプラスに成長させていくかということについて冷静に考えられるようになる。対話的活動、特に②について毎時間の授業で「浴びるように」経験させ続けることで、他者と対話する良さを感じてもらい、他者と対話しよ

うとする態度、情報源に自らアクセスしようとする態度など、変化の激しい社会を生き抜くための主体性・積極性を育むことをねらい、現在も実践を重ねているところである。また、年度当初に立てた年間の見通しを、児童の実態と摺り合わせて修正していく作業も行っている。

本時においては、ディベート的な話し合いとして、①自分の考えを書く②同じ立場の人と話し合う③違う立場の人と話し合う④自分の考えをまとめるという流れで活動を行った。

## (2) 児童の変容

### 資料①【二次前半と二次後半におけるA児が読み取った主題の変容】

〈単元前半〉

主題…友じょう

理由…クルルがカララを助けたから。

〈単元後半〉

主題…本当の思いやり

理由…クルルはむれのツルのことが信じられなかったけど、カララがクルルの横に来てくれたところくらいから、「クルルの心が少しずつとけていく気がした」のところくらいから、少しずつ信じられるようになったから。その後、つきとばしたところで、その思いが一番大きくなって、カララのことを本当に信じられるようになったんだと思う。

※児童の記述のまま

資料①を見ると、児童Aは、二次前半では、「クルルがカララを助けた」という一つの行動からのみ読み取りの理由を説明していたが、二次後半では、クルルがカララを信じられるようになったという心情の部分で「クルルの心が少しずつとけていく気がした」という叙述を根拠として理由を説明している。学級全体の話し合いの事実として、二次の前半において、クルルの心情の変化に着目した児童Bが心情曲線を用いて、自分の考えを説明するようになった。その姿を「伝え方も人それぞれ自分らしさを発揮しても良いですね。」と全体で取り上げたことで、グラフや図を用いて心情の変化を説明する児童が増えた。児童Aは、もともと児童Bを話し合いの相手として選ぶことが多かった。そのため、児童Bが心情曲線で表現した「クルルがカララを信じる心情の強さ」について繰り返し説明を受けるのをよく目にした。他者との対話によって、「行動」のみではなく「心情」という視点によっても教材を読むことができるようになったと考えられる。

## 4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 対話的活動の年間の見通しをもつことによって、授業中、どのような児童の姿を価値付ければよいか具体的に想定できるようになった。
- 他者との対話を授業中に必ず設定することで、読みの視点を新たに獲得する児童が増えた。
- 今回は、児童に問いを考えさせる活動と言語活動としてディベートを設定することを組み合わせた。その意図は、児童が問いを設定する場面において思考の拡散しすぎることを防ぐためである。ディベートを、思考のフレームを規定するものとして機能することを意図した。そのフレームとは、①問いは、「AかBか」「○か×か」という立場を決められるもの②問いは、「叙述を根拠にすれば説明できるもの」である。このフレーム自体は、「思考を拡散する」という意味では機能した。しかし、「教材との対話」を促すものとしては機能しなかった。単元構想においては、読みを深めるために、「教材といかに出合わせるか」という視点で、一次を構想しなければならない。

# ひきざんのけいさんのしかたを かんがえよう!

算数

第1学年

尾道市立土堂小学校

指導者 渡邊 翠大

単元名

## むかしばなしは たのしいな! 1年 ひきざん(1)

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性 思考力・表現力

### 1 単元でめざす資質・能力

【主体性・積極性】

- 学習に対して意欲的に取り組み、進んで問題を解こうとしている。

【思考力・表現力】

- ブロック操作や図、式、言葉で考え、友達同士で考えを交流し合う。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、昔話と関連させて、問題提示を行った。そうすることで児童が意欲的に学習できる環境を意図的に作り出した。

問題を思考する際には、ブロックを使って考えさせる。これは児童の数的感覚を育むためである。十分にブロック操作で問題を考えさせた後で、図や式などに表現させる。この一連の活動を繰り返し行うことで児童が内容を深く理解できるようにする。

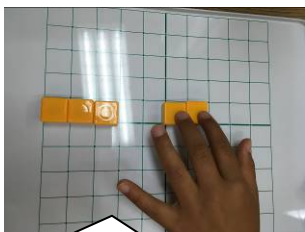
本単元で「求残」、「求補」、「求差」を学ぶ。そのどれもが引き算を使えば計算できるということに、統合的に思考させていく。また、それぞれの場面が区別しやすいように、ブロックの操作の仕方を変えさせる。

### 3 具体的な実践の場面

#### (1) 引き算の場面を意識した単元構成

【第2～5時】

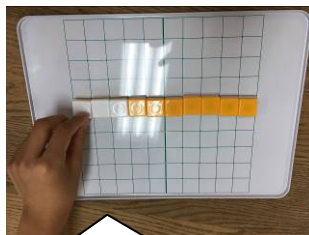
求残の場面を理解し、ブロックの操作や図の描き方を工夫し、計算する。



初めの数量から取ったり、減少したりした時の残りを求める。

【第6時(本時)】

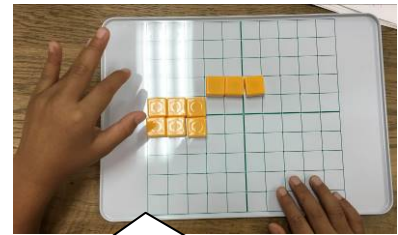
求補の場面を理解し、ブロックの操作や図の描き方を工夫して、計算する。



補集合のブロックの色を変えて、考える。

【第7～8時】

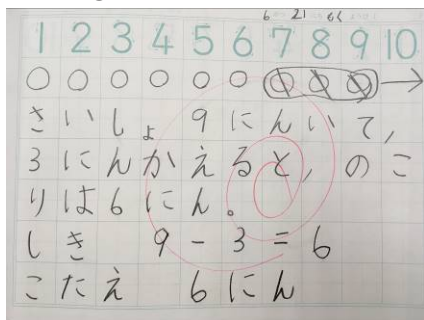
求差の場面を理解し、ブロックの操作や図の描き方を工夫して、計算する。



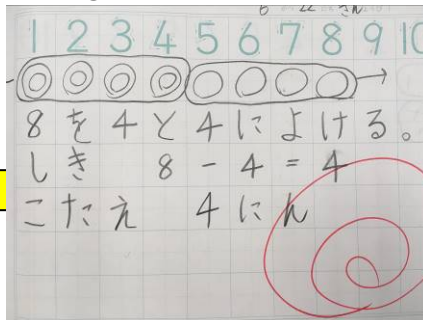
2数を並べ、大小比較をさせ、引き算を用いることに気付かせる。

## (2) 児童の変容

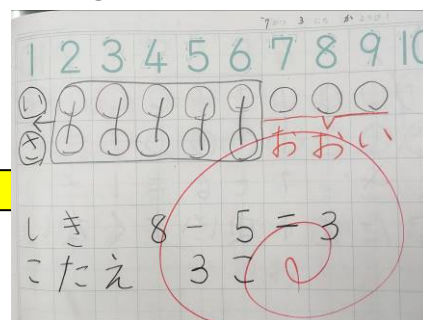
資料①【求残の学習】



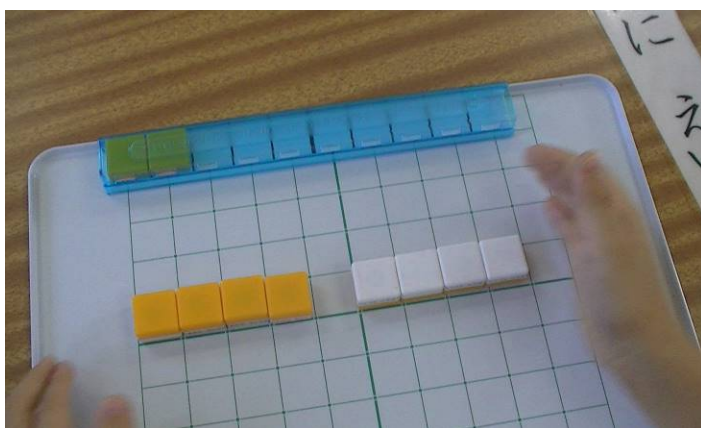
資料②【求補の学習】



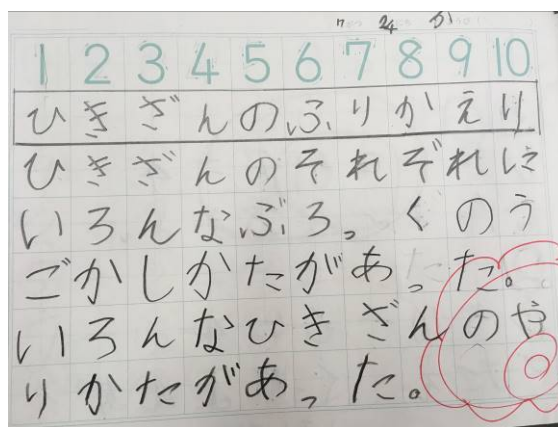
資料③【求差の学習】



資料④【本時のブロック操作】



資料⑤【単元の振り返り】



資料①～③を通して、児童が適切に問題場面を図に表せていることが分かる。求残場面においては、初めの数量をアレイ図で表し、減ったり、少なくなったりした数の分だけアレイ図を囲み、矢印で取り去ったことを表せた。求補の場面では、図を変えて補集合を表すことで、場面の様子を表し、引き算の考え方に気付いた。求差の場面では、2つの数を上下に並べ、線をつないだ。線をつなげることで、つなぐことのできない図が2数の違いであることを視覚的に判断した。

活動を続けていく中で、児童が試行錯誤し、適切なブロック操作や図化ができた。特にブロックの操作活動を全時間に位置づけたことで、児童の引き算の概念を拡張できた。

### 4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 児童がブロックを操作しながら、求残・求補・求差の場面を捉えることができた。ブロックを使うことで、問題がイメージしやすくなることに気付くことができた。
- 求残・求補・求差のブロック操作の違いを明確化する一方、式に表したらどれも引き算になることを押えた。それぞれの場面はすべて引き算で表せることが統合的に理解できた。
- 互いの意見を交流し、考えを深める活動が十分ではなかった。児童の考えやブロック操作を積極的に全体に発表させるとともに、なぜそう考えたのか根拠を述べさせる活動も取り入れていく必要があると考えられる。

# 工夫して長さを表わそう！

算数

第2学年

尾道市立土堂小学校

指導者 綿貫 岳人

単元名

## 長さ博士からの依頼！正しく長さをくらべよう 2年 長さ(1)

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力 主体性・積極性

### 1 単元でめざす資質・能力

【課題発見・解決力】

- 進んで身の回りのものの長さを比較・測定しようとしている。
- 解決方法の見通しを持っている。

【主体性・積極性】

- ものさしを用いて、身の回りの様々なものを測定しようとしている。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、長さについて単位と測定の意味を理解し、長さの測定ができるようにすることをねらいとしている。

課題解決への意欲を高めるために「長さ博士からの依頼」と称して、毎時間依頼書が届くようにした。

導入では、ものさしを使わずに直接比較や間接比較、任意単位によって長さ比べをする方法に気付かせる。次に、長さ比べをするには、同じものを使って比べることや普遍単位の必要性に気付かせていく。

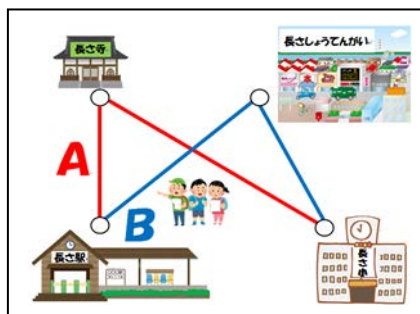
単元の終わりには、長さの単位換算を利用した加減法について学習をしていく。

また、児童同士で意見を交流したり解釈したりする機会を設け、友達の考えとの共通点や相違点などを比較・関連させる。

### 3 具体的な実践の場面

#### (1) 本時の児童の様子

長さはかせは、えきから寺を通して学校へ行きます。  
長さは、どのくらいでしょう。

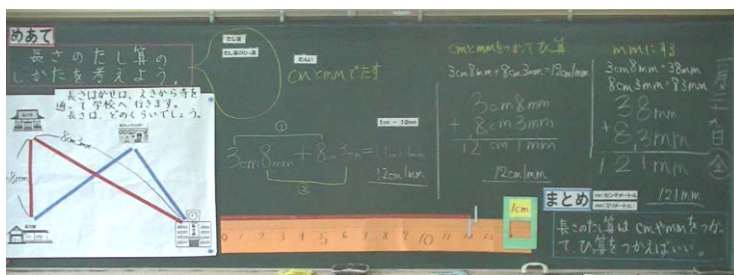


前時において、長さの単位換算をしたり、大小を比較したりする学習を行った際、11cm5mmと115mmは115mmの方が長いと考える児童が複数いた。これは、長さに関する単位の理解が十分に身に付いていないためだと思われる。

そのため、30cmものさしの模型と1cmや1mmの模型を使って説明させるようにし、量感を身に付けさせることを意識した。

本時では、2つの長さを足すには、単位を分けたり、単位をそろえたりして足すと計算できることに気付かせたいと考えた。問題場面としては、長さ博士が駅から寺を通り、学校へ行く道の長さを測定することを想定した(赤線)。既習事項を生かして、駅から寺までの道と寺から学校までの道を一本の直線にして長さを測定すればいいという考えが出た。そこから、2本の線を足せばよいという考えになり、足し算の計算の仕方を考えていった。しかし、問題図には、駅から商店街を通り、学校へ行く道(青線)の適用題を載せていたため、児童の中には、Aの道とBの道を足すと考えてしまったり、前時までの学習からAとBの長さの大小比べをすると考えてしまったりするものもいた。

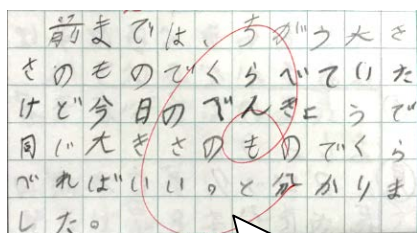
資料①【本時の写真】



全体交流では、児童に計算の仕方を書かせ、図で説明させるようにした。しかしながら、導入でどの線を足すのかを理解させるのに時間がかかってしまい、十分に説明させる時間が取れず、図で説明させたり、友達の考えを他の児童に図を使って説明させたりする活動が行えなかった。そのため、2本を足せば道のりが表せるという量感が十分に身に付かなかった児童もいると考えられる。

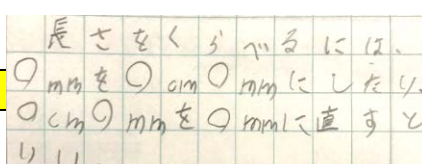
## (2) 児童の変容

資料②【単元はじめの振り返り】



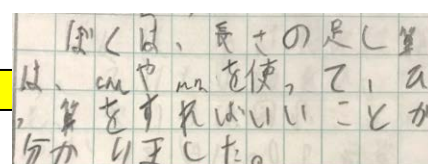
長さを比べるには、同じ長さのものを使って、「〇〇のいくつ分」と表せばよいことに気付く。

資料③【前時の振り返り】



長さを比べるには、単位をそろえたり、分けたりするとよいことに気付く。

資料④【本時の振り返り】



2つの直線を足すと1つの長さとして測定できることに気付く。

## 4 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 単元を通して「1つ分はいくつか」「〇個分は、何を1つ分になっているか」ということを意識しながら授業を行ったことで、普遍単位による測定においても「1cmの何個分」「1mmの何個分」という考えを児童にもたせることができた。
- 児童の考えを、図を基に説明させたり、友達の考えを説明させたりする活動を取り入れる。
- 友達の発表を聞いているだけだと、児童の集中が切れてしまうことが考えられるので、友達の考えをノートに書いて比較させながら、理解させることが大切である。



# 余りをどうするか図で考えよう!

算数

第3学年

尾道市立土堂小学校

指導者 谷川 友弥

単元名

## 得する人、損する人。あまりが出たら? 3年 あまりのあるわり算

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

### 1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 余りのある除法の意味や処理の仕方を具体的な場面と結び付けながら具体物や図を用いて考えている。

【主体性・積極性】

- 余りのある除法の問題について具体的な場面の中で考え、余りの処理などに関して自分なりの解決策を見つけ出そうとしている。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

この一つの前の単元では、同じ数ずつ分けるという操作から導入して、「分ける」と「わり算」の関連を図り、「わり算」の意味が分かるようにしてきた。その中で児童は、等分除の意味や式の表し方、答えの求め方の方法を学習し、同様に包含除についても学習している。

本単元では、前単元での学習内容を活用しながら、余りのある除法について、余りの意味や余りと除数の関係について理解することをねらいとしている。また単元の後半では、余りの処理について取り扱い、あまりが出た場合、その余りをどう処理していくのかを考えさせることもねらいとしている。

本単元の導入では、日常生活の中から割り切れない場面を取り上げ、既習事項との比較から学習をスタートさせていく。また、児童にとって身近な話題を取り扱うことで、具体物を用いた操作などで答えを確かめる活動が行いやすく、児童の理解をより確かなものにすることができると考える。最終的には、児童が余りのある除法を日常生活の中に見出し、学習したことを適用していけるようになることを考える。

### 3 具体的な実践の場面

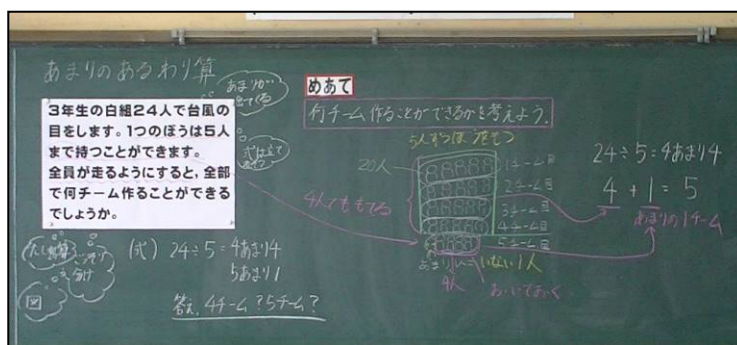
#### (1) 本時の児童の様子

3年生の白組24人で台風の目をします。1つのぼうは5人まで持つことができます。全員が走るようにすると、全部で何チーム作ることができるでしょうか。

運動会で行った「台風の目」という競技などの生活場面においても、わり算の考え

方を適用できることに気付かせたいと考え、導入では運動会のことを想起させながら上記の問題を提示

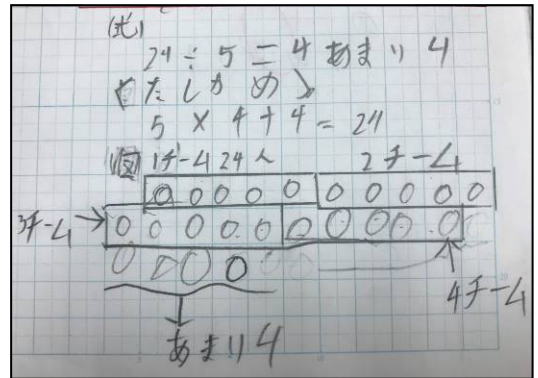
#### 資料①【本時の板書】



## 資料②【児童の誤答例】

した。児童に問題文を読んだの気付きを書かせると、ほとんどの児童がわり算であるということに気付いていた。ここで問題になってくるのが、「 $24 \div 5 = 4$ あまり4」の「あまり4」をどう処理していくかということになる。本時では、そのことに焦点を当てて課題設定が成されるべきであった。

自力解決を行った際には、余った4人でも1チームを作って、全部で5チームできるということを図に表現して考えることができた児童は21人中4人（3名欠席）であった。ほとんどの児童が資料②のように「4チームできてあまりが4人」と考えていた。そこで、1人の児童を指名し、黒板に図をかかせて、他の児童に説明させるようにした。児童の説明から、理解を深めていきたいと考えたが、①共通の図をノートにかき、その図を読みながらかき加えること、②児童が理解できたかを確かめること、以上2点が不足していたため、有意義な学び合いになったとは言い難かった。



本時の内容を児童が理解できたのかを把握するために、同じようにあまりを含めて考える評価問題を行った。図をかいて正しく答えを求めることができた児童は、21人中10人であり、半数以上が本時で身に付けるべき力を身に付けることができていなかった。

(2) 単元終了後の児童の姿

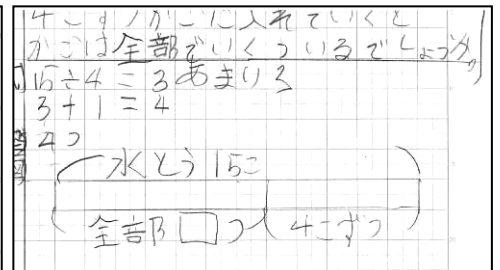
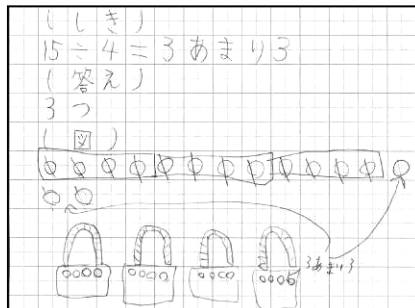
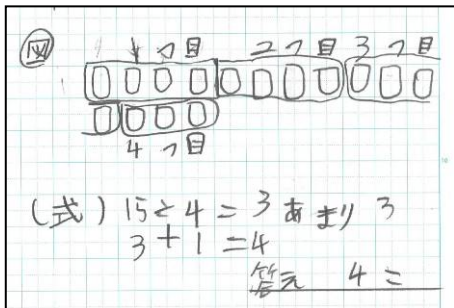
本時を終えての研究協議で出た意見をもとに、授業改善を行い、もう一度同じ問題や似た問題を用いて、児童で話し合う場を設定し、理解を深めることができるようにした。そして単元終了後に、しばらく間隔を開けて、再度あまりを含めて考える問題に取り組みせ、定着度を見取った。結果は、24人中20人の児童が図を用いて正しい答えを求められるようになったが、まだ4人の児童にとっては、確実に「分かった!」とは言えない状況にある。資料③～⑤はその具体例である。

### (2) 単元終了後の児童の姿

資料③【終了後児童の正答例】

資料④【終了後児童の誤答例】

資料⑤【終了後児童の誤答例】



## 4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 生活場面の問題を扱いながら授業を進めることで、児童がチーム分けなどの際に「わり算したらいいよ!」などと、わり算を適用しようとする姿が見られるようになった。また、問題場面を図に表すことを粘り強く指導することで、図に表すことができる児童が増えた。
- 児童に課題設定をさせる際に、何に焦点を当てればよいかを児童の実態をもとに教師が教材研究する必要がある。また、その時の児童の反応に応じて、課題を柔軟に設定する必要がある。
- 図を基に話し合う際には、共通の図で話し合うことが望ましい。また、図や考えをノートに加筆・修正できる場を設定する。
- 児童の理解度をペアトークなどで把握する場を展開の中で柔軟に設ける必要がある。





# 単位数あたりの大きさを活用しよう!

算数

第5学年

尾道市立土堂小学校

指導者 舛上 敏成

単  
元  
名

## 5年1組アクションプラン ～単位数あたりの大きさを活用しよう～ 5年 単位数あたりの大きさ

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性 思考力・表現力

### 1 単元でめざす資質・能力

【主体性・積極性】

- 学習したことを自分の生活や学習に進んで生かしていこうとしている。

【思考力・表現力】

- 平均や単位数あたりの大きさの求め方について、グラフや図、式を用いて考え、説明している。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、測定した結果を平均する方法や速さ等の単位数あたりの大きさの意味や表し方を理解することをねらいとする。

導入では、1つの事象では比べられない場面を扱い、どのようにすれば比べられるか課題意識を持たせていく。単元の学習を通して、平均や混み具合、速さ等は、数量の大きさ（単位数あたりの大きさ）を求めることで比べることができることに気付かせていく。

また、平均を求めるための合計と個数の関係や速さを求めるための長さと時間の関係等の2量の大きさをグラフや表、図に整理して考えさせることで、児童自身が求め方を見出していくことができるようにしていく。

### 3 具体的な実践の場面

#### (1) 課題意識を持たせ、生活と関連させた学習活動

【第1時】

人数の異なるグループで、どちらが本をよく読んでいるか比べる方法を考える。

【第5時】

歩幅の長さの平均を用いて、身の回りのものの長さを測定して比べる。

【第6時】

面積や人数が異なる教室の混み具合を比べる方法を考える。

【第9時（本時）】

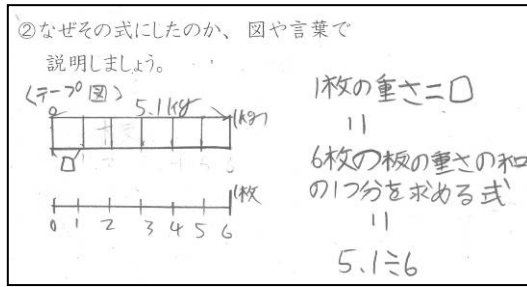
混み具合の比べ方を活用し、「どちらがお得か」や「速さ」の比べ方を考える。

平均・混み具合を求める学習の導入では、どちらも1つの事象では比べられない場合があることに気付かせ、次時の学習への課題意識を持つことができるようにする。また、平均を用いて身の回りのものの長さを測ったり、単位数あたりの大きさの考えを活用していろいろなものを比べたりする場を設定することで、学習したことを進んで生かしていこうとする態度を培っていくことができるようにする。

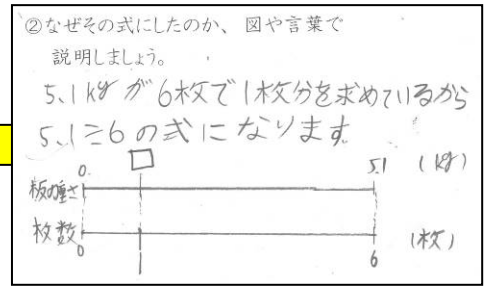
【単元学習後】

班ごとの推薦図書を読んだ冊数の平均を求め、生活に生かしていく。

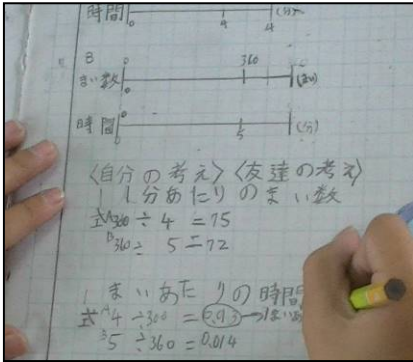
(2) 児童の変容



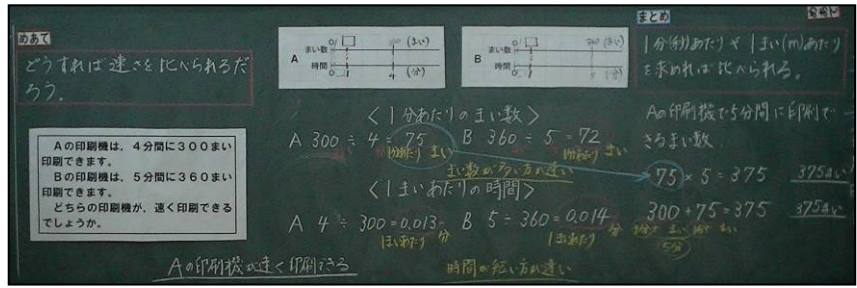
資料①【単元学習前】



資料②【単元学習後】



資料③（本時の児童のノート）



資料④（本時の板書）

資料①・②は、同じ児童が単元を学習する前後に解答したものである。それぞれ、1枚当たりの重さを求める方法を図や言葉で記述させている。2つの資料を比べると、資料①では、除法で1枚当たりの重さを求めているが、その方法を明瞭かつ具体的に記述できていない。しかし、資料②では、数直線を用いて簡単な図に表し、1枚当たりの重さの求め方を簡潔に記述している。資料③・④は、本時の児童のノートと板書である。この写真のように、児童が問題場面について図に表し、それを用いて立式したり説明したりする場を単元を通じて設定した。平均や単位量あたりの大きさの求め方を形式的に身に付けるのではなく、問題場面をグラフや表、図に表し、それらを基に説明させることで、図等に表して考えるよさにふれ、平均や単位量あたりの大きさへの深い理解につながったと考えられる。

4 考察（成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて）

- 平均や単位量あたりの大きさの求め方を考える学習では、異種の2つの量の割合として捉えられる2つの数量の平均や混み具合、速さ等を比べる学習を設定した。これらの学習では、2つのことを比べるため、合計と個数、面積と人数、長さや時間等の2量の関係や求めた数量が何を表しているのかを確かめることで、除法の式の意味を理解させることにつながった。
- 単元終了後のアンケートでは、「算数の学習で、進んで自分の考えを伝えていきますか」の質問に、28.6%の児童が否定的な回答であった。表したグラフや表、図を基に説明する際には、ペアで相談したり確かめたりできるような場を十分に設けることが必要であった。また、「5㎡当たりの人数は15人ですね」、「1㎡当たりの人数を求めるには～」等のように、説明することに苦手意識のある児童には、話型を示すことが手立てとして考えられる。
- どちらがお得かや速さを比べる学習では、それらのイメージを持たせるため、授業の導入に写真や動画を見せた。しかし、単位量あたりの大きさを求める際につまずく児童がいた。そこで、さらに2倍、2分の1の大きさを求めさせておくことで、金額と個数等の2つの数量の関係へのイメージを広げておくことで、考える手立てとすることができた。

# 数直線図に表して比べてみよう!

算数

第6学年

尾道市立土堂小学校

指導者 才谷 瑛一

単元名

## どれだけ記録がのびたかな 6年 記録比べ

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

### 1 単元でめざす資質・能力

【思考力・表現力】

- 「割合の見方」を用いて、身の回りの事象を捉え、見通しをもち筋道を立てて考えている。

【主体性・積極性】

- 問題の解決に向けて見通しをもち、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本単元では、それぞれが独立した同種の比的な2量の関係を割合として表したり、分数倍の表し方や、比べられる量やもとにする量の求め方を理解したりすることをねらいとする。導入では、新体力テストの記録を扱う。5年の時と比べてどの種目が一番よく伸びたかという話題で話し合い、5年の時の記録を基準量、6年の時の記録を比較量にしたときの割合で比べればよいことに気付かせる。

### 3 具体的な実践の場面

#### (1) 単元を学ぶ必然性をつくる単元の導入

＜割合が生活で使えることを実感させる＞

単元前に新体力テストの記録の伸びの比べ方について話し合った。そのままの数値の差では比べられないことから、倍（割合）にして比べればよいことに気付かせた。

＜割合の学習で解決したいことを確認する＞

5年「割合」の学習を振り返ると、「もとにする量や比べられる量が見つけにくい」や「式を立てにくい」という苦手意識があった。そこで、それらの課題を解決しながら単元を進めていくことを子供たちと確認した。

#### (2) 児童の変容

##### 資料①【単元前の振り返り】

私は、分数倍で表すと答えは出しやすくなるとは思いますが、体力テストの結果を5年生のときと比べる倍は、小数で比べた方が良いと思います。理由は、整数を使、た倍を表す方が比べだけのびたかが分かりやすいからです。

分数倍で表すことを知る。さらに小数倍の方が比べやすいことに気付く。

##### 資料②【第3時の振り返り】

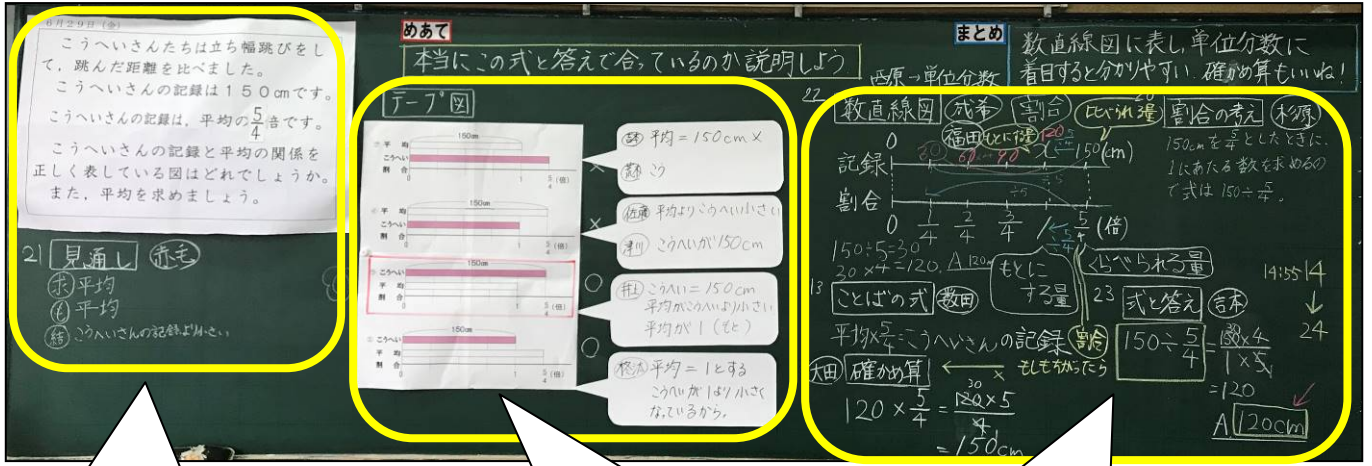
私は、言葉の式を教におきかえた式は便利だと思いましたが、これであれば、比べられる量やもとにする量が分かりやすくなるからです。また、数直線図の分かりやすさも、一つ一つかいてみて、感じることができました。

問題場面を言葉の式や数直線図に表すことで解決しやすいことに気付く。

##### 資料③【第4時の振り返り】

私は、最初に問題に合う図をいくつかの中から選ぶというやり方は、良いと思いました。理由は、まちが、たの中から選ぶことで、どうしてそれかちがうのかを一つ一つ理解することからできます。それは、まちが、たを選んだ人へのメリットです。でも、正しい図を選んだ人にも、分からない人に説明する力がつくというメリットがあります。双方に利益がある方法は、とても理由が上がると思いました。

資料④【第4時の板書】



もとにする量を求める問題を見て、見通し（求めるもの、もとにする量、答えの大きさ）をもたせる。

4つのテープ図を見て、正答の理由と誤答の理由を答えさせることで、問題場面のイメージを膨らませる。

数直線図、割合の考え、言葉の式、式と答えを発表させた後に、本当にこの式と答えで合っているのか説明させる。

資料⑤【第4時の適用題】

適用題③

Aさんのソフトボール投げの記録は24mです。  
Aさんの記録は、平均の $\frac{3}{2}$ 倍です。  
平均を求めましょう。  
こうへいさんたちは、数直線図を見ながら解き方を説明し合いました。  
□に入る記号や数、言葉を書きましょう。

記録  
割合

アイウ (m)  
エオカ (倍)

もとにする量は、平均の記録だね。  
関係を数直線図に表すと、  
24は「ア」、 $\frac{3}{2}$ は「カ」、平均は「イ」、  
1は「オ」のところになるね。

私は割合の考えを使って考えたわ。  
24mを $\frac{3}{2}$ としたとき、1にあたる数を求めるので、式は、  
 $24 \div \frac{3}{2}$   
になったわ。

単元前に体力テストの記録の伸びの比べ方について話し合うことで、生活場面での分数倍について理解することができた。(資料①)

問題を解決する時に数直線図や言葉の式に表させることで、問題場面の理解を深めることができた。(資料②)

単元を通して、問題を読んで自力で見通しをもたせたり、数直線図や言葉の式に表したり、割合の考えを使って説明させたりすることを意識した。それにより、問題場面を適切に図に表すことのできる児童の割合が増えたとともに、数直線図や言葉の式の有用性を感じる児童が増えた。(資料③④)

第4時では、本当にこの式と答えで合っているのか問いかけたことで、数直線図を使いながら、単位分数である4分の1の量(30 cm)に着目して、説明する児童が出てきた。数直線図を指しながら、「150 cmを5つに分けた1つ分が30 cmです。30 cmが4つ分にあたる量が平均の記録です。」と説明することで、全員が納得することができた。

本単元の適用題では、みんなと学んだことが一人でも生かされているかどうか確かめるために、数直線図に適切に表したり、もとにする量を見つけさせたりする適用題を作成した。

(資料⑤) 最初は、難しかった児童が多かったが、単元が進むにつれて自力で解決することのできる児童の割合が増えた。

4 考察(成果や課題の要因、今後の単元の改善に向けて)

- 毎時間、問題を読んだ後に見通しをもたせたり、数直線図や言葉の式に表したり、割合の考えを使って説明させたりしたことにより、深い理解に近づけることができた。適用題の正答率は、第2時が17/27人、第4時が25/27人であった。単元前に児童が課題と感じていた割合に関する問題で、もとにする量を見つけることと適切に立式することについて一定の成果を出すことができた。
- 第4時で数直線図を使って説明したのは、2名の児童だけであった。友達から学んだ数直線図を使った説明の仕方を全員にさせることで、より深い学びにつなげることができると考える。



# 結末を決めて、素敵な物語に変身！

国語

たんぼぼ学級

尾道市立土堂小学校

指導者 上田 千紘

単元名

## 物語の構成をとらえて、世界でいちばん〇〇！

5年 世界でいちばんやかましい音

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元でめざす資質・能力

#### 【思考力・表現力】

- 物語全体の流れを考え、結末を選択する。
- 複数の絵から結末に合う絵を選択し、その場面を言語化している。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級は知的障害特別支援学級であり、在籍する児童は6年生1名である。想像したり、推測したりする力は不十分なものの、複数のものから正しいものを選択したりすることは可能である。

本単元は、結末に着目し、設定から展開への場面設定を考えて、よりおもしろい物語を作るための結末を考えることをねらいとしている。そのために、単元の導入場面では、レオ・レオニの「スイミー」と「ぼくのだ！わたしのよ！」を取り上げ、物語の結末には設定と似ているパターンと正反対のパターンがあることを学習した。

二次では、実際に教材文である「世界でいちばんやかましい音」を読解し、どちらのパターンであるかを考えさせた。また、教材文の登場人物の面白さにも着目して自分が物語を作る際の登場人物の決定の際に生かせるようにした。

三次では、自作の物語として「世界でいちばんきたない町」を作成した。「スイミー」のような似ている結末（資料①）と、本教材や「ぼくのだ！わたしのよ！」のように正反対のパターンの結末（資料②）のどちらがよいか決定させ、その構成に合う絵を選択した。

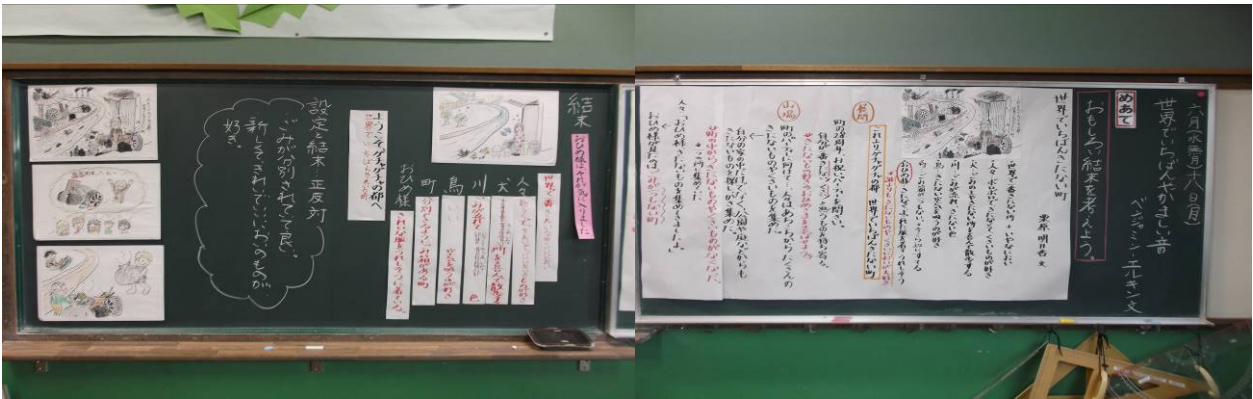


資料①

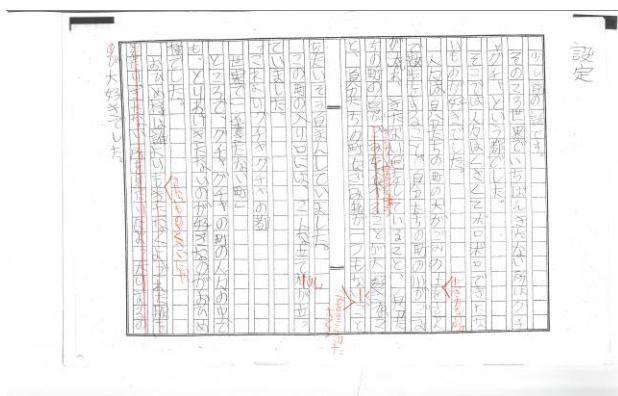


資料②

### 3 具体的な実践の場面



正反対の結末を選択したことを確認した上で、人々や犬、川などを一つずつ設定の文章を参考にしながら、正反対の文章を考えた。



#### 設定

汚いものやくさいものが大好きなお姫様  
 ごみは道に捨てるので、ごみばこがない町  
 きたないふくを喜んで着る子ども  
 ごみが散らかっている上を歩くのが大好きな犬  
 ごみを食べる鳥

設定の文章を参考に、反対の意味になるような文章を考える。



#### 結末

(正反対)

きれいで自然のにおいが大好きなお姫様  
 ごみは分別してゴミ箱に捨てるので、ゴミ箱であふれている町  
 きれいに洗濯されている服を嬉しそうに着る子ども  
 整頓されている道を歩くことが好きな犬  
 きれいな空気をすうのが好きな鳥

### 4 考察 (成果や課題の要因, 今後の単元の改善に向けて)

- 自分の物語を作ることに対しては高い意欲をもって取り組むことができた。相手意識もあり、単元を通して集中して高い意欲をもって進めることができた。また、自分が選択したり、想像して作ることができたため、楽しみながら参加することができた。
- 選択することはできることから、欲張って多くの項目について文章の書き換え作業を活動として取り入れた。しかし、児童は設定の文章の理解を再度行うこと、対義語を考えること、合った絵を選択することなど多くの活動があったので、少し負担が大きかったように感じている。時間をわけることや内容を精選することが必要であると感じた。
- 教科書を簡単に書き直したものを手元に置き、参考にしながら文章を構成したものの、自力ではまだまだ難しいところもあった。そこで、よりスモールステップで授業を進めていくことが必要であると感じた。

# 友達のこと どれだけ知ってる？

自立活動

さくら学級

尾道市立土堂小学校

指導者 黒飛 美穂

題材名

## 好きなものはどっち？ ～聞こう 話そう～

本題材で育成する資質・能力

自己理解・他者理解

### 1 題材でめざす資質・能力

【自己理解・他者理解】

- 相手のことを想像しながら質問を考えたり、相手の答えを自分と比べたりしている。
- 相手の質問に対して、自分の考えを発表している。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級は、本年度より自閉症・情緒障害特別支援学級へ在籍することになった児童ばかりである。そのため、学年が違うこともあり、児童同士が自ら関わり合うことは少なく、あいさつや決まったやりとりをする程度である。また、交流学級においても自分の気持ちを相手に伝えたり、相手の話に耳を傾けたりすることが希薄なことに課題が見られた。

そこで、本題材を構想する際に留意したことが2点ある。

1点目は、ゲーム性を取り入れ、友達への関心・意欲を高めたことである。まず、友達への質問を考えさせることにした。どんなことを知りたいのか、どんな質問だと答えられるのかなど相手意識をもった活動を仕組んだ。また、友達の好きなものを聞くだけでなく、自分ならどっちが好きかを考えさせ、自己理解を図った。

2点目は、相互理解を図るために質問に答えるだけでなく、選択理由も発表させたことである。友達と選択理由を聞き合うことで友達の意外な一面を知ったり、共感したりする体験をさせることができ、今後、話題の糸口になればと考えている。

### 3 具体的な実践の場面

#### (1) 題材の導入

友達と問答ゲームを行うということで、楽しみながら相互理解を深めることを目標にした。友達への質問を「〇〇くんは、どっちが好きかな。」「△△さんは、こっちが好きだと思う。」など相手の好みを想像しながら楽しく考えることができた。

#### (2) 相談タイムの設定

本時のウォーミングアップとして『聖徳太子ゲーム』を行った。担任と支援員が同時に叫んだ違う単語とは何かを3人で相談させる時間を設定した。3回チャンスを与えたところ、1年生であるA児は、1回目は、上級生の意見を聞いているだけであったが、3回目には、自分の意見を出すことができた。上級生二人は、自分の意見だけを押し通すことなく、友達の考えを聞いた上で意見を1つにまとめようとする姿が見られた。 【資料①】

資料①【相談タイム】



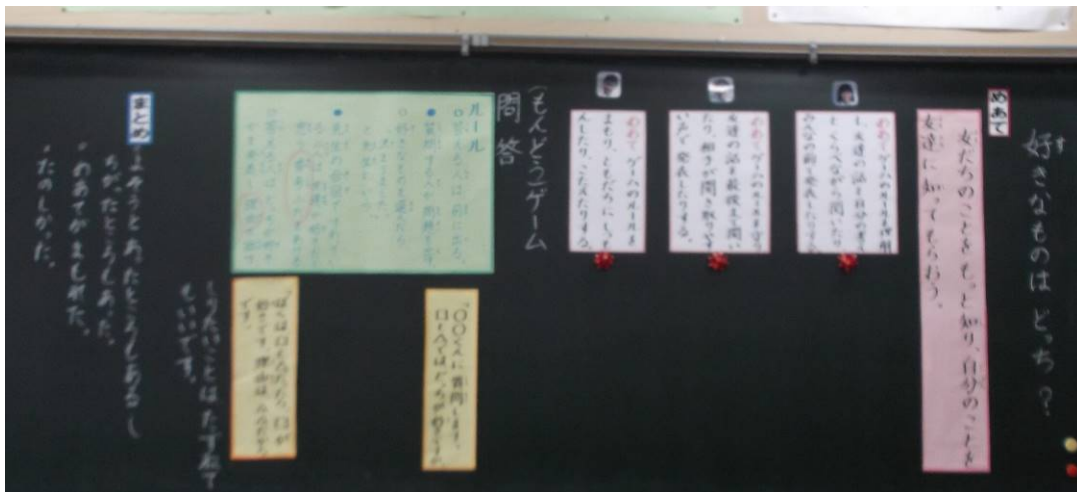
資料②【授業風景】



### (3) 質疑応答の仕方

本時では、ルールと質問や答え方の話型を黒板に示し、質問は二者択一にした。話型を示したことにより自分の考えを发表或し、友達に質問したりすることがスムーズにできた。また、質問を二者択一にしたことで、友達の質問や答えを落ち着いて聞き取ることができた。【資料② 資料③】

資料③【本時の板書】



## 4 考察（成果や課題の要因、今後の題材の改善に向けて）

- 児童は、本時の時間内に質問しきれなかったことを改めて設定してくれるように希望してきた。ゲーム性を取り入れたことで、活動への関心意欲が高まり、友達への関心が高まったのかもしれない。
- 自立活動を通して、さくら学級の仲間と一緒に活動することで、高学年から下学年に対して話しかける姿が見られるようになってきた。
- 本時の学習後、以前と比べて児童間での会話が少し増えたように感じるものの、教師が仲介に入ることが多い。今後も自立活動を中心として友達と協力し合い、喜びを共感する活動を設定し、児童が苦手とするコミュニケーションの基礎的能力を高めていく必要がある。

# 話し方名人になろう

自立活動

すみれ学級

尾道市立土堂小学校

指導者 岡田 美紀代

題材名

## きちんと聴こう きちんと話そう

本題材で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 題材でめざす資質・能力

【状況に応じたコミュニケーション】

- 場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開する。

【集団への参加の基礎】

- 自立を目指し、障害に基づく様々な困難を主体的に克服する。

### 2 課題発見・解決学習の構想とポイント

本学級は、聴覚障害特別支援学級であり、2年生女子1名（A児）、4年生女子1名（B児）の計2名が在籍している。

A児 学年相応の学力を有している。文字から情報を得ることを得意とする。しかし、算数科での問題場面を想像することや国語科で叙述から心情を想像することが難しい。

B児 語彙が少なく、文字や言葉では容易に理解できない。自分の思いや考えを伝えようとするが、うまく表現することが困難である。

本題材では、「話を聴くための3つのルール」①相手に体を向ける②相手を見る③相づちを打つのルールを明確化し、改めて聴き方を意識させ、上手な聴き方の練習をすることで最後まで話を聴くこと、質問すること、相手の言いたいことを繰り返すことで正しく聴くことができることを発見するという課題を設定した。本学級の児童は、補聴器や人工内耳で聴力を補い、日常生活を送っている。聴覚障害により情報が制限されている状況を踏まえ、適切なコミュニケーション手段を選択することや、自分が受け止めた内容に誤りがないかを確認したりするなど主体的なコミュニケーションの方法を発見し、学校生活場面で困難にあった時に自力解決することができるように本題材を設定した。

### 3 具体的な実践の場面

(1) 各教科等の他に、困難を改善・克服する力を身に付ける。

A児 場や相手の状況に応じた言葉を見つけて、積極的に活動する。

めあてを「聴き方名人の秘密を3つ探してみよう。」と設定した。目的意識を持って学習に取り組むためには、相手との関わりが必然である。「相手に体を向ける」「相手を見る」「相づちを打つ」の聴くための3つのルールを意識しながら話を聴くことを指導した。

B児 児童の自立を目指し、障害に基づく様々な困難を主体的に克服する。

語彙が少ないために自分の考えや気持ちを的確に言葉で表現できないことや、相手の考えや質問に対して的確に答えられないことがある。そこで、コミュニケーションの基礎能力として、友達の言葉に耳を傾けることを指導した。また、質問に答えられない場合や、聞き取れなかった時にそのままにしないで質問することを指導した。

## (2) 児童の変容

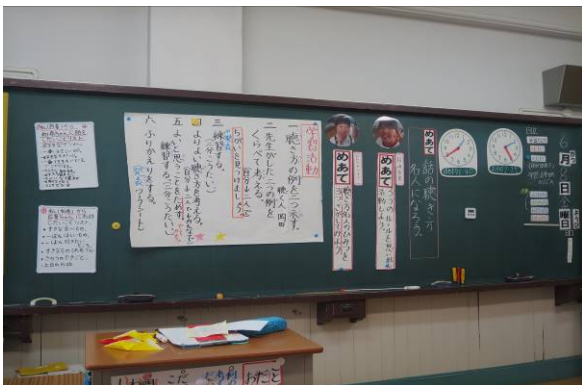
本題材では、二人一組で活動を通して聴くことのスキルを育成しようとするものであった。

A児は、3つのルールを意識して、自分の話を聴いてもらった経験から、B児に自分の話を受け入れてもらっているという気持ちを持つことができた。本題材においてA児がB児のよさに気づき、B児の発言を認める様子が見られた。

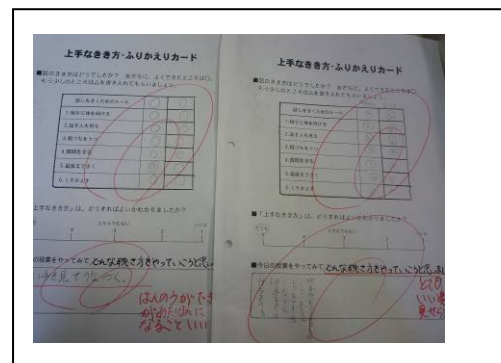
B児は、目的意識をもつことや正しい姿勢で学習に向き合う態度が持てないことが課題であった。しかし、A児に認められたことや話を聴きたいという気持ちをもって学習活動できたことが自信となり、少しずつ学習に向き合おうとする姿勢ができてきた。

3つのルールが学習規律として定着してきたことで、A児は今年度の聴力検査において昨年度34%の正解率であったものが100%聞き取ることができるようになっていた。B児は、交流学級での時間割変更などを正しく伝えられるようになった。

### 資料①【本時の板書】



### 資料②【ふりかえり】



## 4 考察（成果や課題の要因、今後の題材の改善に向けて）

- 本題材において聴く方法を練習し、その後、学習規律として定着を図ったことから、学習に向き合おうとする姿勢ができてきた。話を理解することができたり、わからないことがあったりしたら、先生や友達に確認することができるようになった。
- 場面設定が十分ではなかった。場面設定を自然なものとして、児童が自ら活動できるようにする必要がある。
- 児童が主体的に活動するまでに時間がかかった。目的意識をもって主体的に活動するしかけを授業の前半に設定しておく必要があった。

## IV 基礎・基本定着のための取組

### モジュール授業

#### 1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング・個へのアプローチ」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつ、テンポ・タイミング良く教材を提示するツールとして、情報機器を活用している。

#### 2 モジュール授業の目標と内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国 語 科	<p><b>(音読)</b> 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p><b>(辞書引き)</b> 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(9月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p><b>(漢字の前倒し学習)</b> 漢字習得率の向上を図るため、年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。</p> <p><b>(聞き取り)</b> 文学的文章や説明的文章等を聞き取り、正しく聞き取る力やメモを取り、聞き取ったことをまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p><b>(フラッシュ)</b> 各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習したり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p> <p>【理科】 実験器具、理科用語など</p>
算 数 科	<p><b>(ます計算)</b> ます計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p><b>(そろばん)</b> 低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
そ の 他 の 教 科	<p><b>(カルタ)</b> 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。</p>	

### 3 モジュール授業の系統性

年度初めに各学年の音読・算数・その他の分野におけるめざす姿や数値を設定した。目標を意識しながら、児童の実態に合わせて指導を進めていくことができる考える。

	低学年	中学年	高学年
音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢，口形</li> <li>はっきりと，正しく読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい口形</li> <li>内容を考えて読む (強弱・抑揚・間等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい口形，伝わる声</li> <li>内容を考えて読む (強弱・抑揚・間等)</li> </ul>
算数 計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>そろばんに慣れ親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位換算</li> <li>数量関係</li> <li>量のイメージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位換算</li> <li>算数用語の定義</li> <li>数量関係</li> <li>量のイメージ</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して，より速く，正確に解ける</li> <li>自分の目標をもって取り組む。→タイム・解いた問題数を記録していく</li> </ul>		
英語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に慣れ親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・理科の重要用語の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・理科の重要用語の徹底</li> </ul>

#### 【1年】

10ます足し算	10ます引き算	50ます足し算	100ます足し算
10秒	10秒	1分	3分

#### 【2年】

100ます足し算	100ます引き算	10ますかけ算	100ますかけ算
2分	2分30秒	15秒	2分

#### 【3年】

100ますかけ算	A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算
2分	1分30分	3分	3分	5分

#### 【4年】

A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算	C型100問わり算
2分	3分	3分	4分30秒	5分

#### 【5年】

C型100問わり算
4分

#### 【6年】

C型100問わり算
3分

### 4 モジュール授業を共有，発展させるために

児童の実態に応じたモジュール教材の改善・開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し，どの学年の指導者も，当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり，活用したりできるようにしている。そうすることで，新出した内容だけでなく，既習事項の内容を確認することができたり，計画的・系統的に進めたりすることができる考える。



## 例【6年】

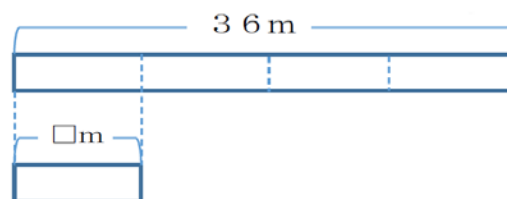
	国語的内容	算数的内容	社会・理科
4月	【漢字】 ・全漢字 ・リズム漢字 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【フラッシュ】 ・慣用句 ・敬語	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・対称, 倍数, 約数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
5月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・文字と式 ・逆数 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
6月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・文字と式 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
7月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・図形の面積 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
9月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・速さ ・体積 ・比	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
10月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比 ・体積 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
11月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・比 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
12月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・文字と式 ・速さ	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のづくり
1月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・文字と式	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
2月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合 ・図形	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
3月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分 ・約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし

5 割合に関するフラッシュ教材例

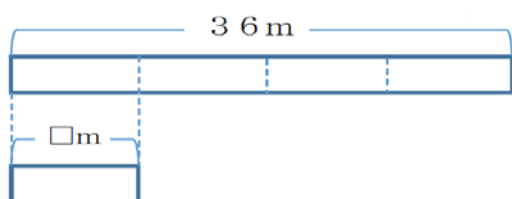
① 基準量を求める

# 4年生

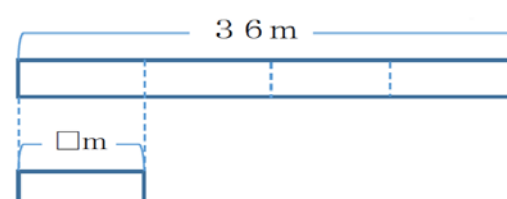
36mのロープがあります。4つに等しく分けると、1つ分の長さは何mでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



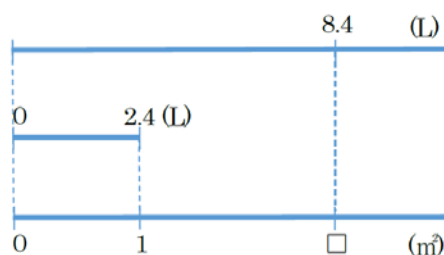
36mは  分、その  分にあたる(もとにする)大きさを求めるので  $36 \div 4$  です。



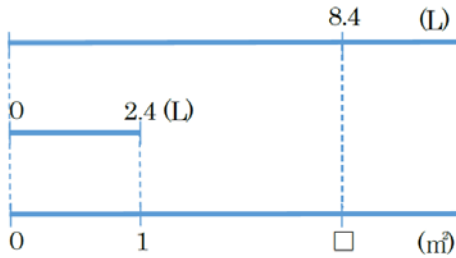
② 割合を求める

# 5年生

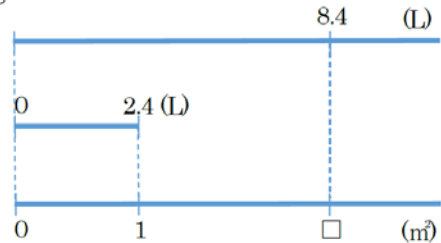
1㎡に2.4Lの水をまきます。8.4Lの水では、何㎡にまくことができますか。



式の理由を説明しましょう。



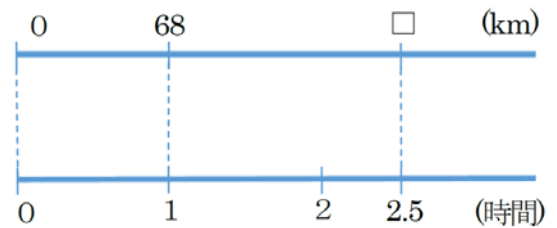
2.4L を ■ としたとき, ■ にあたる数を求めるので  $8.4 \div 2.4$  です。



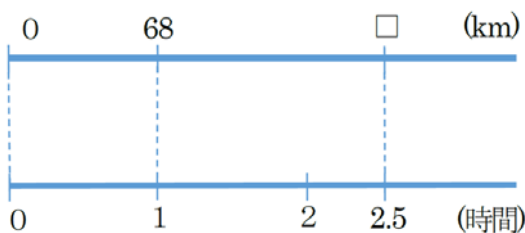
③ 比較量を求める

# 6年生

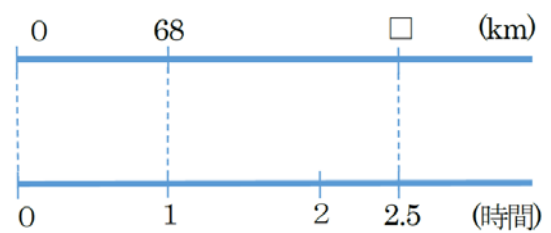
時速68kmの車があります。  
2.5時間走ると, 何km走るでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



68を ■ としたとき, ■ にあたる数を求めるので,  $68 \times 2.5$  です。

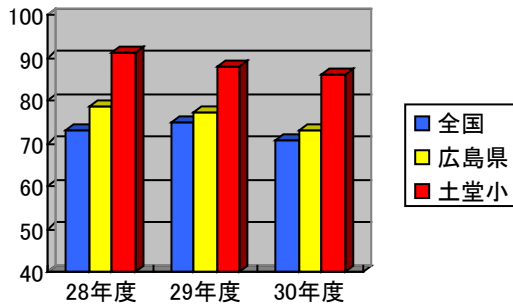


## V 研究の結果と考察（中間）

### 1 全国学力・学習状況調査(平均正答率) —第6学年—

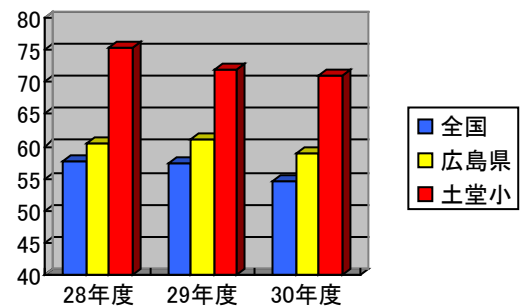
国語Aの平均正答率 (%)

	28年度	29年度	30年度
全国	72.9	74.8	70.7
広島県	78.4	77.0	73.0
土堂小	91.1	88.0	86.0
全国との差	+18.2	+13.2	+15.3



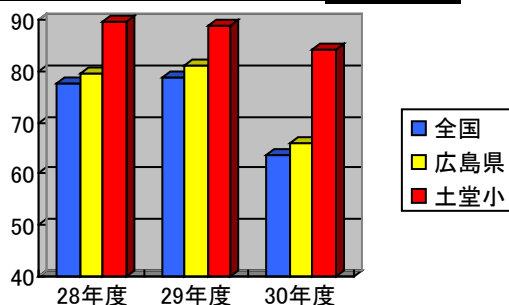
国語Bの平均正答率 (%)

	28年度	29年度	30年度
全国	57.8	57.5	54.7
広島県	60.5	61.0	59.0
土堂小	74.5	72.0	71.0
全国との差	+16.7	+14.5	+16.3



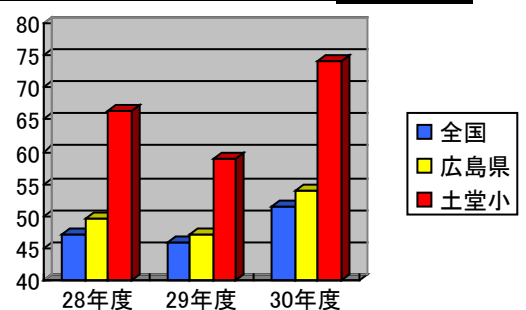
算数Aの平均正答率 (%)

	28年度	29年度	30年度
全国	77.6	78.6	63.5
広島県	79.7	81.0	66.0
土堂小	89.5	89.0	84.0
全国との差	+11.9	+10.4	+20.5



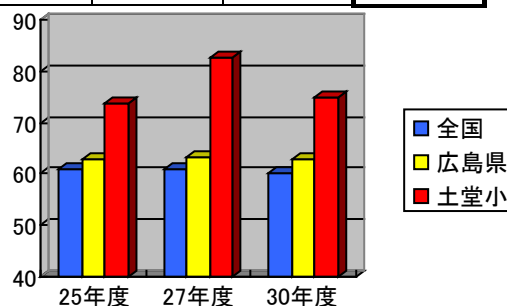
算数Bの平均正答率 (%)

	28年度	29年度	30年度
全国	47.2	45.9	51.5
広島県	49.5	47.0	54.0
土堂小	66.4	59.0	74.0
全国との差	+19.2	+13.1	+22.5



理科の平均正答率 (%)

	25年度	27年度	30年度
全国	60.9	60.8	60.3
広島県	62.9	63.2	63.0
土堂小	73.9	82.5	75.0
全国との差	+13.0	+21.7	+14.7



## 全国学力・学習状況調査について

全国平均に比べると国語科で 15 ポイント以上, 算数科で 20 ポイント以上上回ることができた。「知識」「活用」ともにおおむね定着が図られていると捉える。本校の目標（A問題全国平均+12, B問題全国平均+14）を達成することができた。

教科	課 題	今後の取組
国語 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 尊敬語, 謙譲語, 丁寧語の使い方に課題がある。→相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常から, 教師に対する言葉遣いや職員室での言葉遣いなど, 意識的に指導するとともにモジュール教材を作成する。</li> <li>• 目上の方に対して手紙を書く機会を設ける。</li> <li>• 相手や場面に応じて敬語を使い分ける経験を重ねさせる。(研究会でお客さんを道案内させる等)</li> <li>• 家族を紹介させる場面(スピーチ等)を設定する。</li> </ul>
国語 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 目的や意図に応じて, 内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題がある。</li> <li>• 複数の資料から必要な条件を抜き出せていない。</li> <li>• 正しい条件を選択できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 必要のない情報(情報量の多い問題)がある問題に慣れさせる。→終末での適応題, 練習問題, 宿題等を出す。</li> <li>• モジュールの聞き取りで似たような読み取りの問題を出す。</li> <li>• たくさんの文章を速く読ませる。→1 時間で解く問題を多くする。</li> <li>• 読書を推進する。</li> </ul>
算数 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味理解に課題がある。→(人数)÷(面積)の商が, 何を求めているか理解できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 式の意味を理解させるために, 図に表して式の意味を説明させる。言葉の式に整理し, 求めている商について説明させる。</li> </ul>
算数 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• メモの情報とグラフを関連付け, 総数や変化に着目していることを解釈し, 記述する問題に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 表やグラフから特徴や傾向を捉えたり, 考察したりしたことを表のどの部分から, あるいはグラフのどの部分からそのように考えたりしたのかを伝え合う活動を取り入れる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 乾電池のつなぎ方を変えると, 電流の向きが変わることを, 実際の回路に適用することに課題がある。→乾電池とプロペラを結ぶ導線のつなぎ方(回路全体)を捉えることができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 端子を乾電池の+極と-極のどちらにつないでいるか, 児童と確認しながら実験を行う。ノートに回路図を書かせ, 回路全体が見えるようにする。</li> </ul>

## 2 質問紙調査

(13)～(27)は、平成28年度「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査票から「学びの变革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項(13)～(27)を抜粋したものである。9割以上の項目

No	質問項目	県5年	本校6年	本校5年	本校4年	本校3年	本校2年	本校平均	県との差 本校平均と
13	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	81.5	88.7	90.4	96.9	91.4	86.9	89.7	+8.2
14	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	85.5	94.3	90.4	96.9	87.0	90.5	89.3	+3.8
15	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	52.2	67.9	85.7	90.6	50.9	75.4	74.7	+22.5
16	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	60.2	92.4	90.5	93.8	76.4	77.3	87.9	+27.7
17	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	71.6	92.4	97.6	100	78.6	85.0	90.4	+18.8
18	授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見つけたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	74.1	88.6	88.1	96.9	76.5	86.6	86.8	+12.7
19	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	65.5	77.2	80.9	90.6	76.6	90.7	84.7	+19.2
20	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	68.4	81.2	83.3	90.6	74.5	85.1	82.6	+14.2
21	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	71.4	92.4	92.8	93.8	76.4	77.7	84.3	+12.9
22	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	70.3	86.7	85.7	81.3	70.0	85.1	82.2	+11.9
23	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	74.8	90.6	92.8	93.8	89.3	79.4	88.6	+13.8
24	ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	81.9	90.6	90.5	96.9	87.1	94.2	89.3	+7.4
25	授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	80.1	92.4	88.1	96.9	78.7	90.5	86.5	+6.4
26	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	69.4	84.6	95.2	93.8	65.7	77.9	84.7	+15.3
27	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	69.3	77.1	97.6	90.6	74.4		84.5	+15.2
	平均	71.7	86.4	89.9	93.5	76.9	84.4	85.7	+14.0

(28)～(35)は、本校で育てたい資質・能力(建設的批判能力、責任感、チャレンジ精神、感性、自分への自信、尾道市民としてのアイデンティティ)の達成指標を図るため、本校独自で設定した質問事項である。

No	質問項目	本校6年	本校5年	本校4年	本校3年	本校2年	本校平均
28	自分の考えが正しいか、しっかり確かめるようにしています。(建設的批判能力)	98.1	90.4	87.5	91.4	94.3	91.5
29	自分とちがう考えも大切にして、自分の考えを書いたり、話したりしています。(建設的批判能力)	98.1	92.8	96.9	85.0	94.3	91.5
30	自分の仕事や役割を、責任をもって最後までしています。(責任感)	98.1	90.5	100	87.1	92.7	92.9
31	できないと思うことでもチャレンジしています。(チャレンジ精神)	86.7	90.5	93.8	89.3	94.3	90.4
32	日ごろから心が動かされたり感動したりします。(感性)	75.3	73.8	75.0	68.0	92.6	79.4
33	自分はやればできると思います。(自分への自信)	82.8	85.7	87.5	87.2	98.2	89.3
34	尾道のよさを知っています。(尾道市民としてのアイデンティティ)	79.2	92.8	90.6	72.2	90.5	83.3
35	尾道の人の願いを知っています。(尾道市民としてのアイデンティティ)	83.0	80.9	59.4	42.4	53.8	63.0

## VI 研究のまとめ（中間）

### 1 成果

#### 成果① 児童の資質・能力を高める課題発見・解決学習のための授業づくり

今年度も、昨年度の反省を踏まえ、実践した開発単元の見直しを図り、これまで開発した単元を改善する形で授業実践を行った。総合的な学習の時間のみならず、教科においても育成したい資質・能力や「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現、実行、振り返り」の探究のプロセスを明確にした単元開発を行い、導入の工夫や他教科との関連を図るなどして、児童の学習意欲を高めながら、授業を行うことができた。学力テストの結果や質問紙調査の結果からみても高い成果を挙げていると考える。

#### 成果② 児童の資質・能力育成のための系統表の作成

本校で設定した資質・能力のうち、とりわけ「思考力・表現力」と「主体性・積極性」の系統表を作成した。国語科では、「問いの系統表」、算数科では、「割合の系統表」と「分数の系統図」を作成し活用した。系統表を作成したことにより、児童が考えたり、自分の考えを友達に説明したりすることができた。

#### 成果③ 児童の確かな学力の定着につながった学習習慣の確立

学ぶ習慣づくりのために、モジュール授業、家庭学習、その他様々な取組を行った。モジュール授業の取組においては、今年度で16年目を迎えた。音読や聞き取り、まず計算など、学習の基礎・基本の定着を図り、インプットしたことをアウトプットする習慣を身に付けさせるために、全学年、全職員で継続して取り組んできたことが、児童の確かな力へとつながっている。今年度も、算数科「割合」の単元のモジュール教材を3年生以上の学年で実施と活用することができた。また、モジュール授業に関わる研修や開発、実施等の工夫が充実したことも成果の大きな要因である。

### 2 課題と今後に向けて

#### 課題と今後に向けて① 児童の資質・能力の育成

単元開発や改善を図ってきたが、今後の課題となったのは、目指す児童の姿をより明確にしていくことである。質問紙調査の結果から「情報収集」と「尾道市民としてのアイデンティティ」に関する質問項目に課題が見られた。各教科を通して、情報収集をする場の設定や、情報収集をしたくなるような課題設定の工夫などを行い、主体的に学んでいける児童を育成したい。また、児童の深い学びのために教材研究や理論研修を行ってきたが、児童の実態、そして目指す児童の姿を明確にして取り組んでいきたい。

#### 課題と今後に向けて② 資質・能力の系統表と検証

今年度も、系統表を作成したが、作成した系統表の検証が十分であるとは言えない。また、主体性・積極性のある児童の行動やノートの記録を残し、変容を調査していきたい。系統表の改善を加えながら、より実用性の高い系統表を作成していきたい。

# VII 日程



# Ⅶ 日 程

8:40 9:10 9:40 9:50 10:35 10:50 11:10 12:00 13:00 14:30 14:45 15:00 16:20 16:30

受付	公開授業 モジュール授業	移動	公開授業 総合的な学習の時間 特別支援教育	移動	児童発表	実践報告 開会行事	昼食・休憩	分科会	移動	講評	講演	閉会行事
----	-----------------	----	-----------------------------	----	------	--------------	-------	-----	----	----	----	------

## 公開授業Ⅰ（モジュール授業）（9:10～9:40）

内 容	公開学年	授業者	会 場
<p style="text-align: center;"><b>モジュール授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読，暗唱，漢字，聞き取り</li> <li>・ます計算，フラッシュ</li> <li>・歴史</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	1年1組	渡邊 翠大	1年1組 教室
	1年2組	灰垣亜希子	1年2組 教室
	2年1組	綿貫 岳人	2年1組 教室
	2年2組	岡 明美	2年2組 教室
	3年1組	谷川 友弥	3年1組 教室
	3年2組	重光 泰徳	3年2組 教室
	4年1組	菅方 賢司	4年1組 教室
	5年1組	舛上 敏成	5年1組 教室
	5年2組	赤羽 夏美	5年2組 教室
	6年1組	才谷 瑛一	6年1組 教室
	6年2組	亀本 拓朗	6年2組 教室
	特別支援学級（知的）	上田 千紘	たんぽぽ 学級教室
	特別支援学級（自閉症・情緒）	黒飛 美穂	さくら 学級教室
特別支援学級（聴覚）	岡田美紀代	すみれ 学級教室	

## 公開授業Ⅱ (国語科・算数科・総合的な学習の時間・特別支援教育)

(9:50～10:35)

公開学年	教科領域名	単元・題材名	授業者	会場
1年1組	算数科	たしざん(2) どうぶつ たくさん たしざん	渡邊 翠大	1年1組 教室
1年2組	国語科	おとうとねずみ チロ 読書ってこんなに楽しい!〜わくわく・どきどきするところを紹介しよう〜	灰垣 亜希子	1年2組 教室
2年1組	算数科	かけ算(3) 九九を使って考えよう	綿貫 岳人	2年1組 教室
2年2組	国語科	ニャーゴ 心の声が聞こえる楽しい紙芝居を作ろう	岡 明美	2年2組 教室
3年1組	算数科	分数 「1mを3等分した2つ分」ってどんな長さ?	谷川 友弥	3年1組 教室
3年2組	国語科	モチモチの木 物語の魅力を知り、いろいろな物語を読もうパートⅢ	重光 泰徳	3年2組 教室
4年1組	総合的な 学習の時間	ただの路とは言わせない! 尾道の小路の魅力を伝えよう	T1 菅方 賢司 T2 原田 匠	4年1組 教室
5年1組	算数科	割合とグラフ 割合って どんな数?	舩上 敏成	5年1組 教室
5年2組	国語科	注文の多い料理店 物語はなぜ「面白い」!?秘密の物語 SHOW☆NOTE Part2	赤羽 夏美	5年2組 教室
6年1組	算数科	速さ 速さの考えを使って到着時刻を調べよう	才谷 瑛一	6年1組 教室
6年2組	国語科	海のいのち 正解のない問いに挑む〜何と何を関連付ければ、課題を達成できるかな〜	亀本 拓朗	6年2組 教室
特別支援学級 (知的)	生活単元学習	伝えよう、6年生の学校生活 〜すてきな6年生になるために〜	上田 千紘	たんぼぼ 学級教室
特別支援学級 (自閉症・情緒)	自立活動	どんな模様ができるかな! 〜秋と遊ぼう〜	黒飛 美稲	さくら 学級教室
特別支援学級 (難聴)	自立活動	お楽しみ会をしよう 〜協力してお楽しみ会を成功させよう〜	岡田 美紀代	すみれ 学級教室

## 児童発表

(10:50～11:10)

○土堂っ子太鼓 (6年生児童)

地域に伝わるベッチャー太鼓をアレンジし、全校児童が継承し、今年度で27周年を迎えました。



## Ⅷ 全体会

### 開会行事

(11:10～11:30)

---

主催者挨拶

尾道市教育委員会

尾道市立土堂小学校 校長 宮本 佳宏

来賓祝辞

広島県東部教育事務所 所長 立花 正行

尾道市立土堂小学校 副研究主任 谷川 友弥

## 分科会

(13:00～14:30)

分科会名 (会場)	協議テーマ	指導・助言者
コミュニティ・スクール (5年1組)	ミッションステートメントの具現化をめざして	比治山大学・比治山大学短期大学部副学長 広島大学名誉教授 林 武広 先生
国語科 (2年1組) (2年2組) (3年2組)	“問い”を手掛かりに主体的・対話的で 深い学びの実現をめざす国語科授業	福岡教育大学 国語教育講座 教授 河野 智文 先生 尾道市教育委員会 指導主事 大矢 純一 先生
算数科 (視聴覚室) (1年1組) (1年2組)	これからの時代に求められる算数科授業 ～新しい学習指導要領や 大学入学共通テストに対応できる学力～	福岡教育大学 数学教育講座 准教授 岩田 耕司 先生
総合的な 学習の時間 (4年1組)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 総合的な学習の時間	尾道市教育委員会 指導主事 保森 智彦 先生
特別支援教育 (3年1組)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 特別支援教育	広島県立尾道特別支援学校 教育相談主任 井桁 陽介 先生 教育相談主任 新林 美穂 先生

## 講評

(14:45～14:55)

広島県東部教育事務所 指導主事 神鳥 裕史 様



「知識を活用できる子供を育成するための算数科授業づくり

～割合や分数の学習指導を通して～

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部  
教育課程調査官 笠井 健一 先生

# MEMO

---



閉会行事

(16:20~16:30)

---

閉会挨拶

尾道市立土堂小学校 教頭 植木 雅子

# **IX 公開授業 I**

学年	内容 (教科)	指導者	教室						
1年1組	音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科) 計算・時計フラッシュ, ます計算 (算数科)	渡邊 翠大	1年1組						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>国語科</th> <th>算数科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。</p> </td> <td> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は, 個人差が大きい。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・放浪記</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> </td> <td> <p>1 計算フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計</li> <li>・足し算</li> <li>・引き算</li> </ul> <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ます (10秒ずつ)</li> <li>・30ます (30秒)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。</li> <li>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</li> <li>○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul> </td> <td> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。</li> <li>○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。</li> <li>○ます計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		国語科	算数科	<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。</p>	<p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は, 個人差が大きい。</p>	<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・放浪記</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>	<p>1 計算フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計</li> <li>・足し算</li> <li>・引き算</li> </ul> <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ます (10秒ずつ)</li> <li>・30ます (30秒)</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。</li> <li>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</li> <li>○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。</li> <li>○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。</li> <li>○ます計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>
国語科	算数科								
<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。</p>	<p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は, 個人差が大きい。</p>								
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・放浪記</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>	<p>1 計算フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計</li> <li>・足し算</li> <li>・引き算</li> </ul> <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ます (10秒ずつ)</li> <li>・30ます (30秒)</li> </ul>								
<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。</li> <li>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</li> <li>○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。</li> <li>○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。</li> <li>○ます計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>								

学年	内容 (教科)	指導者	教室						
1年2組	計算・時計フラッシュ, ます計算 (算数科) 音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科)	灰垣 亜希子	1年2組						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>算数科</th> <th>国語科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算は正確にできるが計算のスピードは個人差がとても大きい。</p> </td> <td> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>1 計算フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計</li> <li>・足し算</li> <li>・引き算</li> </ul> <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ます (10秒ずつ)</li> <li>・30ます (30秒)</li> </ul> </td> <td> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・放浪記</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。</li> <li>○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。</li> <li>○ます計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul> </td> <td> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。</li> <li>○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		算数科	国語科	<p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算は正確にできるが計算のスピードは個人差がとても大きい。</p>	<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p>	<p>1 計算フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計</li> <li>・足し算</li> <li>・引き算</li> </ul> <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ます (10秒ずつ)</li> <li>・30ます (30秒)</li> </ul>	<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・放浪記</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。</li> <li>○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。</li> <li>○ます計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。</li> <li>○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。</li> </ul>
算数科	国語科								
<p>【ねらい】 最後まで集中して, 正確に計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算は正確にできるが計算のスピードは個人差がとても大きい。</p>	<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p>								
<p>1 計算フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計</li> <li>・足し算</li> <li>・引き算</li> </ul> <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ます (10秒ずつ)</li> <li>・30ます (30秒)</li> </ul>	<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・放浪記</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>								
<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。</li> <li>○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。</li> <li>○ます計算では, 各自で目標時間を設定することで, 意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。</li> <li>○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○2回行う説明の中で, キーワードは何かを確かめることで, 聞き取りの視点をもたせる。</li> </ul>								

学年	内容 (教科)	指導者	教室				
2年1組	音読, 主語と述語フラッシュ (国語科) まず計算, 時刻・掛け算フラッシュ (算数科)	綿貫 岳人	2年1組				
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>国語科</b></p> <p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・竹</li> <li>・俳句</li> <li>・静夜思</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p><b>国語科</b></p> <p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・竹</li> <li>・俳句</li> <li>・静夜思</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>算数科</b></p> <p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 単位換算や掛け算の定着を図る。 【児童の実態】 自己目標を立て計算に取り組むことができるが, 単位換算を苦手とする児童がいる。</p> <p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け算</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さ</li> <li>・かさ</li> <li>・掛け算</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間や正答数等の目標を立て, 目標を意識して取り組ませる。</li> <li>○単位換算・掛け算の問題に意欲的に取り組めるよう, 全体や個で答える場を設定する。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p><b>算数科</b></p> <p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 単位換算や掛け算の定着を図る。 【児童の実態】 自己目標を立て計算に取り組むことができるが, 単位換算を苦手とする児童がいる。</p> <p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け算</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さ</li> <li>・かさ</li> <li>・掛け算</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間や正答数等の目標を立て, 目標を意識して取り組ませる。</li> <li>○単位換算・掛け算の問題に意欲的に取り組めるよう, 全体や個で答える場を設定する。</li> </ul>
<p><b>国語科</b></p> <p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・竹</li> <li>・俳句</li> <li>・静夜思</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。</li> </ul>						
<p><b>算数科</b></p> <p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 単位換算や掛け算の定着を図る。 【児童の実態】 自己目標を立て計算に取り組むことができるが, 単位換算を苦手とする児童がいる。</p> <p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け算</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さ</li> <li>・かさ</li> <li>・掛け算</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間や正答数等の目標を立て, 目標を意識して取り組ませる。</li> <li>○単位換算・掛け算の問題に意欲的に取り組めるよう, 全体や個で答える場を設定する。</li> </ul>						

学年	内容 (教科)	指導者	教室				
2年2組	まず計算, 時刻・掛け算フラッシュ (算数科) 聞き取り, 反対の意味の言葉フラッシュ (国語科)	岡 明美	2年2組				
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>算数科</b></p> <p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。 【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p> <p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け算</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻と時間</li> <li>・掛け算</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。</li> <li>○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p><b>算数科</b></p> <p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。 【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p> <p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け算</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻と時間</li> <li>・掛け算</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。</li> <li>○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>国語科</b></p> <p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。 【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p> <p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反対の意味の言葉</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らせずに聞かせる。</li> <li>○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p><b>国語科</b></p> <p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。 【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p> <p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反対の意味の言葉</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らせずに聞かせる。</li> <li>○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。</li> </ul>
<p><b>算数科</b></p> <p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。 【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p> <p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け算</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻と時間</li> <li>・掛け算</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。</li> <li>○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。</li> </ul>						
<p><b>国語科</b></p> <p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。 【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p> <p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反対の意味の言葉</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らせずに聞かせる。</li> <li>○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。</li> </ul>						

学年	内容 (教科)	指導者	教室
3年1組	音読, 聞き取り (国語科) Songs, Keyword game (外国語活動)	谷川 友弥	3年1組
<p><b>国語科</b></p> <p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり, 集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 意欲的に音読したり解答したりする児童が多い。はっきり発音することや最後まで集中することに課題がある児童がいる。</p> <p><b>留意点</b></p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・蜘蛛の糸</li> <li>・平家物語</li> </ul> <p>2 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>		<p><b>外国語活動</b></p> <p>【ねらい】 英語の音声に親しむとともに, 英語の歌やゲームなどの活動を楽しもうとする。 【児童の実態】 活動では, 大きな声で発音したり歌ったりする姿が見られ, 意欲的である。英語の指示や声掛けの意味が分からず, 戸惑うことがある。</p> <p><b>留意点</b></p> <p>1 Songs</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Head Shoulders Knees &amp; Toes」</li> <li>・「ABC song」</li> <li>・「Seven steps」</li> </ul> <p>2 Keyword game</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Animals」</li> </ul>	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
3年2組	100 問割り算, 大きな数, 長さフラッシュ (算数科) 地図記号プリント, 地図記号・八方位フラッシュ (社会科)	重光 泰徳	3年2組
<p><b>算数科</b></p> <p>【ねらい】 自分の目標に向かって集中して問題に取り組みようとする態度を育てる。 【児童の実態】 自己の目標をもち, 意欲的に取り組むが, 計算の速さや正確性に欠ける児童もいる。</p> <p><b>留意点</b></p> <p>1 100 問割り算</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな数</li> <li>・長さ</li> </ul>		<p><b>社会科</b></p> <p>【ねらい】 目標をもって学習に取り組み, 地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。 【児童の実態】 地図記号は定着してきているが, 八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。</p> <p><b>留意点</b></p> <p>1 地図記号プリント</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四方位・八方位</li> <li>・地図記号</li> </ul>	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年1組	音読, 部首・音読み・訓読みフラッシュ (国語科) Chants(country), Conversation exercise, Exercise to write words (外国語活動)	菅方 賢司	4年1組
<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> 伝わる声を意識してテンポよく音読し, 集中して学習しようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 大きな声で音読することはできるが, 全体でそろえて読んだり, 主語, 述語, 修飾語を見分けたりすることに課題がある。		<b>外国語活動</b> <b>【ねらい】</b> 正しい発音や表記を身に付け, 友達に自分の行きたい国を英語で伝えようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 覚えた英単語を使って楽しんで会話することができるが, 大文字と小文字を混同したりローマ字表記になったりする児童がいる。	
1 音読 ・五十音 ・落葉松 ・草枕 2 フラッシュ ・主語と述語, 修飾語 ・ローマ字		<b>留意点</b> ○集中して音読するため, 集団, グループ, 個と音読形態を工夫する。 ○間違いやすい問題は繰り返し, 出題する。	<b>留意点</b> ○ Big voice, Big smile, Don't speak Japanese. の3つを確認し, 意欲を高める。 ○Chants は, 聞き慣れた単語から順に提示する。 ○書き取りが終わった児童は, 裏面に練習させる。
1 Chants(country) ・ Ireland ・ New Zealand ・ China etc 2 Conversation exercise 3 Exercise to write words			

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年1組	100問割り算, 割合, 単位換算フラッシュ (算数科) Chants(I like apples.), Three hints quiz game, Read a sentence (外国語科)	舛上 敏成	5年1組
<b>算数科</b> <b>【ねらい】</b> 集中して計算する態度や割合に関する数量, 量と測定の見方・考え方を育てる。 <b>【児童の実態】</b> あまりのある除法の計算に時間が掛かる児童がいる。基準量と比較量を正しく捉えることに課題がある。		<b>外国語科</b> <b>【ねらい】</b> 英語で好きなものを伝え合ったり, 英文を読んだりすることに慣れ, 英語に親しむ。 <b>【児童の実態】</b> 友達と英語で会話することに苦手意識のある児童がいる。音声や文構造を意識して簡単な文を読むことに課題がある。	
1 100問割り算 2 フラッシュ ・割合 ・単位換算		<b>留意点</b> ○1列ずつに時間を区切って取り組ませる。 ○早く終わった児童には, プリントの裏の問題に取り組ませる。 ○基準量・比較量・割合の関係を捉えることにフラッシュで慣れさせる。	<b>留意点</b> ○テンポよくフラッシュを提示する。 ○身近な言葉や物語を扱い, 単語や文を読むことに関心を持たせる。
1 Chants(I like ~.) ・ fruits ・ animals ・ sports etc 2 Three hints quiz game 3 Read a sentence			

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年2組	音読, 聞き取り (国語科) プリント, フラッシュ (社会科)	赤羽 夏美	5年2組
<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> 詩や古文に応じた読み方を工夫して, 音読したり, 正確に文章を聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 詩や古文をリズムよく音読することができる。正しく聞き取ることはまだ十分でない。		<b>社会科</b> <b>【ねらい】</b> 農業・水産業の基礎的な知識を理解しようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 授業を通して学んだ知識を覚えようと意欲的に取り組む児童が多いが, 知識の定着には差がある。	
1 音読 ・五十音 ・平家物語 ・学問のすゝめ  2 聞き取り ・説明的文章		<b>留意点</b> ○読み方の形態を変え, テンポよく音読させる。  ○説明的文章を正確に聞き取り, 時間を制限して要約させる。	
		1 フラッシュ ・農業 ・水産業  2 プリント ・農業 ・水産業	
		<b>留意点</b> ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 ○フラッシュで学習したことを, プリントで定着させる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年1組	音読, 対義語・接尾語フラッシュ, 聞き取り (国語科) 歴史・政治フラッシュ, プリント (社会科)	才谷 瑛一	6年1組
<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> 工夫して音読し, 語彙力を高め, 意欲的に文章を聞き自分の考えをもとうとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 意欲的に音読をするが, 文章を聞き取ったり自分の考えをもったりすることに課題がある。		<b>社会科</b> <b>【ねらい】</b> 主体的に歴史的な出来事や人物の働きを理解しようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 進んで歴史人物を覚えているが, 歴史人物の業績や歴史的な出来事の知識の定着に課題がある。	
1 音読 ・論語 ・徒然草  2 フラッシュ ・対義語 ・接尾語 ・同音異字  3 聞き取り ・説明的文章		<b>留意点</b> ○読みの形態や古典の読み方を工夫して音読させる。 ○集中して取り組ませるために, 個人やグループで言わせる。 ○尾括型で, 字数制限を設けて自分の意見を書かせる。	
		1 フラッシュ ・日本国憲法 ・世界遺産 ・歴史 ・政治  2 プリント ・歴史	
		<b>留意点</b> ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 ○フラッシュで学習したことを, プリントで定着させる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年2組	100問割り算, 約数倍数・割合・比フラッシュ (算数科) 実験器具・ものの燃え方と空気・光合成と蒸散フラッシュ (理科)	亀本 拓朗	6年2組
算数科		理科	
<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 分数の乗法と除法の計算, 数量関係の問題につまずく児童が多い。</p>		<p>【ねらい】 主体的に実験器具や既習事項についての知識を理解しようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 実験器具の名称は理解しているものの, 1学期の学習内容につまずく児童が多い。</p>	
<p>1 100問割り算</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約数, 倍数</li> <li>・割合</li> <li>・比</li> </ul>		<p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験器具</li> <li>・ものの燃え方と空気</li> <li>・光合成と蒸散</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○100問割り算は, 時間を計り, 前回の記録更新を目指すさせる。</li> <li>○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。</li> </ul>		<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ものの燃え方と空気と光合成と蒸散は, 1人で読ませる。</li> <li>○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。</li> </ul>	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年 (知的)	計算フラッシュ, 計算プリント, 数の聞き取り (算数科) 音読, フラッシュ, 1文聞き取り (国語科)	上田 千紘	たんぼぼ
算数科		国語科	
<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 計算問題は意欲的に取り組めるが, 緊張感から数の合成をまちがえることがある。</p>		<p>【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。</p> <p>【児童の実態】 音読はリズムよく, 大きな声で発声することができる。しかし, 聞き取りは苦手である。</p>	
<p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数点の移動</li> <li>・数字の大小</li> </ul> <p>2 計算プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100ます計算</li> <li>・100問割り算</li> </ul> <p>3 数の聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな数</li> </ul>		<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・雨ニモマケズ</li> <li>・坊っちゃん</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字</li> <li>・ことわざ</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよく答えさせる。</li> <li>○目標時間を設定させ, 意欲的に問題を解けるようにする。</li> </ul>		<p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムよく読ませる。</li> <li>○はっきり読ませる。</li> <li>○主語と述語を意識して注意深く聞き取らせる。</li> </ul>	



学年	内容 (教科)	指導者	教室
1年 (自閉症・情緒)	音読, 聞き取り, カード, フラッシュ (国語科) 計算カード, フラッシュ, 時計 (算数科)	黒飛 美穂	さくら
国語科	<p>【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。</p> <p>【児童の実態】 ひらがな及びカタカナの読み書きはできるが, 声が小さい。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉</p> <p>2 聞き取り (説明的文章)</p> <p>3 カード ・漢字 ・日付と数え方</p> <p>4 フラッシュ ・反対言葉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○リズムよく読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○大事な言葉を確認してから, 聞き取らせる。</p> </div>	算数科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 計算問題に意欲的に取り組めるが, 焦って式を読み間違えたり, 計算間違いをしたりすることがある。</p> <p>1 計算カード ・足し算 ・引き算</p> <p>2 フラッシュ ・お金の数</p> <p>3 時計 ・時刻を読む ・時刻を示す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよく答えさせる。 ○目標時間を設定させ, 意欲的に問題を解けるようにする。</p> </div>

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年・5年 (自閉症・情緒)	音読, 聞き取り, フラッシュ, カード (国語科) プリント, 聞き取り, フラッシュ (算数科)	黒飛 美穂	さくら
国語科	<p>【ねらい】 リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。</p> <p>【児童の実態】 音読はリズムに乗って素早く言うことができるが, 話の要点をまとめながら聞くことは苦手である。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉</p> <p>2 聞き取り (説明的文章)</p> <p>3 フラッシュ ・ローマ字 ・ことわざ</p> <p>4 カード ・漢字</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○拍をとり, リズムよく読ませる。 ○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。 ○何に注意して聞くのかを伝える。</p> </div>	算数科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 計算問題に意欲的に取り組めるが, 正しい商を素早く立てることが苦手である。</p> <p>1 フラッシュ ・商立て</p> <p>2 聞き取り ・大きな数</p> <p>3 プリント ・掛け算 100 ます計算 ・割り算 50 問</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○テンポよくフラッシュを示し, 集中して取り組めるようにする。 ○計算プリントでは, 過去最高タイムを提示し, 自己記録を塗り替えようとする意欲を高める。</p> </div>

学年	内容 (教科)	指導者	教室
2年 (難聴)	音読, 聞き取り (国語科) 計算プリント, カード・プリント (算数科)	岡田 美紀代	すみれ
国語科	<p>【ねらい】 口形や発音に気を付け,リズムよく音読したり, 大事なことを落とさずにメモをとって聞いたりする。</p> <p>【児童の実態】 メモをとって聞こうとするが,短い言葉で書くことができなくて,要点を見落とすことがある。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・雨ニモマケズ ・俳句 ・短歌 ・春望</p> <p>2 聞き取り ・説明的文章</p> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <p>○リズムよく,口形を意識しながら読ませる。</p> <p>○大事な言葉を確認してから, 聞き取らせる。</p>	算数科	<p>【ねらい】 自分の目標を達成するために,集中して計算に取り組むことができる。</p> <p>【児童の実態】 計算問題に意欲的に取り組めるが, 丁寧に数字を書くために目標を達成することができていない。</p> <p>1 カード ・掛け算 ・長さ ・単位</p> <p>2 プリント ・掛け算計算 ・長さ ・単位</p> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <p>○カードに書かれていることを声にだしてしっかりと読ませる。</p> <p>○目標時間を設定させ, 意欲的に問題を解けるようにする。</p>

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年 (難聴)	音読, 漢字のカード,読み取り (国語科) プリント, フラッシュ (算数科)	岡田 美紀代	すみれ
国語科	<p>【ねらい】 大きな口を開けて,積極的に音読したり, 文字をすばやく読み取り,内容を把握することができる。</p> <p>【児童の実態】 大きな口をあけて発表することが苦手である。また,読むことと同時に,内容を理解することが苦手である。</p> <p>1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・早口言葉 ・雨ニモマケズ ・俳句 ・短歌 ・春望</p> <p>2 漢字カード 3 読み取り ・物語的文章</p> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <p>○拍をとり,リズムよく読ませる。</p> <p>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</p> <p>○何に注意して聞くのかを伝える。</p>	算数科	<p>【ねらい】 集中して最後まで計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 意欲的に計算問題に向き合うことができるが, 15分間を最後まで集中することができない。</p> <p>1 プリント ・掛け算 100 ます計算 ・割り算 50 問</p> <p>2 聞き取り ・大きな数</p> <p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <p>○計算プリントでは, 前回の記録を提示し, 自己記録を塗り替えようとする意欲を高める。</p> <p>○大きな数を聞き取るためには,位取りに注意して聞くことを伝える。</p>

# MEMO

---

# **X 公開授業II**

## 読書ってこんなに楽しい！～わくわく・どきどきするところを紹介しよう～ 1年「おとうとねずみ チロ」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容「C 読むこと」に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。  
オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

### (1) 単元観

本単元では、登場人物の行動や会話文、挿絵に着目して、想像を広げながら楽しんで読むことをねらいとする。その際、学習指導要領「C 読むこと」の言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」を参考に、「わくわく・どきどきカード」に書いて紹介する活動を設定した。ここで取り上げる「わくわく・どきどきカード」は、自分が今まで読んだ本の中でお気に入りの本の中から、わくわく・どきどきする場面を選んで書いていくものである。「わくわく・どきどきするところを見つけて読む」という場を設定した上で、単元を通して場面の様子について登場人物の行動や会話などに着目して、想像を広げて読むことを繰り返し位置付けていくことで、読む力を養っていくことができると考える。

本教材は、おばあちゃんからのチョッキを楽しみに待つチロの行動や気持ちを中心に描かれた物語である。また、(1) おばあちゃんから手紙が届く場面 (2) チロがおばあちゃんに呼びかける場面 (3) おばあちゃんから小包が届く場面 (4) チロがおばあちゃんにお礼を言う場面の大きく4つの場面に分けられ、「いいこと」を考えたチロが、丘の木の上からおばあちゃんに呼びかける場面が物語の山場となる。時と場所の変化によって場面分けされ、児童にとっては捉えやすい場面設定になっている。また、三兄弟の末っ子であるチロの幼く素直な様子を自分自身に重ね合わせ、共感をもって読み進めることができる作品になっている。そのため、自分自身の今までの経験を踏まえて、チロの気持ちを読み取ることができると考える。

### (2) 児童観

#### 学力調査等の実態

国語科に関するアンケートを実施したところ、読書が好きと答えた児童は72%で、「本を読むとわくわくしたりどきどきしたりするから」「おもしろい話が多いから」と本を読むことに喜びを感じている児童が多い。しかし「どんな話か分からない」「長いお話が多い」と読書に抵抗を感じている児童もいる。1学期の「おおきなかぶ」のテストでは、話のおおまかな内容を捉えることができている児童が93%であり、かぶが抜けた時のおじいさんの気持ちを想像して書くことができている児童が72%であった。登場人物の気持ちを上手く言葉で表せない児童や、抽象的な言葉でしか表せない児童の姿、また、叙述や挿絵に関係なく、登場人物の気持ちを考える児童の姿が見られた。

#### 課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、1学期に「おおきなかぶ」の学習を通して、「どうすれば本当にかぶを抜いているように音読することができるだろう」という課題を設定し、動作化を取り入れ、吹き出しを用いながら登場人物の気持ちを想像しながら読む学習を行った。おじいさんの気持ちになって読み取ったり、おじいさんの発言を挿絵などから想像したりしながら気持ちを考える児童の姿が見られた。しかし、気持ちを考えることはできても、その根拠となる文章を挙げられない児童もいる。

### (3) 指導観

単元に入る前に、児童が自分で読めて魅力的な人物が出てくる本を並べたコーナーを教室に設置し、読書に親しめる環境を作り、そのおもしろさを日々味わわせておく。その際、本を読むことへ苦手意識をもっている児童もいるため、量・内容・字の大きさ等に配慮したい。そして、本文に書かれていることを音声化し理解を深めるために、家庭学習や毎時間開始時には音読に繰り返し取り組ませる。

「しんぱい」や「いいこと」という言葉にこだわり、なぜ心配なのか、何が心配なのか、いいこととは何なのかを叙述を基にして考え、より登場人物の様子や行動を想像できるようにしたい。

物語のわくわく・どきどきするところを見付けるためには、その人物の行動や会話に着目して読んでいく必要がある。様子を想像して音読するために、叙述と音読による表現とを結び付けて読み取っていきたい。たとえば、「三びきは大きよこび」という叙述から三匹のどんな様子が伝わってくるかなど、イメージを膨らませられる問いかけをしたり、チロの声がどんどん小さくなって響いていく様子を想像させるために、同じような経験をしたことはないかを問い、場面の様子を自分の経験と重ね合わせて具体的に想像できるようにしたりする。

また、理由と併せて、自分の意見を言うことができるようにするため、登場人物の行動や気持ちを読み取る際には、その都度叙述に戻って考えられるようにしたい。例えば、「チロに向けて何と言ってあげたいか」を問い、チロの行動や会話に着目しながら読み取ることができるようになる。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。(知識及び技能)
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 物語の中のわくわく・ドキドキするところについて、カードに書いて紹介したいところを見付けることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
教科	○ 「心配」「不安」「安心」など、身近なことを表す語句の量を増やし、また、その意味を理解し、話や文章の中で使っている。	○ 物語のわくわく・ドキドキするところを見付けるため、登場人物の行動や会話、挿絵に着目して、想像を広げて読んでいる。	○ 物語のわくわく・ドキドキするところについて、カードに書いて紹介したいところを見付けている。

**3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり**

本単元において、物語のわくわく・ドキドキするところを見付けて、「おとうとねずみ チロ」や他の作品のわくわく・ドキドキするところについての紹介カードを作成することを通して、登場人物の行動や会話、挿絵に着目して、想像を広げて読んだり、自分の思いや考えを言葉にしたりする思考力・表現力(スキル)を育むことができると考える。

**4 指導計画 (全 15 時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
○	児童が自分で読めて魅力的な人物が出てくる本を並べたコーナーを教室に設置し、読書に親しめる環境を作り、そのおもしろさを日々味わわせておく。また、朝読書の時間に読み聞かせを聞く。		
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>教師の範読を聞き、初発の感想・不思議だと思ったこと(問い)を書く。 全文を読み、物語のわくわく・ドキドキするところを見付けるという見通しをもち、学習課題を考える。(2)</p>	<p>チロは小さくてかわいいな。 チロのチョコッキも来てよかったな。 どうして、チロは自分のチョコッキが来ないと思ったのかな。</p>	<p>物語を読むことに興味をもち、楽しんで取り組もうとしている。 【態度】(行動観察、発言) 題名から、どんな内容なのか想像を広げ考えている。 【思・判・表】(ワークシート、発言)</p>
	<b>【本質的な問い】もっと本を好きになるには、どうしたらいいだろう。</b>		
二	<p><b>情報の収集 整理・分析</b></p> <p>登場人物の好きなどところを見付けるために、叙述や挿絵に即して、想像を広げながら読み、物語のわくわく・ドキドキするところを見付ける。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手紙が届いたときのチロの様子</li> <li>・ チロのチョコッキはないと言われたときのチロの様子</li> <li>・ 「いいこと」を思いついたときのチロの様子</li> <li>・ おばあちゃんにお願いをしたときのチロの様子</li> <li>・ チョッキが届いたときのチロの様子</li> <li>・ お礼を言うときのチロの様子</li> </ul> <p>手紙が届いてから、チョコッキが届くまでの間のチロの気持ちを考え、物語全体を振り返る。(2)(本時9/17)</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>物語のわくわく・ドキドキするところを見付け、わくわく・ドキドキカードに好きなどところを書き、伝え合う。(2)</p>	<p>チロのはないよと言われた時はとても悲しかったと思います。自分も同じことを言われたら悲しくなります。</p> <p>「いいこと」を思いついてどんどん歩いていくチロが好きです。とてもかっこいいです。</p> <p>チョコッキが届いたときはチロはとても嬉しかったと思います。</p> <p>お礼を言うときゆっくり言っているから、ほんとうにありがとうって思ったと思うよ。</p> <p>チロが丘の木の上に乗って叫ぶところが好きです。</p>	<p>語のまとめや、繰り返しの表現に気を付けながら音読している。 【知・技】(行動観察)</p> <p>登場人物の行動や会話、挿絵から場面の様子や登場人物について、想像しながら読んでいる。 【思・判・表】(ワークシート、発言)</p> <p>物語のわくわく・ドキドキするところについて、カードに書いて紹介したいところを見付けている。 【態度】(ワークシート)</p>

	<p><b>情報の収集</b> <b>整理・分析</b></p> <p>今まで読んだ本の中からお気に入り の本を選び、読む。(1)</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b> <b>実行</b> <b>ふりかえり</b></p> <p>自分が選んだ本のわくわく・どきどき カードを作成し、伝え合う。(2)</p> <p>作成したわくわく・どきどきカードを 教室に掲示し、本単元が終了した後も、 おすすめしたい本を見つけたらわくわ く・どきどきカードに書くことができ るようにする。</p>	<p>やまんばあかちゃんの本を読 もうかな。</p> <p>やまんばあかちゃんがいろ いろな技をできるようになると ころが好きです。</p>	<p>物語を読むことに興味をも ち、楽しんで取り組もうとし ている。 【態度】(行動観察, 発言)</p> <p>登場人物の行動や会話, 挿 絵から場面の様子や登場人物 について, 想像しながら読ん でいる。 【思・判・表】(ワークシート, 発言)</p>
--	--	--	--

## 5 本時の展開 (9/15)

### (1) 本時の目標

登場人物の行動や会話, 挿絵から, 場面の様子や登場人物の気持ちを考えることを通して, 物語のわくわく・どきどきするところを見付けることができる。

### (2) 観点別評価規準

登場人物の不安な気持ちや安心の気持ちを, 会話や行動から読み取ることができる。【思・判・表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
<p>1 本時の見通しをもち, 教材文を音読する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 全文を全員で音読することで, 前時までの内容を思い出し, 登場人物の様子や気持ちを想像して読めるようにする。</p> <p>○ チロの行動や気持ちをそれぞれの場面ごとでまとめて掲示し, 視覚的に前時までの復習ができるようにする。</p>	
<p>小づつみをまっているあいだ, チロはどんなきもちだったのだろう。</p>		
<p>3 チロの気持ちを想像しながら読み取る。</p>	<p>◆ ワークシートと板書を揃えて書くことで, 本時の流れが視覚的に分かるようにする。</p> <p>○ にいさんねずみとねえさんねずみに「チロのはないよ」と言われたときのチロの気持ち, チョッキが届いたときのチロの気持ちを復習し, 物語の始めと終わりで, チロの気持ちが「不安」から「安心」へと変化していることに気付かせる。</p> <p>○ 「不安」な気持ち, 「安心」の気持ちそれぞれなぜその気持ちになっているのか考え, 「不安」「安心」という言葉の意味をチロの気持ちを想像することで理解できるようにする。</p> <p>○ P71L3 の「なん日かたって」の部分に着目し, 小包が届くまでの間, チロは不安だったのか, 安心していただけなのかを考え, 物語全体を振り返られるようにする。</p> <p>○ なぜ不安だと思うのか, 安心だと思うのかを理由と併せて考えられるよう, 「ぼくにもチョコッキあんでね。」という叙述や, おばあちゃんから返事はないことを叙述から読み取り, 自分の意見に根拠をもつことができるようにする。</p>	<p>物語の好きなところを見付けるため, 登場人物の行動や会話, 挿絵に着目して, 想像を広げて読んでいます。 【思・判・表】(ワークシート, 発言)</p> <div data-bbox="1145 1727 1428 1977" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分のがないと言われた時は悲しかったと思うよ。(不安) 小包が届いて3枚入っていた時は本当に嬉しかったと思うよ。(安心)</p> </div>

<p>4 物語のわくわく・どきどきするところを見付ける。</p> <p>5 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「不安」「安心」という一言だけでは表すことができない場合もあるため、不安と安心の度合いを不安な気持ちを青、安心の気持ちを赤で塗ることで、視覚的に表すことができるようにする。</li> <li>○ チロの気持ちをより想像できるよう、「自分だったらどうするか」と問い、チロと自分を重ね合わせ、自分の経験を踏まえて考えられるようにする。</li> <li>○ ペアでチロの様子や気持ちなどの意見を交換させ、自分の考えを声に出して伝えることで考えを整理させ、全体交流につなげられるようにする。</li> <li>○ 全体を振り返り、物語のわくわく・どきどきするところとなぜそう思ったのか（理由）をカードに書く。</li> <li>○ 意見を発表する際、なぜその場面がわくわく・どきどきしたのかを理由と併せて言うことができるようにする。</li> <li>○ 物語のわくわく・どきどきするところを見付けることができたか、友達に自分の意見を話すことができたか、友達の発表を聞くことができたかどうかを評価し、感想を書く。</li> </ul>	<div data-bbox="1134 212 1428 504" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>おばあちゃんのところへ声がとんでいったと思っているから安心していると思うよ。 おばあちゃんから、分かったよって返事がなかったから不安だったんじゃないかな。</p> </div> <div data-bbox="1134 627 1428 840" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>チロが丘の木の上へのぼって叫んだところがわくわくしました。 チロが最後にお礼を言うところが好きです。</p> </div>
--	---	---

チロが丘の木の上へのぼって叫んだところが好きです。自分だったら、もう届かないと思って諦めてしまうと思います。



# 心の声が聞こえる楽しい紙芝居を作ろう

## 2年「ニャーゴ」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 課題発見・解決力

### 1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容「C 読むこと」に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。  
カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

### (1) 単元観

本単元では、場面ごとに様子を思い浮かべて読んだり、読んで想像したことや感じたことを絵や音読で表現し、伝えたりすることをねらいとする。そこで本単元では、1学期に「お手紙」の音読を工夫し紙芝居をしたことを思い出しながら、場面ごとに様子を思い浮かべ、中心人物である猫の心の声を想像し表現した紙芝居を作り発表するという言語活動を設定した。紙芝居を作るために、場面を捉える力や時間的順序に沿って場面の様子を読み取り、自分の体験や読書経験と結び付けて、登場人物の気持ちを想像し、絵や音声で表現する力が必要となる。

本教材「ニャーゴ」は、時と場所、人物によって場面が分けられ、会話をもとにして、人物の行動や様子、気持ちを想像しながら読むことができる物語である。おしゃべりをして先生の話聞いていなかった3匹のねずみは、猫が現れても恐れることなく、一緒に桃を取りに行こうと誘う。猫は、ねずみを食べようとして「ニャーゴ」と叫んだが、子ねずみたちは挨拶の言葉だと誤解する。ねずみたちはお土産として猫に桃をあげ、猫はその桃を大事そうに抱えて帰るといふ話である。「食う一食われる」の関係にある両者だが、ねずみの無邪気さや優しさから相手に思いが伝わるということを感じさせてくれる作品である。また、猫の企んでいる心内語が表記されているところもあるが、その他の場面においては想像しやすく、児童は猫になりきって心内語を表現することができるのではないかと考える。

そこで、本単元の学習では、お話のおもしろさが伝わるように、実際には聞こえない猫の心の内声を表現した紙芝居を作って発表するという目標を、紙芝居で表現するためにみんなで考えていきたいことを課題にし、場面ごとに様子や行動、心の声を具体的に想像しながら読んだり、お話の楽しさが伝わるように音読を工夫したりしながら、主体的に学ばせていきたい。

### (2) 児童観

#### 学力調査等の実態

1学期には、「お手紙」の学習を通して、場面ごとに人物の様子や気持ちを押さえながら読む学習を行った結果、児童は叙述を頼りに人物の様子を音読で表現する工夫をした。アンケートで音読を工夫していると答えた児童は100%、学習の成果を発表するのが好きと答えた児童も89%で、表現する喜びを感じている。

物語が好きと答えた児童は96%で、想像したり気持ちを考えたりすることが好きと答えていた。友達と交流をするのが好きと答えた児童は96%だが、自分の考えを発表するのが好きと答えた児童は、85%だった。発表するのは緊張するので苦手という児童がいる。

#### 課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、1学期に初発の感想から課題を考えて、それを解決する学習をしてきた。「どうしてだろう。」「不思議だな。」「みんなで話し合ってみよう。」というところを課題にした。しかし、この時に自分で課題を考えることができた児童は57%だった。

「お手紙」では、1年生に工夫した紙芝居をしたいという願いから、悲しい気分を元気に読んだ音声と、悲しそうに読んだ音声を聞き比べ、より自分たちの目指す音読にするために全体の課題を作り、意見交流をしながら表現する方法を考えた。1年生に紙芝居を発表し、喜んでくれた姿を見て、児童は達成感を味わった。

また、みんなで課題を解決することは、たくさん人の考えを聞くことができるというよさを感じている児童もいる。

### (3) 指導観

中心人物の猫は、ねずみたちを食べてやろうと考えながら接している。その心の内声は、ねずみたちに聞かされてはならないが、読者に聞こえると話の楽しさを助長してくれる。児童は心内語があることを知っているが、それを音読で表現するのはあまり経験がないと思われる。物語の中でも、猫の心内語は（ ）で表記されている。会話文と心内語の違いをどう音読で表現するかを考えたり、「うん」と大きなため息をついたときの猫の心の中を表現したりすることにより、理解を深めることができるのではないかと考えられる。

自分の考えを伝えることに消極的な児童も、中心人物の心内語を考えることで、「伝えたい」「知ってもらいたい」という気持ちが生まれるのではないかと考える。

教師が作った手作りの紙芝居を読み聞かせ、意欲をもたせたい。その際、もっと楽しい紙芝居にするために心内語が入っている紙芝居と心内語が入っていない紙芝居の読み聞かせから考えさせたい。何かを企んでいて相手に聞こえてはいけぬ心の声表現されていると楽しいことに気づき、心の声が聞こえる紙芝居作りに意欲をもたせたい。そこで、どの場面の心内語を考えていけばよいかを発見させ、それを課題としてみんなで考えていく。また、初発の感想から出た「どうして」「不思議だな」という問いと関連付けながら解決していきたい。

また、考える際には個人で考えたり、ペアで考えたり、班で話し合ったりするなどその場にふさわしい思考活動の形態を取り入れ、多くの人の意見が出せる工夫をしたい。また、話し合いも自分の意見を伝えるだけでなく、よりよい解決に向けての対話ができるようにしていきたい。自分たちが考えた課題を解決していくことを通して、より楽しい紙芝居を主体的に作っていかうとするのではないかと考える。

- 話のまとめや言葉の響き、登場人物の気持ちに気を付けて音読することができる。(知識及び技能)
- 人物の行動を中心に場面の様子を想像しながら読み、読んで感じた自分の思いや考えを伝え合うことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 登場人物の心内語を考えながら、紙芝居を作って紹介することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

## 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	○ 言葉には事物の内容を表す働きがあることを知り、話や文章の中で使ったり、登場人物の気持ちに気を付けて音読したりしようとしている。	○ 人物の行動を中心に場面の様子を具体的に想像しながら読み、本文に書かれていない登場人物の心内語を考え、伝えようとしている。 ○ 場面に応じた絵を描き、心内語を入れた楽しい紙芝居を作ろうとしている。	○ 楽しい紙芝居にするための方法を考え、登場人物の心内語を想像することにより、紙芝居を作って紹介しようとしている。

## 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、心内語を取り入れた紙芝居を作り、物語のおもしろさを伝えるという目的を設定する。場面ごとに様子を思い浮かべて読むことを通して、登場人物の心の中の声を想像し、絵や文で表現するための思考力・表現力を育成することができる。また、紙芝居を作成するに当たって、様々な悩みや困難が生じてくると思われる。それを、みんなで解決しながら学習を進めていく課題発見・解決力も育成していけるのではないかと考える。

## 4 指導計画(全17時間)

### 5 本時の展開(10/17)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
0	学年の本棚に猫とねずみが出てくるお話コーナーや紙芝居コーナーを作っておき、学習の意欲を高める。		
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>全文を読み、初発の感想から問いを見付ける。内容の大体を捉え、紙芝居を作るという見通しをもたせる。心内語を想像したい場所を出し合い、課題にする。(4)</p>	<p>猫とねずみは仲があまり良くないけれど、このお話は最後に仲良くなったな。どうしてか考えたいな。自分で「ニャーゴ」の紙芝居を工夫して作って、みんなに楽しんでもらいたいな。</p>	<p>「ニャーゴ」の手作り紙芝居の読み聞かせを聞き、紙芝居作成への興味や関心もち、物語のおもしろさを伝えるために登場人物の様子から心内語を考えようとしている。 【態度】(行動観察・ノート・発言)</p>
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理分析</b></p> <p>場面ごとの登場人物の考えたい心内語について話し合い、考えを広げ、工夫して表現する。(7, 本時10/17)</p>	<p>【本質的な問い】登場人物の心内語を考えて、楽しい紙芝居を作りたいな。</p> <p>どうしてねずみたちは、先生の話聞いていなかったのだろう。 2場面、「ニャーゴ」と言って、現れたときの猫は(おいしそうだな。食べるぞ。)と心の中で言っていたのだろうね。 3場面では、ねこが桃を食べながら思ったことをもっと想像してみたいな。 4場面でもう一度「ニャーゴ」と言っているよ。このときは、心の中でどんなことを考えていたのかな。みんなの考えも聞いてみたいな。 子ねずみたちがお土産に桃をくれた時、「ううん。」といって大きなため息をついているけれど、ねこは心の中でどんなことを考えていたのだろう。 5場面では、だいじそうに桃をかかえながら、小さな声で「ニャーゴ」と言っているよ。(また一緒に桃を取りに行こうね。)と言っているのかな。 どうしてねこは、ねずみを食べなかったのだろう。ねずみたちにやさしくしてもらって友達になったからかな。</p>	<p>言葉には事物の内容を表す働きがあることを知り、話や文章の中で使ったり、音読したりしようとしている。 【知識及び技能】(行動観察・ノート)</p> <p>登場人物の行動や様子を読み取り、会話文とは異なる心内語を想像し、文章や音読で表現することができる。 【思・判・表】(ノート・発言)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>実行</b></p> <p>心内語を取り入れた紙芝居を作り、発表する練習をする。読みきかせをし、学習の振り返りを行う。(6)</p> <p><b>振り返り</b></p>	<p>5つの場面は、それぞれどんな絵を描いたらいいかな。授業で考えた心内語を取り入れて紙芝居を作ってみよう。「ニャーゴ」といったところを怖がらせるために、どんな工夫をしようかな。</p> <p>誰かに一生懸命聞いてもらおううれしいな。みんな課題を解決して、考えを広げてきてよかったな。</p>	<p>登場人物の心内語を考えながら、紙芝居を作って紹介することができる 【思・判・表】(成果物・行動観察)</p>

(1) 本時の目標

楽しい紙芝居を作るために4場面の登場人物の心内語を考え、紙芝居に生かすことができる。

(2) 観点別評価規準

人物の行動を中心に場面の様子を具体的に想像しながら読み、本文に書かれていない登場人物の心内語を考え、伝えようとしている。 【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	○ 楽しい紙芝居を作るために登場人物の心内語を考えている流れを想起し、本時のめあてを確認する。	
4場面の心の声を考えて、紙芝居に生かそう。		
2 1次で考えた課題の中から4場面を考えられる課題を選択する。  3 登場人物の心内語を考える。	<p>○ まだ解決していない課題の中から4場面で考えられる心内語の場所を選ぶ。</p> <p>① 「ニャーゴ」とできるだけ怖い顔で叫んだところ ② 「ううん。」とねこが大きなため息をついたところ</p> <p>○ 挿絵をノートに貼る。そこに2種類の吹き出しをつけて会話文と心内語が書けるように準備する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">会話文の吹き出し</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">心内語の吹き出し</div> </div> <p>○ 登場人物の会話や行動を叙述から読み取り、猫の置かれている状況を確認する。</p> <p>◆ 話す視点を示し、みんながつながて話をしていけるようにする。発表することが苦手な児童も発言できるように、ペアで励ましたり、声かけをしたりするようにする。</p> <p>○ 心内語を吹き出しに書く。</p> <p>◆ 吹き出しに書くことに戸惑いがある児童には、その時の登場人物の気持ちを尋ね、心の中でどんなことを考えていたかを引き出すようにする。</p>	<p>1から3場面で心内語を考えてきて楽しくなってきたな。4場面も考えたいな。</p> <p>「ニャーゴ」と怖い顔で叫んだところは、どんな気持ちで言ったのかな。「ううん。」とねこがため息をついたところはどうしてだろう。みんなと考えたいな。</p> <p>○ 人物の行動を中心に場面の様子を具体的に想像しながら読み、本文に書かれていない登場人物の心内語を考え、伝えようとしている。【思・判・表】(発言、ノート、行動観察)</p>
4 友達の考えを聞く。	<p>○ ペアや班の人に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたりする。全体で交流する。楽しい紙芝居になるように、自分の考えを見直すようにする。</p> <p>◆ 友達の考えた心内語のよいところや真似したいところを取り入れてもよいことにする。</p> <p>○ できた心内語を入れて、ペアでノートを見せながら紙芝居のように発表し合う。</p>	<p>①は、怖い顔で言っているから怖い言い方にしたいな。「食ってやる。」と言っているからその続きを考えてみよう。②は、食べたかった子ねずみをあきらめる「ううん。」かな。ねずみたちのことを好きになったのかな。</p> <p>友達よ、自分が思い付かなかったことも想像して書いているな。すてきだな。</p>
5 まとめと振り返りをする。	<p>○ 自分が考えた心内語を生かして、楽しい紙芝居を作っていくという学習のゴールを確認し、5場面への意欲付けを図る。</p> <p>○ 楽しい紙芝居を作るために登場人物の心内語を考えることができたかを振り返り、自分の成長を感じたり、次への意欲を高めたりする。</p>	<p>楽しい紙芝居にするために登場人物の心内語を考えることができたな。自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりして考えが広がったな。5場面も心内語をたくさん考えて楽しい紙芝居にしたいな。</p>

単元名

物語の魅力を知り、いろいろな物語を読もうパートⅢ  
3年「モチモチの木」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。次期学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
- エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。
- カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

(1) 単元観

本単元では、単元のゴールを「物語の魅力を知り、いろいろな物語を読もう」と設定することで、場面の様子や情景を想像しながら読む力や、描かれている人物像をより明確に捉える力を付けることをねらいとしている。

本教材は、小見出しのついた5つの場面で構成されている。地の文は語り手による民話調の言葉であたかく表現されており、各場面は、小見出しと美しい挿絵が入っている。夜のモチモチの木や、一人で外に出ることを怖がっていた臆病な豆太が、「じさま」のことを心から大切に思う気持ちから勇気を出す姿を通して、豆太の人物像について考えさせたい。これまで臆病だった豆太の山場の勇気ある行動とは対照的に、再び「臆病な豆太」に戻ってしまうという作品の構成や、「豊かな自然とじさまの優しさに包まれて育った豆太は、いざという時には勇気が行動としてあらわれる」ことについても捉えさせたい。また、斎藤隆介作品を読むことによって、「人間は誰でも、誰かを心から思う気持ちがあれば、勇気を出すことができる」という作品の主題にも迫ることに適した教材である。物語を読み、中心人物の変容を考える中で、作品の価値や本質に迫ろうとする力を他教材の読み取りでも生かしていきたいと思本単元を設定した。

本教材の読み取りを生かして、シリーズで物語を読む楽しさを実感することで、新たなジャンルへの読書を広げるきっかけになるようにしたい。

(2) 児童観

学力調査等の実態

国語に関するアンケートを実施したところ、国語が好きと肯定的に答えた児童は87%で意欲的に取り組んでおり、1学期に行った「読む」のテストの平均は90点であり、概ね満足できている。一方、4月の「すいせんのラップ」、6月の「ゆうすげ村の小さな旅館」の学習を通じて、叙述を基に登場人物の気持ちを考えていった。根拠を見つけても、理由を付けて分かりやすく発表できる児童は、多くない。しかし、少しずつ自分の考えを途中までも発表しようとする児童は増えている。

また、読書は好きと肯定的に答えた児童は95.7%で、朝読書では、集中して本を読んでいる。現在物語を読んでいる児童は、17.4%に留まっていたが、「ゆうすげ村の小さな旅館」の学習を通じて、物語に興味をもつ児童が増えた。

課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、「すいせんのラップ」では、参観日で音読発表会をしてお家の人に「上手」と言ってもらおうという目的をもち、そのための課題を見付け、解決することを通して、音読発表会に生かした。また、「自然のかくし絵」の学習では、自然のかくし絵ブックを作るために、筆者の文章を書く技法を使うという目的をもって本文を読み、課題を見付け、解決していった。解決を通して筆者の技を読み取り、自然のかくし絵ブックに生かしていった。さらに、「ゆうすげ村の小さな旅館」の学習では、感想から出た「問い」を基に話し合い、課題を解決してきた。

(3) 指導観

指導にあたっては、単元の最後に斎藤隆介シリーズを語り合おうという言語活動を設定し、学習の目的をもたせる。そのために、斎藤隆介さんの本を用意して、並行読書ができるようにする。本について友達と話し合うことの楽しさを実感させるとともに、シリーズで読むことで作者の伝えたいことを考えたり他の本と比べたりすることで、物語を読むおもしろさにふれさせ、読書の幅を広げさせたい。

話し合いの際には、ペアやグループで話し合う活動を取り入れ、自分の考えがもてるようにしたい。発表するときは、分からないことを質問したり途中までの発言を認めたりして、一人一人が発表できる場を設定する。振り返りには、自分の考えの変容を書くようにし、話し合いのよさや成長を感じさせ、国語科の魅力を感じさせたい。

第一次では、1学期から先生コーナー等いろいろな物語を読んできたことを想起させる。今回は同じ作者の物語をシリーズとして読み、友達と話し合っておもしろそうなシリーズを見付けていくことを伝える。人物像を読むことで物語がおもしろくなることを伝え、「モチモチの木」では、人物像を読む学習をするという目的意識をもたせる。また、初発の感想からみんなで話し合うための「問い」を作っていく。第二次では、「問い」を考えていくことで、場面の様子や情景を想像しながら読む力や、描かれている人物像をより明確にとらえていく。第三次では、その力を使って、斎藤隆介シリーズの物語を友達と話し合う。これらの活動を通じてシリーズで物語を読む楽しさにふれ、今後、シリーズで本を見付けるという方法を身に付けさせたい。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- 物語の魅力に気付き、いろいろな本を読むことや本について友達と語り合う楽しさに気付くことができる。  
(知識及び技能)
- 豆太が、最初は臆病だったが、じさまを助けたいという一心で医者様を呼ぶという出来事を通じて、やる時にはやる勇気のある男に成長したことを読み取ることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 本文で読んだことを生かして、斎藤隆介シリーズについて話し合い、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いがあることに気付くことができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 物語を読むことに興味を持ち、シリーズで読みたい物語を見付け、読むことができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○ 文章を感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。	○ 物語を読むことに興味を持ち、シリーズで読みたい物語を見付け、読もうとしている。

**3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり**

単元のゴールを「物語の魅力を知り、いろいろな物語を読もうパートⅢ」と設定する。本単元では、「モチモチの木」の学習を通じて、場面の様子や情景を想像しながら読む力や、描かれている人物像をより明確に捉える力をつける。その力を使って、斎藤隆介シリーズの物語を読み、友達と語り合うことを通じて思考力・表現力を身に付けることができると考える。

**4 指導計画 (全10時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価基準 (評価方法)
0	重光先生コーナーに、斎藤隆介シリーズの物語を置いて、紹介する。		
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>「物語の魅力を知り、いろいろな本を読もうパートⅢ」として本学習では、「斎藤隆介シリーズ」を読んでいくことを知る。(1)</p> <p>初発の感想から、学習課題を考える。(1)</p>	<p>「ゆうすげ村の小さな旅館」の学習では、しかけのある本等のいろいろな物語を読んで、物語の楽しさが分かったな。「サーカスのライオン」では、人間と動物が出てくる物語を読んだな。今回の学習では、一人の作家が書いたシリーズを読んでいくんだな。</p> <p>「サーカスのライオン」では、中心人物の気持ちの変化を読んでいったな。今回は、豆太の気持ちの変化をみんなで話し合ってみたいな。</p>	<p>斎藤隆介シリーズの物語を読むことに興味を持っている。 【態度】(ノート・行動観察)</p> <p>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 【思・判・表】(ノート・行動観察)</p>
	<p><b>【本質的な問い】</b> 豆太は、どんな子どもかな。</p>		

二	<p><b>情報の収集</b></p> <p>豆太の行動や様子に気を付けて読み、豆太の気持ちや人物像を考える。</p> <p>○中心となる人物はだれか、豆太は、気持ちが変わったのかを読み取る。(1)</p> <p>○豆太は、どう気持ちが変わったのかを読み取る。(1, 本時4/10)</p> <p>○なぜ、豆太は気持ちが変わったのかを読み取る。(1)</p> <p>○気持ちが変わった豆太をどう思うかを考える。(1)</p> <p><b>整理・分析</b></p> <p>斎藤隆介シリーズの本を読んで、登場人物の人物像と「モチモチの木」の人物像の共通点や相違点について話し合う。(2)</p>	<p>豆太だと思います。理由は、語り手が、p126ページで「豆太ほどおくびょうなやつはいない。」と言っていたけど、p139では、じさまが、「おまえは一人で夜道を医者様をよびに行けるほど勇気のある子どもだったんだからな。」と言っているから気持ちが変わしていると思うので中心人物だと思います</p> <p>豆太は、おくびょうな子どもからやらなければならぬことはきっとやる勇気のあるやさしい子に変わったんだと思います。理由は、p133でじさまがはらいたをおこしたとき、「医者様を、よばなくっちゃ！」と言って一人で半道もあるふもとの村まで医者様を呼びに行ったら、その帰りには、p137にあるようにモチモチの木に灯がついているのを見ているからです。</p> <p>豆太が、じさまのことを思う愛情や、やさしさをもっていたからだと思います。</p> <p>ぼくは、じさまのためにおくびょうなのに、夜道を医者様を呼びに行ったら豆太の行動に感動しました。(すごいと思いました) ぼくも、だれかのためにやるときはやる勇気をもったやさしい子になりたいです。</p> <p>本当にやさしい子だと思います。自分だったら、真似できないと思うからです。人を思いやる心って本当に強い心だと思います。やさしい心をもった人が勇気のある人になれるのだと思いました。</p>	<p>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。</p> <p>【思・判・表】(ノート・行動観察)</p> <p>物語を読むことに興味をもち、シリーズで読みたい物語を見付け、読もうとしている。【態度】(ノート・行動観察)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>斎藤隆介シリーズの本を読んで、話し合ったことについて、班で交流する。(2)</p>	<p><b>実行</b></p> <p><b>ふりかえり</b></p>	<p>本文で読んだことを生かして、斎藤隆介シリーズについて話し合い、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いがあることに気付いている。【思・判・表】(ノート・行動観察)</p> <p>読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知・技】(ノート・行動観察)</p>

## 5 本時の展開 (4/10)

### (1) 本時の目標

「モチモチの木に灯がついたのか」を考えることを通して豆太の成長を読み取り、豆太がどんな人物かを考えることができる。

### (2) 観点別評価規準

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。

【思・判・表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 自分の考えを書く。</p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>4 全体交流を通して、もう一度自分の考えを書く。</p> <p>5 まとめと振り返りをする。</p>	<p>○ 前時に設定した学習のゴールを想起し、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>豆太は、どう変わったのだろうか。</p> </div> <p>○ 書く時間を確保し、自分の考えをもてるようにする。</p> <p>○ ペアやグループで話し合うことで、自分の考えに自信をもったり考えを変えたりできるようにする。そのため、意見を交流する際は、付け加えたり質問したりするように促す。</p> <p>○ 話し合いの後、自分の考えを修正することを認め、自由に意見を言い合える雰囲気を大切にする。</p> <p>◆ ペアやグループで話し合った後に自分の考えを修正することを認め、悩んでいることや結論が出ていないこと、分からないことも意見として認め、意見がもてるようにする。</p> <p>○ 悩んでいることや結論が出ていないこと、分からないことから意図的に指名し、全体の課題として一人一人が考えられるようにする。</p> <p>○ 「豆太のもっている勇気とはどんな勇気か」と問うことで勇気について多様な意見が出るようにし、豆太の人物像に迫る。</p> <p><b>【期待する児童の考え】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豆太は、暗いところが怖くておくびょうではあるけど、やるべきときには勇気もてる本当のやさしさをもっている男の子だと思います。</li> </ul> <p>○ ノートに何度も書かせることで、自分の考えの変容を捉えることができるようにさせる。</p> <p>○ 振り返りには、自分の考えが話し合いによってどう変わったのか、なぜ変わったのかを書かせる。</p> <p>○ 話し合いを通して、自分の考えが変容した児童を意図的に指名し、話し合いの良さを感じさせる。</p>	<p>○ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。<b>【思・判・表】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>豆太は、おくびょうな子どもからやらなければならないことはきつとやる勇気のあるやさしい子に変わったんだと思います。理由は、p133 でじまがはらいたをおこしたとき、「医者様をよばなくっちゃ！」と言って一人で半道のあるふもとの村まで医者様を呼びに行ったし、その帰りに、p 137 にあるようにモチモチの木に灯がついているのを見ているからです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>豆太は、自分はおくびょうだと思っていたけど、やるときにはやるという勇気がありやさしさをもっていると気付き、自分を好きになったと思います。理由は、じまに弱虫なんて思うなと言われていて少し自信がもてたと思うからです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>友達と話し合うことで、自分の考えが変わった。みんなと話し合っよかった。話し合っって楽しいな。</p> </div>

# 物語はなぜ「面白い」！？秘密の物語 SHOW☆NOTE Part2

## 5年「注文の多い料理店」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。次期学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
- (2) オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

### (1) 単元観

本単元は、「物語の面白さは何なのか？」という視点で物語を読み、物語の面白さを「秘密の物語 SHOW☆NOTE」に書く活動を通して、山場の変化や表現の工夫を捉える力を身に付けることを目標としている。本教材は、傲慢な紳士達がお腹を空かせて入ったレストランでごちそうを食べようとしていたが、いつの間にか山猫に食べられる側になっていたという、ファンタジーの要素を含んだ立場の逆転を描いた物語である。宮沢賢治独特の言葉の言い回しやオノマトペが物語の不気味な雰囲気を際立たせており、1学期に学習した「山場」だけではない文章表現の面白さに気付くことができる教材である。また、物語の「設定」「展開」「山場」「結末」という構成も分かりやすい。「山場」のどんでん返しに向けてじわじわと違和感をもたせる構成の巧みさと、物語の展開の面白さに富んだ教材である。

物語の結末や、物語自体の意味を考える時、作者である宮沢賢治の生い立ちや思想を知らない解釈しづらい部分もあり、作者の生き方と作品を絡んで考えさせることができる教材でもある。その上で多読に繋げることも可能である。

### (2) 児童観

#### 学力調査等の実態

本学級の児童21名は、「物語や小説を読むことは好きですか。」というアンケートに対して、81%の児童は肯定的な回答をしている。その理由として最も多かったのは「面白いから」というものであった。

また、1学期の物語の単元末テストにおいての正答率は91%であり、物語の展開の変化をとらえる力はある。

#### 課題発見・解決学習の実態

本校の資質・能力に関わる学習アンケートを実施したところ、授業において自分の考えを積極的に伝えようとしている児童は76%であり、発言する児童に偏りがある。また、学習の振り返りをする時に、「もっと考えてみたいこと」を幅広い視点でもつことができる児童は教師評価で47%とまだ少ない。

これらのことから、意欲的に自分の考えを伝える力、自ら問いを設定して学習を進めるための力の育成が必要である。

### (3) 指導観

物語や小説を「面白い」と思う理由と、物語の展開や表現の工夫を関係付けて考えることができる力を育成したい。1学期の学習で、物語の「面白さ」が「山場」で逆転することもあると学んだが、それに加えて二重の意味をもつ言葉などの表現も大きな効果をもたらすことに気付かせたい。その視点をもって多読をすることで、客観的に物語を捉える力も身に付けることができると考える。

初発の感想で出てきた「問い」を検証することで「面白さ」を再発見しながら読みを進める。その際、学習の中で出てきた新たな「問い」を取り上げることで、課題をもつ時の視野を広げる力、より質の高い「問い」を設定する力を身に付けさせる。出来事を抽象化させるような本質的な「問い」では、難しさを感じて発言がしづらくなる児童が出てくる。その場合は選択肢を提示するなど、より多くの児童が発言できる場を設定する。

また、学習の最後に、物語の面白さの理由を「秘密の物語 SHOW☆NOTE」に書くことで、課題の持ち方を振り返って価値付けをしたり、学んだことを一般化したりすることができると思う。

### (4) 単元の目標（めざす児童の姿）

- 教材文を通して、表現の工夫や物語の構成に気付く。(知識及び技能)
- 人物の行動や会話、情景の叙述に着目し、人物の心情の変化や変化の要因を読むことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 物語の面白さに興味をもって教材文を読み、「秘密の物語 SHOW☆NOTE」を書こうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)



## 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	○教材文を通して, オノマトペなどの表現や物語の構成の工夫に気付いている。	○紳士達の行動や会話, 扉の言葉などの叙述に着目し, 人物の心情の変化や変化の要因を読んでいる。	○興味をもって教材文を読み, 物語の面白さを見付けたりまとめたりするために意欲的に「秘密の物語 SHOW☆NOTE」を書こうとしている。

### 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では, 1学期に引き続き「問い」と物語の「面白さ」という2つの視点から学習を進める。児童から出た「問い」をもとに各時間で考えたいテーマを設定し, 毎時間ごとに①新たな問い②発見した面白さ③自分が考えたこと, の三つの視点で振り返りを行う。このことを繰り返し行うことで, 人物像や相互関係の変化から「問い」を自分達で深めていき, 表現や展開の「面白さ」を広げていくことで思考力・判断力を育成することができると思う。

### 4 指導計画 (全8時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
0	学級文庫に宮沢賢治の作品を置き, 学習への興味をもたせる。		
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>教材文を読んで, 初発の感想 (①問い②おもしろさ③感じたこと・考えたこと) を書く。 (1)</p> <p>物語の構造をつかみ, しんし達の人物像を捉える。 考えていきたい課題を決める。 (1)</p>	<p>何でしんしは途中で逃げなかったんだろう。 不思議な言葉が多いな。</p> <p>風の音が不思議な世界の入口なんだ。 しんし達はすごく傲慢な言動が多いな。 山猫の正体は一体何なんだろう。</p>	<p>物語に関心を持ち, 感想を書いている。 【態度】 (ノート)</p> <p>不思議な世界と現実の世界の物語であること, 叙述からしんし達の傲慢さを読み取っている。 【思・判・表】 (ノート) 初発の感想を基に, 考えていきたい課題をもつことができている。 【態度】 (ノート)</p>
<b>【本質的な問い】 物語の面白さは何だろう？</b>			
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>扉の言葉の本当の意味としんし達の考えのズレを捉える。 (1)</p> <p>しんし達がいつから扉の言葉を怪しいと思いはじめているかを読み取る。 (1)</p> <p>山猫はなぜしんし達を食べようとしたかを考える。 (1, 本時5/8)</p> <p>「宮沢賢治」を読み, 山猫は何を表しているか考える。 (1)</p>	<p>しんし達は空腹な上に, 扉の言葉を勘違いしたから店に入ったんだな。</p> <p>4枚目の言葉から怪しいと思いつつ自分に言い聞かせているんじゃないかな。</p> <p>傲慢なしんし達をこらしめようとしたのかな。</p> <p>山猫は宮沢賢治から傲慢な人間への警告なのかもしれない。</p>	<p>扉の言葉を2つの視点から捉えることができている。 【思・判・表】 (ノート)</p> <p>「展開」部分が, 「山場」に向かって進んでいることを読み取っている。 【思・判・表】 (ノート) 学習を生かし, 物語が伝えたいことを捉えている。 【思・判・表】 (ノート) 作者の生き方を踏まえて, 物語が伝えたいことを捉えている。 【思・判・表】 (ノート)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>教材で見つけた物語の面白さの秘密を「秘密の物語 SHOW☆NOTE」にまとめる。 (1)</p> <p>学び方を振り返り, 問いを価値付ける。 (1)</p>	<p>独特の表現や, どちらの意味にもとれる扉の言葉や題名が面白かった。</p> <p>作品だけでなく, 作者のことを知ってからもう一度読むと新しい発見があった。</p>	<p>教材文を通して, 物語の構成や表現の工夫に気付いている。 【知・技】 (秘密の物語 SHOW☆NOTE) どんな力がついたのかを振り返り, これからの学びに生かせることを自分の言葉でまとめている。 【思・判・表】 (ノート)</p>
課外	3学期教材「大造じいさんとガン」の学習で「秘密の物語 SHOW☆NOTE」を完成させた後, 物語を書いたり本を紹介したりする活動に生かしていく見通しをもつ。		

5 本時の展開 (5/8)

(1) 本時の目標

山猫がなぜしんし達を食べようとしたのかを考える学習を通して、しんし達の叙述などから自分の考えをまとめることができる。

(2) 観点別評価規準

しんし達の人物像などの叙述から、山猫がもつ批判的なメッセージを見付けている。 【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に設定した問いに至るまでの流れを確認する。</li> <li>◆ 前時まで考えた、扉の言葉としんし達の考え、本当の意味を掲示しておく。</li> <li>○ 扉の言葉に二つの意味があったことや、しんし達がいつから怪しいと思い始めていたかを振り返らせる。</li> <li>○ なぜ山猫は巧妙な手立てでしんし達を食べようとしていたのかを考えることを確認する。</li> </ul>	
<p>山猫はなぜしんし達を食べようとしたのだろう。</p>		
2 課題解決の選択肢を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に児童から出た答えを選択肢として提示する。</li> <li>・ お腹が空いていたから。</li> <li>・ 犬の命を軽くあつかったから。</li> <li>・ えらそうな態度に腹が立ったから。</li> <li>◆ 選択肢が少ない場合は、教師からの選択肢も入れる。</li> </ul>	<p>確かにしんし達は命を軽く考えていたな。</p>
3 自分の意見を持ち、班で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えをノートに書き、班で話し合う。</li> <li>○ 友達の意見で納得するものや発見する部分があったらノートに書き加える。</li> <li>○ 意見の交流が終わったら、メンバーを入れ替えて再度交流をする。</li> </ul>	<p>山猫はしんし達に何か伝えたかったのかな。</p>
4 出た意見を全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ しんし達の人物像からしんし達は何を表す存在なのかを考えさせる。</li> <li>○ 対する山猫は何を表す存在なのかを考えさせる。</li> <li>○ 「なぜしんし達はこんなに怖い目にあつたのか」という問いは「なぜしんし達をこんなに怖い目に合わせたのか」とも言い換えがきくことに気付かせる。</li> <li>○ 「作者はこの物語で何を伝えたいのか」という問いにつなげて考えさせる。</li> <li>○ 作者の宮沢賢治に目を向けさせる。</li> </ul>	<p>傲慢なしんし達をこらしめたかったんじゃないかな。</p>
5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3つの視点で振り返りを行う。</li> <li>① 新たな問い</li> <li>② 発見した面白さ</li> <li>③ 自分が考えたこと</li> </ul>	<p>しんし達に何かを仕返ししたいのかな。</p>
		<p>山猫は神様みたいな存在なんだろうか。</p>
		<p>宮沢賢治はしんし達に命を大切にしてほしいと伝えたかったんじゃないかな。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 作者である宮沢賢治はどんな思いで作品を書いていたのか知りたい。</li> <li>② 作者がギリギリでしんし達を助けた、という見方ができる。</li> <li>③ もしかしたら山猫には宮沢賢治が何か伝えたいメッセージが込められているのかもしれない。しんし達みたいにながままな人間はいつか痛い目に合うということ伝えたいのではないかと思う。</li> </ul>	<p>しんし達の人物像などの叙述から、自分なりに山猫がもつ批判的なメッセージを見付けている。【思・判・表】(ノート)</p>



単元名

正解のない問いに挑む～何と何を関連付ければ、課題を達成できるかな～  
6年「海のいのち」

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性 思考力・表現力

1 単元について

○ 本単元は、次期小学校学習指導要領第6学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

- (1) イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
- エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
- オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

(1) 単元観

本教材「海の命」は、父を亡くした主人公太一が、迷い、葛藤しながらも自分を取り巻く人物の考え方や生き方に学び、自己の生き方を確立していく姿が描かれている物語である。

この作品には、「千びきに一びき」「海に帰る」「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」「大魚はこの海の命だと思った。」など日常生活ではあまり使わない不思議な表現がたくさん使われている。その一つひとつの意味を読み取っていくことによって、人物同士の相互関係や登場人物の生き方、作者のものの見方・考え方を捉えることができる。しかし、不思議な表現の数々を目の当たりにした子供たちは、不思議な作品の魅力にひかれながらも、分かるようで分からない太一の心情や父と大魚と「海の命」の関係などに戸惑うと思われる。戸惑うということは、読み手の数だけ児童の考えが多様に出てくるということも捉えることができる。この意見の分かれを生かし、例えば、物語の全体像の捉えについての意見を出し合い、他者の視点で作品を読み直してみる、といったような展開を仕組むことも考えられる。この場合、視点によって物語の見え方がまるで違ってくるという読書体験をさせることができ、児童が自分の考えの広がりを実感することにもつながると考えられる。

また、作品には、作者の「つながる命」「支え合う命」という命についての見方・考え方が反映されている。児童は、6学年1学期の理科「生物どうしのつながり」においては、食物連鎖について学習をした。児童の読みの広がりによって、作者のものの見方・考え方と理科の学習内容とを関連付けた単元展開も可能となる。児童が作品世界とその外の世界を関連付けて自分の考えをまとめることで、児童自身の生き方についての考え方を深めることもできる。

(2) 児童観

学力調査などに関する実態

今年度の全国学力テストでは、「読むこと」の正答率はA問題で92.5%、B問題で71.7%であった。物語の面白さを感じ取りながら読むことはできるものの叙述を基に、登場人物の気持ちを想像しながら読み進めることに苦手意識を感じている児童も多く、分析的に読んだり、根拠付けて読んだりすることに課題がある。

課題発見・解決学習の実態

本学級は、読書好きな児童とそうではない児童にはっきりと二分されている。先日行った読書に関する意識調査でも、「読書が好きか」という問いに対して、61.5%の児童が肯定的な回答を示している。時間を見つけては進んで読書に励む児童がいる一方で、朝読書の時間においてもなかなか読書を始めようとしていない児童の姿も目立っていた。しかし、1学期の後半からは、そのような児童の数もかなり減ってきている。読む本の内容については「モモ」のような文学的文章を読破している児童もいれば、歴史漫画や図鑑などのカラー刷りの図解された文章を好む児童もいる。

(3) 指導観

本単元を指導するに当たり、主な留意点は以下の2つである。

1つ目は、単元導入の工夫である。導入場面においては、立松和平さんのインタビューを用いる。インタビュー内で立松さんは「なぜ、太一はクエを殺さなかったのか」という問いの答えは読者に委ねている旨の発言をしている。この問いは、多くの児童がもつものであり、ある意味「最大の謎」である。その謎の答えが決まっていないとなると、自分で納得する答えを見つけるしかない。まさに納得解の問いである。納得解を導き出すためには、根拠をもとに考えを形成したり、他者の考えを生かしたりしなければならぬ。問いの質を生かすことで、児童の読みの意欲を喚起したり、友達と意見交流をする必要性を感じさせたりすることができる。と考える。

2つ目は、対話的活動の工夫である。本単元では、友達との視点で教材文を何度も読み直す活動を繰り返す。別の視点で読むことで、作品世界がまるで違ってくるという経験をさせることで、文学作品への興味を高め、読書活動の活性化をねらう。そのために、児童はできるだけ多くの考えに出合う必要がある。対話活動においては、児童が自分の考えを広げたり、教材文の解釈を深めたりするために、ペア・グループ活動を毎時間取り入れる。年間の見直しから考えた際、2学期は、児童がペア・グループ活動を通して自分自身の変容を感じたり友達との関係性を深めたりする時期である。全員がそのようなことは難しいが、変容を感じる児童と感じない児童が混在している中で、後者の児童ではなく、前者の児童を取り上げることで、そのよさがじわじわと水が染みこむように学級全体に広がっていくよう意図する。

(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が強く語りかけてきたことを考える手掛かりにすることができる。(知識及び技能)
- 物語の山場で起きる人物の心情の変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読むことができる。
- 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを文章にまとめることができる。
- 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを友達と出し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

## 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 物語を読んで捉えた物語の全体像を捉えるために, 本文の叙述を手がかりにしている。</li> <li>○ 物語の中で使われている表現の工夫に気づき, 中心人物・太一の迷いや葛藤などの心情を考える手がかりにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中心人物・太一が結局クエを倒さなかった理由を, 太一と父, 太一と与吉いさ, 太一と母という人物同士の関係と関連付けながら読み取っている。</li> <li>○ 本文の叙述を手がかりにして, 物語を読んで捉えた物語の全体像を, 書くことができている。</li> <li>○ 他者との対話によって得た情報と自分の考えを関連付け, より具体的な表現や, より抽象的・概念的な表現を用いて, 文章を書き直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 答えのない問いに取り組むという活動の意図を捉え, 物語の全体像をまとめ, 考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとしている。</li> <li>○ 中心人物・太一がクエを倒さなかった理由についての考えを広げるために, 話し合いにおいて, 対話する相手を次々と替えながら, できるだけ多様な意見を聞こうとしている。</li> <li>○ 他者との対話によって得た情報を生かし, 自分の考えを書き直そうとしている。</li> </ul>

## 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では, 単元前半に物語の全体像を読み取り, それを基にして対話的活動を重ねていく。活動の中では, 意見の違う立場の人と話し合って自分の意見を広げていくことや, 意見の同じ立場の人と話し合って自分の意見を深めていくことを経験していく。活動をしている最中には, 「自分の考えと共通点はあるのかな。相違点はあるのかな。」という視点で考えるという判断を多く重ねていくことになる。また, 自分の考えを伝える際の根拠となる叙述を吟味し, より論理的な(具体的で分かりやすい)表現を構成し伝えていく活動も重ねていく。さらに, 自分の考えをよりよいものにするためには, 出来るだけ多くの友達から意見を集めることが必要になる。これらのことから, 本単元では主体性・積極性と思考力・表現力を育成するのに適していると考えられる。

## 4 指導計画(全10時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準(評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>全文通読し, 問い作りをする。 作った問いを出し合い, 全体課題と部分課題を決め, 単元の計画を立てる。(2)</p>	<p>どのような物語なのだろうか。 え?お父さんが死んでしまうの? え?クエを倒さないの?お父さんの敵ではないの? 他の物語の話の進み方と違うところがあるし, よく分からない言葉があるな。</p>	<p>答えのない問いに取り組むという活動の意図を捉え, 物語の全体像をまとめ, 考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【態度】(行動観察・ノート)</p>
<p>【本質的な問い】 何と何を関連付ければ, 課題を達成できるかな。</p>			
二	<p><b>情報の収集</b></p> <p>立てた単元計画の問いに沿って, 対話的な学びを繰り返して行い, 自分の考えを広げたり深めたりする。(6, 本時8/10)</p>	<p>太一が撞れたお父さんは, どんな人だったのかな?太一は, お父さんのことがかっこよかったんだろうなあ。 「海のめぐみ」とは, 何かな? 与吉いさを無理矢理弟子にするのだから, 太一はよっぽどクエを倒したいのだろうな。 与吉いさは, 大切なことはしっかり教えてくれているなあ。「千びきに一びきでいい」のは, なぜだろうか。 お母さんもクエとの対決の前後では, まるで様子が違うぞ。ここも関係がありそうだな。 太一がクエを倒さなかったのは, お父さんや与吉いさの教えが分かったからだろうな。</p>	<p>物語を読んで捉えた物語の全体像を捉えるために, 本文の叙述を手がかりにしている。</p> <p>【知・技】(行動観察・ノート)</p> <p>物語の中で使われている表現の工夫に気づき, 中心人物・太一の迷いや葛藤などの心情を考える手がかりにしている。</p> <p>【知・技】(行動観察・ノート)</p> <p>中心人物・太一が結局クエを倒さなかった理由を, 太一と父, 太一と与吉いさ, 太一と母という人物同士の関係と関連付けながら読み取っている。</p> <p>【思・判・表】(行動観察・ノート)</p> <p>本文の叙述を手がかりにして, 物語を読んで捉えた物語の全体像を捉え, 書くことができている。</p> <p>【思・判・表】(行動観察・ノート)</p>

三	<p><b>整理・分析</b>      <b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>単元の学びを自分なりの方法でまとめる。(1) 友達と学びを紹介し合い、感想を伝え合う。 (1)</p>	<p>なんだか、海と人間にも関わりがあつて、つながっていることを感じるなあ。なるほど、友達はそのようなことを学んだのか。</p>	<p>他者との対話によって得た情報と自分の考えを関連付け、より具体的な表現や、より抽象的・概念的な表現を用いて、文章を書き直している。</p> <p>【思・判・表】(行動観察・ノート)</p>
---	--	--	--

5 本時の展開 [8/10]

(1) 本時の目標

人物と人物の関係を手がかりに、人物の心情を考えながら読むことができる。

(2) 観点別評価規準

叙述を手がかりにして、太一が誰のどのような考え方や思いを基に、クエを殺さないと判断したのか、根拠を示して書くことができる。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	<p>○ 前置きを少なく、すぐに問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>太一がクエを殺さなかったのは、なぜか。</p> </div>	<p>うーん、なぜかな。</p>
2 自分の考えを書く。	<p>○ 自分の考えを叙述を引用して書くように伝える。</p> <p>◆ 書くことが難しい児童には、「自分の考えをズバリと書きなさい。」などと声かけし、意見は短くてもよいことを伝える。</p> <p>○ 書けた児童からノートを教師まで持たせて、確認する。肯定的な声かけをするように留意する。</p> <p>【想定される児童の読みの立場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太一と父との関係から考える児童 (例) 太一は、クエを殺すことで父を超えるという気持ちを優先するのではなく、「海のいのち」を生かす方を選んだ。</li> <li>・ 太一と与吉じいさとの関係から考える児童 (例) 太一は、クエを殺すことで父を超えるという気持ちを優先するのではなく、「千びきに一びきでいい」という与吉じいさの教えを守ることで、海のバランスを保とうとした。</li> <li>・ (例) クエと対峙した時に、「わたしはおそろしくて夜もねむれない」という母の言葉が頭をよぎった。</li> </ul>	<p>これまでに読み取ってきたことを活かそう。</p> <p>誰の教えが頭をよぎったのかな。</p> <p>お母さんの気持ちもあるだろう。</p> <p>確かに、お母さんの気持ちも感じていたのかもかもしれないね。</p> <p>太一は、おとうにつぶやいている。だから、おとうの考えがよく分かったということではないかな。</p>
3 同じ立場の人と話し合う。	<p>○ 意見の根拠となっている叙述をリストアップさせるために、考えの近い児童同士で話し合わせる。</p> <p>○ 意見の広がりを意図するために、次々と話し相手を替えている児童を誉めて価値付ける。</p>	<p>○ 叙述を手がかりにして、太一が誰のどのような考え方や思いを基に、クエを殺さないと判断したのか、根拠を示して書くことができる。【思・判・表】(発言、行動観察、ノート)</p>
4 違う立場の人と話し合う。	<p>○ 視点を変えて考えさせるために、違う立場の人と話し合わせる。</p> <p>【想定される児童の読みの変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太一と父との関係もしくは太一と与吉じいさの関係から考えていた児童が、父と与吉じいさの教えの共通点に気付く。 (例) クエを対峙することで、父の「海のめぐみ」、与吉じいさの「千びきに一びきでいい」という教えに共通する「生かし生かされている命」という考えを太一が理解した。</li> <li>・ 太一と父との関係もしくは太一と与吉じいさの関係のみから考えていた児童が、母の太一への思いにも気付き、考えを付け加える。 (例) 太一は、父や与吉じいさの教えのことがよく分かったが、それだけではなく、母の太一を心配する気持ちのこともあって、クエを倒さなかった。</li> </ul>	<p>太一は、与吉じいさの「千四に一匹でいいんだ」という意味が分かったのだと思います。理由は、クエの姿から他の漁師達が海の命を生かしてきたことが分かったと思うからです。</p>
5 考えをまとめ、活動を振り返る。	<p>○ 再度、自分の考えを書かせる。意見が変わらない場合も、変わる場合も理由を書かせることで、児童の変容を評価する。</p>	

# どうぶつ たくさん たしざん

## 1年 たしざん(2)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

## 1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第1学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。次期学習指導要領には、以下のように示されている。

- A (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。
- (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
- (エ) 簡単な場合について2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

## (1) 単元観

前単元までの学習で、答えが10以下の加法の学習と10より大きい数の学習を行ってきた。たしざん(1)の学習では、加法が用いられる場面とブロック操作による加法の概念の拡張を図った。10より大きい数の学習では、数を10といくつと見る考え方を習得させた。

これまでの既習内容から本単元では、1位数と1位数を足して和が11以上になる加法の場面と計算の仕方を理解する。単元学習では、まず加数分解・被加数分解・加数、被加数ともに分解し10の合成理解を学習する。次に具体的な加法適用場面を式や問題文に表す。そして計算カードの練習を通して習熟を図る。単元の終わりには児童が、和が11以上になる数を選んで問題を作り、解き合う活動を行う。

以上の単元学習を通して、児童の数に対する感覚を豊かにし、正確に素早く繰り上がりのある足し算の計算ができるようにする。また、被加数や加数の大小によって計算の工夫が考えられるようにする。

## (2) 児童観

## 学力調査等に関する実態

たしざん(1)のテストの通過率90%以上の児童は51%であった。技能の問題では、全員が通過率90%以上であったが、問題作りで、文章を並べ替える問題に課題が見られた。既習内容は概ね理解していると考えられる。実際に問題を解く際には、指で計算している児童が2割程度見られる。このことから、繰り上がりのあるたし算を考える際に、数え足しで計算する児童が予想される。

## 課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、自分の知っていることを積極的に伝えることができる。一方で、友達の意見と比べたり、自分の意見との違いを探したり、考えたりすることに課題が見られる。

アンケートを実施したところ、相手にわかりやすく伝えられていると感じている児童は85%、友達の意見と自分の意見を比べていると答えた児童は78%であった。

意見は言えるものの、友達の意見を取り入れたりと、反論したりすることには課題が見られる。

## (3) 指導観

本単元では、まず、数を分解することに気付かせるため、ブロックを使用してその考え方に気付かせる。加数分解と被加数分解の問題を比べさせ、どちらがより簡単か考えさせることで、計算を工夫できるようにしたい。また、ブロックは数を10のまとまりとばらのいくつとして考えるのにも活用していく。10のまとまりは縦2×横5の枠に表現させる。児童の考えは図・式などで表現させる。操作活動、図化、言語化、式化という一連の活動を繰り返し、児童の数的感覚を養う。

問題を考える際には、既習のたし算の学習を想起させ、ブロックを活用させていく。ブロックの操作を互いに見合ったり、教え合ったりすることで児童の思考を整理したり、表現したりする一助とする。

考えを伝え合う場面では上記の内容に加えて、友達の行ったブロック操作を他の児童に再現させる。そうすることで、友達の意見を正しく理解しているか確認したり、自分の意見と比較したりすることができるようにする。

以上の活動を通して、半具体物や図、式を用いて相手に分かりやすく論理的に説明する力の拡充を図る。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 1位数と1位数の加法で、10のまとまりに着目して繰り上がりのある計算の意味や方法を理解し、正しく計算している。(知識及び技能)
- 繰り上がりのあるたし算の仕方を半具体物や図、言葉、式を用いて表現し考えている。(思考力・判断力・表現力等)
- 生活の中から繰り上がりのある加法の場面を想起して、意欲的に学習に参加している。(主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	繰り上がりのある加法について理解し、正しく計算をしている。場面を式に表したり、式を読み取ったりしている。	繰り上がりのある加法の計算の仕方について、半具体物や図を用いて考えたり、思考の過程を表現したりしている。	意欲的に計算をしたり、日常生活に関連させて問題を作ったりするなどして学習に参加している。

#### 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

繰り上がりのあるたし算の和を10のまとまりとばらのいくつと考えられるように、ブロックや図を活用する。ブロックや図で考えさせることで、10のまとまりをどうやって考えたのか、互いに視覚的に理解しやすいようにする。和が何になるのかではなく、どう考えればその和が導き出されるのかにフォーカスすることで、本単元で育成したい、半具体物や図を使ってわかりやすく説明する力(思考力・表現力)を育てる。

#### 4 指導計画 (全12時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>答えが10より大きくなるたし算(8+3)の計算の仕方について考える。(1)</p>	<p>今までのたし算と違って、答えが10よりおおくなるよ。 ブロックを使って考えてみよう。</p>	<p>ブロックを用いて、積極的に問題を解いている。 【態度】(行動観察)</p>
<p>【本質的な問い】 答えが10より大きくなるたし算はどうやって計算すればいいのだろうか。</p>			
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>9+4の計算の仕方を考える。 加数を分解する方法を考える。(1)</p> <p>4+7の計算の仕方について考える。 被加数を分解する方法を考える。(1)</p> <p>6+7の計算の仕方を考える。 加数分解・被加数分解で考える。 6を5と1, 7を5と2と考え、5と5を合わせて10と見る考え方に気付く。(1) (本時4/12)</p> <p>増加の場面の加法適用の文章題を読み取り、式と答えを求める。(1)</p> <p>計算問題の練習、問題作りをして、理解を深める。(1)</p> <p>計算カードの練習をする(3)</p>	<p>9はあと1で10になるね。ブロックを動かすと、10が作れるよ。</p> <p>4はあと6で10になるけど…。 7に3を足して10にした方が簡単だ。</p> <p>どっちの数で10を作ろうか。 5と5で10ができないかな。</p> <p>ぜんぶでというときはたし算だったね。今回もたし算の式に表してみよう。</p> <p>増えるという問題を作ろう。 あわせるという問題を作ろう。</p> <p>いろいろなゲームに挑戦するぞ。</p>	<p>10を作るために加数を分解して考えればいいことに気付いている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>10のまとまりが作りやすい方法を言葉・図・式で表している。 被加数分解の考え方に気付いている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>加数分解・被加数分解の考え方や5と5を合わせて10を作る考え方など工夫して計算している。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>式と具体的な場面を結び付け、正しく式に表している。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>加法の具体場面を想起し、進んで問題作りを行う。【態度】(ノート, 行動観察)</p> <p>繰り上がりのある加法の計算が正しくできる。 【知・技】(行動観察)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>チャレンジ問題を解く。(1)</p> <p>既習事項の確かめ、振り返りをする。(1)</p> <p>作った問題を解き合う。(1)</p>	<p>習ったやり方でたし算の問題を解いてみよう。</p>	<p>文や絵からどんな場面かを判断している。 【思・判・表】(行動観察)</p> <p>友達の作った問題を進んで解き、算数の学習に親しんでいる。 【態度】(行動観察)</p>



5 本時の展開 (4 / 12 時間)

(1) 本時の目標

6 + 7 について、いろいろな計算の仕方を考える。

(2) 観点別評価規準

加数・被加数分解, 5 と 5 を合わせて 10 を作る考え方などを用いて計算を工夫している。【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応																																																												
<p>1 問題に出合う。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <p>3 自力解決をする。</p> <p>4 全体で話し合う。</p>	<p>ふくやまどうぶつえんの ライオンは、おすが6ひきで、めすが7ひきです。ライオンは、あわせてなんびきですか。</p> <p>○ 場面絵を掲示し、問題場面をイメージしやすくする。 ○ 合併の場面であることに気付く。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">6 + 7 の計算の仕方を考えよう。</p> <p>○ 既習の内容 (数え足し, 被加数分解, 加数分解) を想起させる。 ○ 計算の仕方の工夫に気付かせるため, ブロック操作をさせる。 ◆ 並べ方や操作の仕方を指導する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td></tr> <tr><td>□</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td></tr> <tr><td>■</td><td>■</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div> <p>○ 数え足し, 被加数分解, 加数分解の計算の方法を発表させる。 ○ 被加数も加数も分解できることに気付かせる。 ○ それぞれの計算で 10 のまとまりを作り, ばらと合わせていることに気付かせる。 ◆ それぞれの計算の工夫を, 言葉を伴い, 個人で順番に操作させ, 全員ができたか確かめる。 ○ ノートにこれまでの活動をまとめるために, 児童の思考を図で表現するにはどうすればよいか話し合わせる。</p>	□	□	□	□	□	□					■	■	■	■	■	■	■				<p>こたえは10より大きくなりそうだ。</p> <p>オスもメスも5ひきより多いよ。</p> <p>どうやって10のまとまりを作ろうかな。</p> <p>10のまとまりを線で囲もう。</p>																																								
□	□	□	□	□																																																										
□																																																														
■	■	■	■	■																																																										
■	■																																																													
<p>5 まとめる。</p>	<p>6 + 7 = 13</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>○</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> </table> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>●</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> </table> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>○</td><td>●</td><td>●</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div>	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●								○	○	○								●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	○	●	●								<p>① 7 を 4 と 3 にわける。 ② 6 と 4 で 10。 ③ 10 と 3 で 13。</p> <p>① 6 を 3 と 3 にわける。 ② 7 と 3 で 10。 ③ 3 と 10 で 13。</p> <p>① 6 を 5 と 1, 7 を 5 と 2 にわける。 ② 5 と 5 で 10。1 と 2 で 3。 ③ 10 と 3 で 13。</p>
○	○	○	○	○																																																										
○	●	●	●	●																																																										
●	●	●																																																												
○	○	○																																																												
●	●	●	●	●																																																										
●	●	○	○	○																																																										
○	○	○	○	○																																																										
●	●	●	●	●																																																										
○	●	●																																																												
<p>6 適用題を解く。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>どちらの数字もばらばらにして, 10 のまとまりが作れる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">動物園にサルが5ひきいます。小屋の奥からサルが6ひきはしゃぎてきました。ぜんぶでなんびきになりましたか。</p> <p>○ 本時の学習を定着させるため, ブロック操作, 図, 言葉, 式で考えさせる。 ○ ブロック操作の仕方を言葉で説明させる。 ◆ 理解が難しい児童には, ヒントつきワークシートを配布する。</p> <p>① 新しく分かったこと ② 友達の良い考え ③ 今日の算数の何が楽しかったか</p>	<p>今まで通り10のまとまりを作ればいいんだね。</p> <p>加数・被加数分解, 5 と 5 を合わせて 10 を作る考え方などを用いて計算を工夫している。 【思・判・表】</p> <p>ああ, 今日楽しかったなあ。</p>																																																												



## 九九を使って考えよう

## 2年 かけ算(3)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性 自分への自信

## 1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領算数科第2学年の「A(3)乗法」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

A(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (7) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。  
 (4) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。  
 (9) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。  
 (2) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。  
 (4) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (7) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

## (1) 単元観

本単元は、乗法九九表を観察して乗法の交換法則に気付くとともに、簡単な場合の2位数と1位数との乗法の計算の仕方について考えたりいろいろな数のまとまりで被乗数を捉えて乗法の式に表したりすることで、乗法への理解を深めることをねらいとしている。

本教材は、身に付けた乗法九九を活用し、九九表を拡張したり乗法が適用できる場面で問題解決をしたりする。乗法九九を知るだけでなく、乗法が用いられる場合について理解を深めたり簡単な性質について知ったりすることで、既習をもとに統合的・発展的に考えるのに適した教材である。

また、本単元では、「いくつずつ」、「いくつ分」を明らかにして図や式、言葉で表して説明したり、式と図を対応させながら話し合ったりすることで、自分と違った見方や考え方に気付く、数の意味や表し方への理解を深めていくことができると考える。

## (2) 児童観

## 学力調査等の実態

レディネステストの結果、図から「いくつずつ」・「いくつ分」を捉えて、問題文の表わす意味を図にかくことができた児童は、88.9%、立式し、答えを求めることができた児童は、88.9%、具体物を等分して答えを求めることができた児童は、85.2%であった。以上の結果より、乗法九九を構成していく過程において、具体物の操作を中心にを行い、その意味について、理解を深めていく必要がある。

## 課題発見・解決学習の実態

アンケートの結果、「算数が好き」と答えた児童は88%、「算数が得意」と答えた児童は84%であった。その理由として、「計算が早くできると嬉しいから」・「図をかいて考えることができるから」という回答があった。どちらも、多くの児童が肯定的な回答をしている。

しかし、「自分の考えを友達に伝えることは得意」と答えた児童は、72%だった。ペアで発表することはできて全体の前では自信がなかったり、発表の仕方に困ったりしてしまうことが考えられる。友達と考えを積極的に交流したくなるような授業を行っていく必要がある。

## (3) 指導観

「かけ算(1)・(2)」では、乗法九九を構成していく際に、ブロックや図を用いて表現することで、累加の考え方をしっかり理解させておく。その上で、本単元では、式を図に表したり図をもとに式を考えたりする活動を大切にしていく。式と図を相互に関連させてかいたり説明したりすることで、乗法への理解を深められるようにしたい。

本単元の課題発見・解決学習では、まず、九九表を用いてかけ算の交換法則が成り立つことを学習していく。その中で、「被乗数、乗数は、どちらにどんな数字を当てはめてもよい」という考えが生まれてくるのではないかと考えられる。そこで、九九表から生活場面へと段々問題場面を移していくことで、被乗数・乗数を気にした方がよい場合と、気にしなくてもよい場合があることに気付かせていく。

本時においては、被乗数が9よりも大きい数のかけ算について、乗法の法則や具体的な操作をもとに考えさせる。既習事項である累加や交換法則を使って考えさせた後、分配法則によっても計算が出来ることに気付かせていく。その際、式と図によって自分の考えを表現し、対話によって友達と考えを交流させながら、思考を深めたい。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成できる。
- 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解することができる。 (知識及び技能)
- 乗法九九の表を観察して、乗法についての性質を見出すことができる。また、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 乗法のきまりや乗法九九表を活用して、身近な問題に生かそうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

## 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解し、九九表のきまりを理解している。 乗法のきまりを用いて、乗法九九表を手際よく完成させることができる。 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解し、九九表のきまりを理解している。	乗法九九の表を観察して、被乗数、乗数、積の関係や交換法則などの乗法についての性質を見出している。 簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考え、式や図を用いて表現し、答えの求め方を工夫している。	乗法九九表を活用して、進んできまりを見つけたり、楽しいゲームを工夫したり、身近な問題に生かそうとしたりする。

## 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元においては、九九表を構成し、観察していく。この活動をしていくうちに、かけ算には答えが同じものがあることや、それらのかけ算は被乗数、乗数が入れ替わっていることなどに気付いていく。その気づきを共有することで、「他の場合にもなっているのかな。」という意欲が増していき、実際に調べていこうとすることになる。どんな場合でもかけ算のきまりが成り立っていることを帰納的に考えていくことで、思考力の高まりが期待できる。さらに、自分の考えを図に表したり、問題場面を図に置き換えたりする中で、友達や教材の考えを解釈することを繰り返していく。自分の解釈を友達に伝える活動を繰り返すことで段々と表現が洗練されていくと考えられるため、表現力の高まりも期待できる。さらに、前単元まで九九の暗唱に取り組んでおり、その覚えた九九を用いて、2位数×1位数の計算を解いていくことで、「難しい問題でも、自分の学んできたことを活かすと問題を解くことができた。」という気持ちにさせる。そして自分への自信につながっていく。友達の考えを解釈したり、既習事項を活かして問題を解いたりする中で、自分への自信がついてくると、「もっと他の問題も解きたいな。」という気持ちにつながる。このことで、主体性・積極性が養われていくと考える。

#### 4 指導計画（全9時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（評価方法）
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>乗法九九の表の書き方を知る。 4, 16, 30はどんな乗法の答えなのかを考える。 乗法九九の答えを表に書く。(1)</p> <p>九九表から、いろいろなきまりや特徴を考え、発表する。(1)</p> <p>かけられる数が3の答えと、かける数が3の答えを比べる。 答えが同じになるわけを考え発表する。 交換法則を用いて問題を解く。(1)</p>	<p>九九表という物があるのか。 覚えていたことを使えば簡単だよ。 あれ？答えが同じところがたくさんあるな。 九九表には、たくさんきまりがあるのだな。</p> <p>なぜ、答えが同じになるのかな。 そうか、かけ算は掛けられる数(1つ分)とかける数(いくつ分)を入れ替えても答えが同じだからだ。</p>	<p>九九表の仕組みを理解している。 乗法九九の表を完成することができる。 【知・技】(ノート, 行動観察)</p> <p>九九表のよさに気付き、九九のきまりや特徴を見出している。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>被乗数と乗数に着目して、式や図を用いて表現し、答えが同じになるわけを考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
<p>【本質的な問い】かけ算は、どんなときにつかえるだろう。</p>			
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>ブロックの数を求める式を考える。 交換法則や情報のきまりを使って、計算のしかたを考える。(1) 12×3の計算のしかたを分配法則を使って考える。(1)(本時5/9) 3×12の計算のしかたを考え、答えを求める。(1)</p>	<p>あれ？確かに、かける数とかけられる数を入れ替えても答えは同じだけど、図と結びつかないな。 友達と考えている式が全然違うよ。友達は、どのようにして考えているのかな。 なるほど、やはり1つ分といくつ分は、どちらでもいいわけではないな、大切なことなんだな。</p>	<p>簡単な2位数と1位数の計算について、図で表したり、式を変形したりすることができている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>簡単な2位数と1位数の計算について、分配法則をもとに考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>実行</b></p> <p>19人で旅行に行くときの、座席の取り方を考える。 他の人数の場合の座席の取り方を考える。(1)</p>	<p>座席の形を見ると、1つ分が分かるね。 いくつ分は、何列あるかを見ると分かるね。</p>	<p>かけ算九九を想起し、場の状態を考えながら、かけ算九九を生活場面で活用し、問題を解決している。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
四	<p><b>ふりかえり</b></p> <p>かけ算の練習問題に取り組むとともに、単元の学習を振り返る。(2)</p>	<p>どれだけ学んだことが身についているかな。</p>	<p>単元で学んだことや学習・生活に生かしたいことなどを振り返っている。 【態度】(発言・ノート)</p>

#### 5 本時の展開（5/9）

##### (1) 本時の目標

被乗数が9よりも大きい数の場合の乗法を、乗法の分配法則を使って求めることができる。

##### (2) 観点別評価規準

被乗数が9よりも大きい数の場合の乗法について、被乗数を2つの数に分けて図に表したり、計算したりしながら求めることができる。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
<p>1 前時までの学習をふりかえる。</p> <p>2 問題に出合い、課題を設定する。</p>	<p>◆ 前時に学習した累加と交換法則による計算方法について、掲示物を使って振り返る。</p> <p>&lt;累加 (たすたすほう)&gt;  <math>12 \times 3 = 12 + 12 + 12 = 36</math></p> <p>&lt;交換法則 (さかさまほう)&gt;  <math>12 \times 3 = 3 \times 12</math>  <math>3 \times 9 = 27</math>      <math>3 \times 11 = 33</math>  <math>3 \times 10 = 30</math>     <math>3 \times 12 = 36</math></p> <p>右の図のように、りんごが12こずつ3れつ並んでいます。りんごの数を求めましょう。</p> <p>○ 意図的に3段3れつのでりんごに変化をつけておき、分配法則による計算方法の手掛かりとする。</p>	<p>たすたすほうで計算できます。 12が3つ分なので、12を3回足して、答えは36です。</p> <p>さかさまほうで計算できます。 12×3の答えは、3×12と同じなので、答えは36です。</p> <p>上の3段は、りんごがかじってあるよ。 3段が3れつあるから・・・</p>
<p>九九を使って、<math>12 \times 3 = 36</math>になるわけを説明しよう。</p>		
<p>3 自分の考えを書く。</p> <p>4 友達と考えを共有し、話し合う。</p> <p>5 まとめる。</p>	<p>○ 図のかかれたワークシートを配り、考える手がかりにするとともに、図や式、言葉で表すことができるようにする。</p> <p>◆ 図に線を入れさせて、線の上と下でどのように計算をすればよいかを助言する。</p> <p>○ 児童のかいた図を提示する。どんな考えなのかを他の児童に説明させる。</p> <p>○ 児童の考えを共有するために、一緒に図にかき込みながら自分の考えと比較させる。</p> <p>(わけてたすほう)</p> <p><math>12 \times 3</math>    <math>3 \times 3 = 9</math>  <math>9 \times 3 = 27</math>  <math>9 + 27 = 36</math></p> <p><math>3 \times 3 = 9</math>  <math>9 \times 3 = 27</math></p>	<p>○○くんは、かけられる数の12を3と9に分けています。</p> <p>3と9を足したら、かけられる数の12になるね。</p> <p>かけられる数は分けられるんだね。</p> <p>○ 被乗数が9よりも大きい数の場合の乗法について、被乗数を2つの数に分けて図に表したり、計算したりしながら求めることができる。 (ノート) 【思・判・表】</p>
<p>かけられる数を分けると、九九を使って計算することができる。</p>		
<p>6 適用題を解く。</p>	<p>○ 右のような図は、式にするといくつになるでしょう。また、答えはいくつですか。</p> <p><math>11 \times 4</math>    <math>4 \times 4 = 16</math>  <math>7 \times 4 = 28</math>  <math>16 + 28 = 44</math></p> <p><math>4 \times 4 = 16</math>  <math>7 \times 4 = 28</math></p>	<p>○○くんのように、分けて考えれば九九を使って計算できることがわかりました。</p>
<p>7 振り返りを書かせる。</p>	<p>○ 今日の学習で分かったことや友達の前での考えのよいところについて、振り返りをノートに書かせる。</p>	



## 「1mを3等分した2つ分」ってどんな長さ？

3年 分数

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

## 1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第3学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

A (6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(7) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。

(4) 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。

(9) 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(7) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。

## (1) 単元観

分数の学習は、児童にとって困難な学習内容とも言われている。つまずかせる大きな原因の1つには、量の大きさを表す分数と、割合を表す分数の指導の混乱があげられる。第2学年では、ある大きさの半分や4つに分けた1つ分といった簡単な分数について学習している。第3学年では、これらの経験を踏まえて、長さやかさの端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すのに分数を用いることを知り、それらを適切に用いることをねらいとしている。

また本単元では、分数の大きさを図や数直線上に表したり、同分母分数の加法・減法の仕方を考えたりすることで、分数の意味や表し方が分かるとともに、同分母分数の加法・減法の意味について理解することもねらいとしている。本教材は、分数の大きさを図や数直線上に表したり、それをもとに小数の大きさと関係付けたり計算の仕方を考えたりすることで、1をもとにした分数の大きさを捉えていく。このような見方は、基準量の分数倍にあたる量を求める考え方や、1をもとにしたときの割合分数で表す考え方や、整数の除法の結果を表す商分数の学習へとつながるため、系統性を意識した指導が必要であると考える。

## (2) 児童観

## 学力調査等の実態

レディネステストで「分数を図や数直線上に表す問題」を実施した。その結果、図に表したもとの大きさを等分した場合の正答率は100%だったが、数直線に表した場合の正答率は66.6%だった。分数は1を等分した大きさを表した数であることが分かるようにしていく必要がある。

また、1Lや1mを等分した大きさを分数に表すこと（量分数の表し方やその意味）や等分した大きさを合わせた大きさが1になることへの理解が十分とは言えなかった。

## 課題発見・解決学習の実態

平成27年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙を実施した。その結果、「授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。」(75%)、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるよう発表を工夫しています。」(70.8%)と課題が見られた。1学期と比べると、自分の考えを発表することについての意識が少し高まった。しかし、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることについて、苦手意識をもっている児童もいる。そこで、説明に関する思考力や表現力も高めていきたいと考える。

## (3) 指導観

本単元では、第2学年までに学習したことを基に、分数の意味や表し方を学習していく。導入では、はしたの長さをどう表せばよいかを考えさせ、1mを何等分かした1つ分で表せることに気付かせていく。等分した大きさを分数で表すことについて理解させることは、第5学年で学習する分数が割合や商を表すことにつながるため、重要である。また、分数で表した長さを実際に見たりそれを基に測定したりする経験をさせることで、量分数で表すことに親しませたい。さらに、分数をL・dl マスの図やテープ図、数直線上に表して数量の大きさを掴ませていることで、分数が表す数量への見方を広げていく。

本単元の学習では、次のことに留意したい。

1つ目は、一人一人が考えを伝え合う場を設定することである。考えを確かめたり広げたり深めたりするために、全体交流の前にはペアトークをさせ、全員が話したり聞いたりできるようにしたい。

2つ目は、児童自身が課題を設定することである。問題から既習との違いを見付け、課題を設定することで、目的意識を持って学習できるようにしたい。

3つ目は、同分母分数の加法・減法は、単位分数のいくつ分で考えると整数や小数と同様にできることに気付かせることである。分子同士の計算で機械的に処理するのではなく、その意味をしっかりと理解させたい。



**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

○ 分数の意味や表し方, 簡単な場合の加法及び減法の意味について理解する。	(知識及び技能)
○ 同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方について, 単位分数の幾つ分かで表して考える。	(思考力, 判断力, 表現力等)
○ 分数や分数で学習したことを学習や生活に生かそうとする。	(主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	分数の意味や表し方, 同分母分数の加法及び減法の意味について知っている。	同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方を単位分数の幾つ分かで表して考えている。	分数で表すことよさに気づき, 学習や生活に生かそうとしている。

**3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり**

本単元では, 等分してできる数量や端数部分の数量の大きさをL・dL ますを使った図や数直線などに表し, 1を等分した数量(単位分数)の幾つ分かを確かめながら分数に表していくことで, 分数の意味やその表し方への理解を深めていく。また, 授業の中で必ず自分の考えを表現する場を設定したり, ペアで話すことで確認を行ったりするなどして, 友達との話し合いから理解を深められるような場を設定する。これらを通して, 思考力・表現力(スキル)を育成することができると考える。

**4 指導計画 (全10時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>1m のテープを等分した長さやはしたの長さを単位分数で表す。(1)</p>	<p>○分の1で表せない長さは, どのように表そう。</p>	<p>いろいろな等分した長さやはしたの長さを分数で表そうとしている。 【態度】(ノート, 発言)</p>
	<p>【本質的な問い】 分けた長さやかさは, 分数でどのように表すことができるだろう。</p>		
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>単位分数のいくつ分という見方で, 長さやかさを分数や図に表す。(2)</p> <p>分数を使って, 長さやかさをはかる。(1)</p> <p>分数の仕組みを調べ, 同分母分数の大小比較をする。(1)</p> <p>分数を正しく表している図を考える。(1) (本時6/10)</p> <p>分数と小数の関係を調べ, 大小比較をする。(1)</p> <p>分数のたし算・ひき算の問題場面を図や数直線に表し, 計算の仕方を考える。(2)</p>	<p>○分の1のいくつ分で考えれば, 分数で表せるね。 1mや1Lを何等分したいいくつ分で見ればいいね。</p> <p>身近な長さやかさも分数で表せるんだね。</p> <p>○分の1のいくつ分で考えれば比べられるね。</p> <p>1mや1Lを何等分したいいくつ分になっているかで考えればいいね。</p> <p>0.1と<math>\frac{1}{10}</math>は同じ大きさだね。</p> <p>○分の1のいくつ分で考えれば, 整数と同じように計算ができるんだね。</p>	<p>分数の表し方を理解し, 分数を図に表すことができる。 【知・技】(ワークシート)</p> <p>図に表された数量を分数で表すことができる。【知・技】(ワークシート)</p> <p>身近なものの長さやかさを分数で表している。【態度】(発言・行動観察)</p> <p>大小比較の仕方や1と等しくなる分数があることを知っている。 【知・技】(発言・ノート)</p> <p>1mや1Lを何等分したいいくつ分になっているかという考え方をういて分数を正しく表した図について考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>分数と小数の大きさの関係を知っている。【知・技】(発言・ノート)</p> <p>同分母分数の加法・減法の仕方を単位分数の幾つ分かで考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>学習したことを活用し, 問題作りをして解き合ったり, 練習問題に取り組んだりする。(1)</p>	<p>分けた大きさを分数で表すとき, ○分の1のいくつ分で考えることが大切だね。</p>	<p>進んで分数の問題を作ったり解いたりしている。 【態度】(ノート・行動観察)</p>

5 本時の展開 (5/10)

(1) 本時の目標

1 mや1 Lを何等分したいくつ分になっているかという捉え方を用いて分数を正しく表した図について説明することができる。

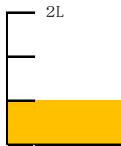
(2) 観点別評価規準

1 Lを3等分した1つ分という捉え方を用いて、マス図が $\frac{1}{3}$ Lを表していない理由を説明している。

【 思 ・ 判 ・ 表 】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出 合い、めあて を設定する。	<p>○ ひろしくんが<math>\frac{1}{4}</math>mの図をかこうとしていたが、分からなくなってしまったという場面を提示し、㉗から順番に図を提示していく。</p> <div data-bbox="339 819 1110 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どれが正しい図かを説明しよう。</p>	<p>ひろしくん、何かまちがえていそう。</p> <p>正しい図はあるのかな。 <math>\frac{1}{4}</math>m</p> <p><math>\frac{1}{4}</math>m</p>
2 自力解決 する。	<p>○ 児童が図に書き込んで考えることができるように、テープ図を配布する。</p> <p>◆ 量感をイメージできるよう、実際の長さのテープを用意し、自由に見たり触れたりすることができるようにする。</p> <p>○ なるべく理由を書きやすいものから書かせるようにする。児童にとっては、おそらく㉗と㉚は説明しやすいと予想される。</p> <p>◆ ㉗は児童がつまずきやすい図であると考えられる。分数についての理解が十分でない児童は、全体を「2m」として捉えてしまう可能性がある。自力解決の段階で児童の実態を見取っておく。</p>	<p>㉗は1mを4等分していないからちがうよ。</p> <p>㉚は1mを4等分した2つ分の長さで、<math>\frac{2}{4}</math>mになっているよ。</p> <p>㉗は60cmを4等分した1つ分の長さになっているからちがうよ。</p> <p>㉘は2mを4等分した1つ分の長さになっているからちがうよ。</p>
3 考えを出 し合い、練り 合う。	<p>○ 「1m」という普遍的な基本単位をもとにして、それを何等分したいくつ分になるのかを、児童の説明からおさえていけるようにする。</p> <p>◆ 自力解決の段階で、説明できなかった児童が、友達の考えを聞いて分かったことを、書く時間、または友達と話して確認する時間を確保し、変容を見取る。</p> <p>○ ㉗に関して、4等分はされていないが、<math>\frac{1}{4}</math>mの実際の長さにし</p>	<p>友達の発表を聞いて、㉗～㉚の図がまちがっている理由が分かったよ。</p> <p>㉗のテープ図は4等分されていないけれど、本当の<math>\frac{1}{4}</math>mの長さだよ。だから<math>\frac{1}{4}</math>mだ。</p>

4 まとめる。	<p>ておく。実際の<math>\frac{1}{4}</math>mのテープを重ねて比べさせて気付かせる。</p>	
	<p>1mをもとにして何等分したいいくつ分になっているかを考えるとよい。</p>	
5 適用題に取り組む。	<p>ひろしくんは<math>\frac{1}{3}</math>Lの図を表そうとして、下の図のようにかきました。しかし、下の図はまちがっています。その理由を説明しましょう。</p> 	<p>○ 1Lを3等分した1つ分という考え方を using、マス図が<math>\frac{1}{3}</math>Lを表していない理由を説明している。</p> <p><b>【思・判・表】</b>（ノート）</p>
6 振り返る。	<p>①自分の成長 ②友達から学んだこと ③うまくいったことや失敗したこと ④新たな疑問</p>	<p>この図は2Lを3等分した1つ分になっているよ。</p> <p><math>\frac{1}{3}</math>Lは1Lを3等分した1つ分のことだよ。</p>

割合ってどんな数？  
5年 割合とグラフ

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性 思考力・表現力

## 1 単元について

○ 本単元は、次期小学校学習指導要領第5学年の「C 変化と関係」「D データの活用」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- C (3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。
- (イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
- D (1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。
- (イ) データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

## (1) 単元観

本単元は、基準量と1としたとき、比較量がどれだけにあたるかを割合で表し、それを用いて数量の関係の比べ方を考察することができるようになることをねらいとしている。また、割合を百分率や歩合で表すことや円グラフや帯グラフを読んだり表したりすることができるようになることをねらいとしている。

本単元は、「単位量あたりの大きさ」、「小数のわり算」で学習したことをもとに、2つの数量の関係を比べる方法を考察し、割合で表すことができるようになることをねらいとしている。その際、2つの数量の関係を図に表して立式したり、図をもとにその理由を考えたりしていく。図を基に2つの数量の関係を適切に捉えさせることで、基準量・比較量・割合の関係やそれぞれの求め方を理解させていく。また、割合の求め方を学習した後に、円グラフや帯グラフについて学習し、その後、基準量や比較量の求め方を学習する。基準量や比較量を求める学習では、グラフを使って割合やその要素を表すことで、基準量と比較量、割合の関係を捉え直すことができるようにしてい

## (2) 児童観

## 学力調査等の実態

比較量、割合、基準量を求める問題（8月実施）で、正しく立式し求めることができた児童がそれぞれ95.5%、72.7%、50.0%であった。また、求め方を図に表し適切に説明できた児童は59.1%であった。平成30年度全国学力・学習状況調査の結果では、単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味の理解（全国50.1% 本校66.0%）や割合を百分率で求めること（全国52.9% 本校62.3%）に課題がある。

## 課題発見・解決学習の実態

質問紙調査を実施したところ、友達と話し合っ  
て考えを深めたり広げたりしていると答えた児童は85.7%だった。また、算数の学習で進んで発表していると答えた児童は71.4%だった。発表できない児童は、主な理由として「恥ずかしいから」や「自信がないから」と回答していた。学習の中で考えたことを友達に分かるように説明し、様々な考えを伝え合っていくことで、考えを深めたり広げたりしていくことができる。発表できない児童に自信や自己肯定感をもたせ、発表の機会を増やしていく必要がある。

## (3) 指導観

本単元では、基準量と比較量の関係を正しく捉えること、立式の根拠を明らかにすることを大切にしたい。そのために、次の2点に留意していく。1つ目は、円グラフや帯グラフを活用することである。グラフに表すことで、基準量と比較量の関係が割合で表せることや百分率の意味を理解するための補助にしたい。2つ目は、図をもとに式の意味を説明させることである。特に、基準量を求める際に除法を用いることに課題が見られる。図に矢印や数を書き込んだり□を使った式に表したりして思考・表現させることで、式の意味を明確に説明させ、深い理解につなげたい。

本単元では、基準量を1や100%などの割合として捉えたり、基準量と比較量を正しく捉えたりすることにつまずく児童がいると予想される。そこで、単元を通して、授業の導入に既習事項のフラッシュを提示し、基準量・比較量・割合の関係を正しく捉えられるようにしていく。

また、図を用いて説明することやみんなの前で説明することに苦手意識のある児童がいる。そこで、説明の話型を確認したりペアで説明の仕方を確認する場を設定したりしていくことで、説明することへの抵抗感を減らし、自己肯定感を高められるようにしたい。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 百分率を用いた表し方を理解するとともに、割合を用いて数量の関係を比べることができる。また、円グラフや帯グラフの特徴をそれらの用い方を理解する。(知識及び技能)
- 数量の関係に着目し、図や式を用いて、2つの数量の関係や別の2つの数量の関係との比べ方を考える。また、目的に応じて資料の特徴や傾向に着目し、割合の違いを捉える。(思考力、判断力、表現力等)
- 割合を用いた比べ方やグラフに表すことよきを感じ、学習や生活に生かしたり、考察の方法や結果、結論を批判的に振り返ったりする。(主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	割合, 比較量, 基準量の関係を図に表し, 求めている。 割合を百分率を用いて表している。 円グラフや帯グラフを用いて, データを読んだり表したりしている。	割合として捉えられる2つの数量の関係を, 図や式を用いて表したりそれを用いて説明したりしている。 資料の特徴や傾向に着目し, 割合の違いを捉え, 説明している。	学習や生活で, 割合を用いて比べたりグラフに表したりしている。 学習で, 考察の方法や結果, 結論を批判的に振り返っている。

#### 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

単元の導入では、身の回りで割合が用いられていることについて調べたり紹介し合ったりする場を設定する。買い物をするときやプロ野球選手の打率、社会科の学習の資料等、生活や学習の多くの場面で割合やそれを表したグラフが用いられていることに気付かせ、学習することへの必要感をもたせたい。

割合や比較量、基準量を求める学習では、問題場面を数直線を用いた図に表して求め方を考えたり、それを用いて立式の理由を説明したりする場を設定する。数量の関係を図に表したりそれを基に考え説明したりすることで、その求め方を身に付けて活用したり考えを筋道立てて説明したりする能力を育成したい。

#### 4 指導計画 (全15時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>割合が用いられている身の回りの事象やその表し方について考える。(2)</p>	<p>もとにする量の「4割」や「20%」ってどういうことだろう。</p> <p>「シュートの成績」や「どちらがお得か」は、どうすれば比べたりグラフに表したりできるだろう。</p>	<p>割合が用いられていることに興味をもっている。 【態度】(発言・ノート)</p> <p>既習や生活経験から求め方や割合の表し方を考えている。 【思・判・表】(ノート)</p>
	<p><b>【本質的な問い】</b> 割合の意味や表し方について調べよう。</p>		

二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>全体と部分である2量から、シュートの成績や混み具合の比べ方などの割合の求め方を考える。(2)</p> <p>全体と部分でない2量から、割合の求め方を考える。(1)</p> <p>百分率や歩合の表し方について知り、様々な場面の割合の求め方を考える。(3)</p> <p>割合を帯グラフや円グラフに表す。(1)</p>	<p><math>(\text{比べられる量}) \div (\text{もとにする量})</math> で、もとにする量を1としたとき、比べられる量がいくつにあたるかを求められるね。このように表した数を「割合」というんだね。</p> <p>もとにする量が変わると割合も変わるね。このとき、割合が1よりも大きくなることもあるよ。</p> <p>もとにする量を100にして表した割合を百分率といい〇%と表し、0.1を1割と表した割合を歩合というんだね。割合は、百分率でも歩合でもどちらでも表せるね。</p> <p>割合を帯グラフや円グラフで表すと分かりやすいね。</p>	<p>単位量当たりの大きさを基に、シュートの成績の表し方を考えている。 【思・判・表】(発言、ノート)</p> <p>もとにする量を考えて立式し、割合を求めている。 【知・技】(ノート)</p> <p>百分率や歩合の表し方を理解し、適切に求めている。 【知・技】(ノート) 身の回りのものから割合で表したいものを見付け、求めている。 【態度】(発言・ノート)</p> <p><math>(\text{比べられる量}) \div (\text{もとにする量})</math> で割合を求め、帯グラフ・円グラフに表している。 【知・技】(ノート)</p>
	<p>比較量の求め方を考える。(2)</p> <p>基準量の求め方を考える。(1) (本時 12/15)</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>割合についての問題作りをし、解き合う。(1)</p>	<p><math>(\text{もとにする量}) \times (\text{割合})</math> で、比べられる量が求められるね。</p> <p><math>(\text{比べられる量}) \div (\text{割合})</math> で、もとにする量が求められるね。</p> <p>求めたい量によって、問題文や式が変わってくるよ。</p>	<p>単位量あたりの大きさの考え方を基に、比較量の求め方を考えている。 【思・判・表】(発言・ノート) 割合を1から増やしたり減らしたりした場合の比較量の求め方を考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>単位量あたりの大きさの考え方を基に、比較量の求め方を考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>求めたい量に合った問題を作ったり、作った問題を正しく立式し解いたりしている。 【知・技】(ノート)</p>
	<p><b>実行</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>学習したことを使って、いろいろな問題を解決する。(2)</p>	<p>身の回りのいろいろなことは、割合を使って表したり大きさを求めたりできるね。</p>	<p>自分の学び方や学習・生活とのつながりについて、振り返っている。 【態度】(発言・ノート)</p>

## 5 本時の展開 (12/15)

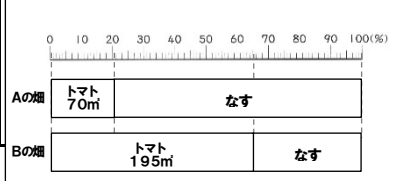
### (1) 本時の目標

単位量あたりの大きさの考え方を基に、比較量の求め方を考える。

### (2) 観点別評価規準

図を基にして、単位量あたりの大きさから基準量の求め方を考え、説明している。【思・判・表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出合い、見通しをもつ。	<p>○ フラッシュで比較量の求め方を振り返らせ、数量の関係やそれを表した図やグラフのイメージをつかませる。</p>  <p>Aの畑とBの畑では、どちらの畑が広いでしょうか。 A・・・全体の20%がトマト畑で、70 m<sup>2</sup> B・・・全体の65%がトマト畑で、195 m<sup>2</sup></p>	<p>比べられる量は、もとにする量の何倍かで考えて求めることができましたよ。</p>

2 本時のめあてをつかむ。

3 自力解決をする。

4 全体で話し合う。

- 帯グラフで割合・比較量の順に提示し、どちらの畑の面積が広いか予想させることで、基準量を求める問題であることを確かめ、比較量、割合、基準量の関係をつかませる。
- ◆ ノートに数直線図をかかせ、問題解決の見通しをもたせる。

もとにする量はどうすれば求められるだろう。

- A, Bそれぞれの畑の面積の求め方を式、図、数、言葉でノートにかかせる。
- ◆ つまずきのある児童には、Aの畑の面積について、□を使った式を基に考えさせ、解決の手掛かりにさせる。
- ペア・全体でA・Bの畑全体の面積の求め方について、図を基に説明し合う場を設定することで、除法を用いて求めればよいことや式の意味を確かめられるようにする。
- ◆ 基準量の求め方を全体で確かめた後、自分の考えをかいたノートを加筆・修正させることで、自分の求め方や説明の仕方を振り返ることができるようにする。

【1%分の面積を求めて考える】

Aの畑  
 □m<sup>2</sup>の1%分の面積は、 $70 \div 20 = 3.5$  なので、 $3.5 \text{ m}^2$ 。  
 100%分の面積は、 $3.5 \times 100 = 350$  なので、 $350 \text{ m}^2$   
 だから、 $350 \text{ m}^2$

Bの畑  
 □m<sup>2</sup>の1%分の面積は、 $195 \div 65 = 3$  なので、 $3 \text{ m}^2$ 。  
 100%分の面積は、 $3 \times 100 = 300$  なので、 $300 \text{ m}^2$   
 だから、 $300 \text{ m}^2$

【単位量あたりの大きさを使って考える】

Aの畑  
 □m<sup>2</sup>を1としたとき0.2にあたる面積が70 m<sup>2</sup>なので、 $\square \times 0.2 = 70$   
 □を求める式は、 $70 \div 0.2 = 350$   
 だから350 m<sup>2</sup>

Bの畑  
 □m<sup>2</sup>を1としたとき0.65にあたる面積が195 m<sup>2</sup>なので、 $\square \times 0.65 = 195$   
 □を求める式は、 $195 \div 0.65 = 300$   
 だから300 m<sup>2</sup>

- Aの畑全体の面積は乗法で求められるのではないかと問い、考えを揺さぶることで、児童の説明の中で比較量・割合・基準量の関係を確認められるようにする。

もとにする量は、比べられる量 ÷ 割合 で求められる。

5 まとめる。

6 適用題を解く。

たけしさんは、あたりくじの割合が15%になるようにくじを作っています。あたりくじを30本にすると、くじは全部で何本になるでしょうか。

本数			0	30		□ (本)
割合	1		0	0.15		1

【たけしさんの解答】

この問題では、( ) をもとにする量として考えます。  
 □本の( )にあたる本数が( )本なので、  
 □を使ったかけ算の式に表すと、( ) です。  
 □を求める式は、( )  
 だから、くじは全部で( )本です。

比べられる量が分かれば比べられるよ。

比べられる量は70 m<sup>2</sup>と195 m<sup>2</sup>、割合は20%と65%で、もとにする量が分からないよ。

100%あたり(1あたり)を求めればいいね。

1%を求めて100倍すれば求められそう。

単位量あたりの大きさを使えば求められそう。

もとにする量は、(比べられる量) ÷ (割合) で求めることができるね。



トマト畑は、全体の20%で70 m<sup>2</sup>です。だから、 $70 \times 0.2 = 14$  で、Aの畑は14 m<sup>2</sup>です。

先生の考えは、畑全体の面積がトマト畑より小さくなっているよ。

先生の考えは、もとにする量と比べられる量が反対になっているよ。

- 図を基にして、単位量あたりの大きさから基準量の求め方を考え、説明している。  
 【思・判・表】(ワークシート)

7 振り返る。	○ どうすればもとにする量の求め方が分かったかノートに書かせることで、学び方について振り返らせる。	<p>比べられる量ともとにする量の関係が分かればいいね。</p> <p>図や表を使えば、求め方が分かるよ。</p>
---------	---	---



# 速さの考えを使って到着時刻を調べよう

## 6年 速さ

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

## 1 単元について

- 本単元は、次期小学校学習指導要領第5学年の「C 変化と関係」の内容に基づき設定した。次期小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

C (2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

## (1) 単元観

本単元では、速さの意味を知り、その表し方や求め方を理解することや速さ、かかった時間、進んだ道のりの3つの数量の関係を理解することをねらいとする。

第5学年では、異種の二つの量の割合について指導し、部屋の混み具合や人口密度などを取り上げて指導している。第6学年では、異種の二つの量の割合である速さについて指導する。速さについては、児童は日常生活において、人の走る速さや乗り物が移動する速さなどを、速い、遅いなどと表現してとらえる経験をしてきている。速さを量として表すには、移動する長さと、移動にかかる時間という二つの量が必要になる。速さは、単位時間当たりに移動する長さとしてとらえると、 $(速さ) = (長さ) \div (時間)$  として表すことができる。また、速さと時間から長さを求めることもできるし、長さから速さから時間を求めることもできる。実際の場面と結び付けるなどして、生活や学習に活用できるようにしていきたい。

遠足の行程表を見せ、どうやって到着時刻を決めているのか、話し合わせるところから単元をスタートし、時速とは何か、速さや道のり、時間の関係はどのようになっているのかを解決しながら単元を進めていきたい。

## (2) 児童観

## 学力調査等の実態

全国学力・学習状況調査算数Aの正答率は、84% (全国 63.5%)、算数Bの正答率は74% (全国 51.5%)であった。単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している割合は66%、百分率を求めることができる割合は62.3%と課題が見られた。式の意味を理解したり、割合の問題を適切に表現したりすることに課題が見られた。

## 課題発見・解決学習の実態

本学級の児童は、5年生「単位量当たりの大きさ」の学習を通して、単位量当たりの大きさに揃えて異種の二つの量を比べる方法を学習してきた。

また、「割合とグラフ」の単元では、身近な生活場面から割合の場面を見付けたり、割合の問題作りをしたりして学習してきた。児童の実態に応じて分けられた小集団での学習により、どの児童も主体的に学習に参加したが、個人で課題を解決していく力が十分定着しているとは言えない。

## (3) 指導観

本単元は、条件に合わせて問題を解いたり説明したりすることができるようにするために、大量の情報の中から問題解決に必要な情報を選択し、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決することができるような日常場面の問題を設定する。また、数直線図を使って式の意味について考える活動を取り入れる。

本単元は、遠足の行程表を見せ、どうやって到着時刻を決めているのか、話し合わせるところから単元をスタートさせる。

時間はこれまでとは違い、見たり肌で感じたりすることのできない量である。そのため、数直線図を活用した児童同士の対話により、単位量当たりの大きさが発展して、速さの学習をしていることを実感させながら、学習を進めていく。単元の終わりには、日常場面の問題を解かせ、算数の学習を進んで問題解決に活用しようとする態度を育てていきたい。

## (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 単位量当たりの考えをもとに、速さなどを求めたり、速さの表し方を理解する。 (知識及び技能)
- 速さを求めるときに、単位量あたりの考えを用いて考える。 (思考力、表現力、判断力等)
- 速さを求めるときに、単位量あたりの考えを用いたり、生活や学習に活用したりする。 (主体的に学習に取り組む態度)

## 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>単位量当たりの考えをもとに、速さなどを求めている。</p> <p>単位量当たりの考えをもとにした速さの表し方を理解している。</p>	<p>速さを求めるときに、単位量当たりの考えや道のりと時間が比例関係にあることなどをもとに、数直線や図、式を用いて考えている。</p>	<p>速さを求めるときに、単位量当たりの考えを用いて数値化したり、具体的な場面と結びつけて、生活や学習に活用したりしようとしている。</p>

## 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

遠足の行程表を見て話し合ったり、日常場面の速さの問題を解いたりすることを通して、学習の必然性を実感させる。日常生活を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決したり（思考力・表現力）、よりよく問題を解決するために、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度（主体性・積極性）を育てたりする。

## 4 指導計画（全8時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（評価方法）
一	<p><b>課題の設定</b></p>	<p>遠足の行程表は、どうやって到着時刻を決めているのかな。</p>	
	<p>【本質的な問い】速さや時間、道のりは、どうやったら求めることができるのだろうか。</p>		
一	<p><b>情報の収集</b></p> <p>4人の子どもの走る速さを調べ、その比べ方を考える。(1)</p>	<p>1秒間あたりに走る道のりや1mあたりに走るのにかかる時間で比べたらいいね。</p>	<p>混み具合のときの比較の仕方と同じように、考えようとしている。 【態度】(ノート)</p>
	<p>時速、分速、秒速について知り、公式を適用して速さを比べる。(1)</p>	<p>時速は1時間当たり、分速は1分間当たり、秒速は1秒間あたりに進む道のりを表しているんだね。30分は<math>\frac{1}{2}</math>時間と表すこともできるね。</p>	<p>速さは、単位時間あたりに進む道のりで表されることを理解している。 【知・技】(ノート)</p>
	<p>同じ速さのものを、時速や分速や秒速で表す。(1)</p>	<p>60をかけたり割ったりすれば、時速や分速、秒速に直すことができるんだね。</p>	<p>時速、分速、秒速の相互の変換をしている。 【知・技】(ノート)</p>
	<p>100mをどのくらいの速さで歩くのかを実際に調べてみる。(1)</p>	<p>歩く速さは、秒速1.3mだ。分速74mだ。(道のり)÷(時間)で、歩く速さを調べることができるね。</p>	<p>実際に測定して、時速、分速、秒速を求めている。 【知・技】(ノート、行動観察)</p>
	<p>図や表に表して、道のりや時間を考える。(1)</p>	<p>道のりは、(速さ)×(時間)、時間は、(道のり)÷(速さ)で求めることができるね。</p>	<p>速さと時間が分かっている場合の道のりや、速さと道のりが分かっている場合に時間を求めている。 【知・技】(ノート)</p>
二	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>提示された条件について、速さを適用して考える。(1)(本時6/8)</p> <p>練習問題を通して、既習事項の理解を深める。(1)</p> <p>力だめしの問題を通して、既習事項の確かめをする。(1)</p>	<p>(道のり)÷(速さ)を使って時間を求めることができた。数直線図に表すと、分かりやすいな。</p> <p>速さの考えを使えば、目的地への到着時刻を調べたり、道のりを調べたりすることができる。</p>	<p>速さの考えを、問題を解決に活用している。 【思・判・表】(ノート、行動観察)</p> <p>速さと時間が分かっている場合の道のりや、速さと道のりが分かっている場合に時間を求めている。 【知・技】(ノート)</p> <p>速さを求めるときに、具体的な場面と結びつけて、生活や学習に活用しようとしている。 【態度】(ノート、行動観察)</p>

5 本時の展開 (6/8)

(1) 本時の目標

速さの考えや単位量当たりの考えを用いて、目的地までにかかる時間や費用を考えることができる。

(2) 観点別評価規準

速さの考えや単位量当たりの考えを問題解決に活用して考えている。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出会う。(3分)	<p>みさとさんは、家族で車を使って親せきの家に遊びに行きます。高速道路は時速 80 km、それ以外の道路は時速 40 km で走ります。それぞれの道のりは、表の通りです。みさとさんの家から分岐点まで 8 km、3つの道が合流したところから親せきの家まで 12 km です。ただし、信号待ちや道路の混雑はないものとします。10 時 10 分に出発すると、それぞれ何時に到着するでしょうか。</p>	<p>速さの考えを使えば、かかる時間を求めて比べることができる。</p> <p>時間を求めるので、式は (道のり) ÷ (速さ) が使える。 (8+12) ÷ 40 = 0.5 時間</p>
2 本時のめあてをつかむ。(2分)	<p>問題を解くためにどんな考え方を使うとよいだろう。</p>	<p>山側道路 120 ÷ 40 = 3 海岸道路 100 ÷ 40 = 2.5 高速道路 80 ÷ 80 = 1 高速道路が早いね。</p>
3 時間を求める。(10分)	<p>○ 問題を解くために使える考え方を見付け、見通しを立てる。 ◆ 問題文の中から情報を取り出し、図に整理する。 ○ 共通する道路にかかる時間を求める。 ○ 山側道路、海岸道路、高速道路のそれぞれにかかる時間を求める。</p>	<p>山側道路 3 + 0.5 = 3.5 海岸道路 2.5 + 0.5 = 3 高速道路 1 + 0.5 = 1.5 高速道路が早く着くね。</p>
4 問題の続きに出会う。(5分)	<p>(お母さんの言葉) 高速道路を使うと速く行けるわね。でも高速道路の通行料金がかかるわ。もし、ほかの道を使うより 1 時間以上早く着いて、全部の費用が山側道路や海岸道路を使うより 1000 円以上高くならなければ、高速道路を使いましょう。</p>	<p>ガソリンの料金を求める式は、(道のり) ÷ (1 L で走れる道のり) × 120 で求めることができそう。</p>
5 料金を求める。(10分)	<p>ガソリン 1 L あたりの値段…120 円 ガソリン 1 L で走れる道のり…10 km 高速道路の通行料金…1200 円</p> <p>みさとさんの家族は、高速道路を使うでしょうか。</p>	<p>海岸道路 (100+20) ÷ 10 × 120 = 1440 高速道路 (80+20) ÷ 10 × 120 = 1200 1200 + 1200 = 2400 2400 - 1440 = 960 1 時間以上早く着いて 1000 円以上高くないから高速道路が使えるね。</p>
6 まとめをし、適用題を解く。(10分)	<p>速さの考え方や単位量当たりの大きさを学習したことや数直線図を使うと答えや理由を考えることができる。</p>	<p>(道のり) ÷ (速さ) を使うと、高速道路は 39 ÷ 78 = 0.5、それ以外は 40 ÷ 40 = 1 だから、合わせて 1.5 時間。 (道のり) ÷ (1 L で走れる道のり) × 120 を使うと、79 ÷ 31.6 × 120 = 300、300 + 1180 = 1480 A 先生は、朝 6 時に家を出発して、片道 1480 円かかっていることが分かったぞ。</p>
7 振り返りをする。(5分)	<p>A 先生は毎朝 7 時 30 分に学校に到着します。呉市に住む A 先生の家から高速道路まで 34 km、高速道路は 39 km、高速道路を下りて学校まで 6 km あります。A 先生は高速道路を時速 78 km、その他の道路を時速 40 km で走ります。A 先生の車は、ガソリン 1 L あたり 31.6 km 走ります。ガソリン 1 L の値段は 120 円です。高速道路の通行料金は 1180 円です。ただし、信号待ちや道路の混雑はないものとします。 A 先生は、何時に家を出発して、片道の費用は全部でいくらかかるでしょうか。</p> <p>・ 学んでよかったことを書く。</p>	<p>○ 速さの考えを問題解決に活用して考えている。【思・判・表】(ノート)</p>



# ただの路とは言わせない！尾道の小路の魅力を伝えよう

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力 主体性・積極性 尾道市民としてのアイデンティティ

## 1 単元について

○ 本校における総合的な学習の時間の目標及び本単元で育てたい資質・能力は以下の通りである。

郷土を素材とした活動や体験を通して、課題を自ら見出し、仲間と協力して探究活動に取り組む態度を育てるとともに、郷土への愛着を深め、郷土のよさを守ろうとする態度を育てる。本単元では、思考力、判断力、表現力等（課題発見・解決力）、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）の資質・能力を育てる。

### (1) 単元観

本単元においては、地域貢献を図る探究的な学習を行うことを通して、地域の小路に関する問題を取り上げ、児童自ら課題を発見し、解決方法を考えて実行することで、児童の思考力、判断力、表現力等（課題発見・解決力）と、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）を育てることをねらいとしている。

本教材は、日本遺産に登録されている尾道の街並みの中で特徴的な小路を調べる中で、小路はただの路ではなく名前の由来や、歴史を感じる物や役割、小路の中にあるお店などそれぞれに魅力がある路であることに気づき、尾道のよさを広げることができる教材である。しかし、調べる中で特徴的な小路の詳細を地元の市民や尾道を訪れる観光客の認知度は低いことにも気付く。このことで児童の問題意識を高め、問題解決の実行に向けて最善解を創造しようという課題意識を高めるために適した教材である。児童は地域の一員として問題解決に参画することで、尾道市民としてのアイデンティティを高め、自己の生き方を考える際においても適した教材である。また、本単元は国語科の「読む」、「書く」学習との関連も考慮し、目的に合わせた表し方の違いを考えたり、収集した資料を根拠にしながら伝えたいことの内容を中心に考え、まとめる言語活動を行ったりするなど、教科学習における探究的な学習を進めることもねらいとしている。

### (2) 児童観

#### 課題発見・解決学習の実態

質問紙調査※の結果、以下の実態が見られた。

課題設定では、「自分で課題を決めている」と答えた児童は、76%であった。課題設定が苦手な児童の中には、「何を調べていけばいいかわからない。」と答えており、児童自身に問題意識が高まっておらず、解決したいという思いがなかなか持てない。

整理・分析では、これまでの学習で表やグラフにまとめていることもあり、86%の児童が肯定的に答えている。しかし、まとめ・表現をするに当たって、整理・分析の段階で、目的意識や相手意識をもって、調べたことの中から適切な情報は何かを分析することができていない。そのため、まとめ・表現の段階で、調べたことをそのまま活用する児童が多い。

まとめ・表現では、目的意識や相手意識を持ってまとめることに課題があるため、できた物を推敲したり、改善したりすることに課題がある。

振り返りでは、自分に付いた力や学習した自分自身を振り返りながら評価する力が十分とは言えない。

※基礎・基本定着状況調査児童質問紙No13～27

### (3) 指導観

本単元の課題発見・解決学習では、特に以下の点を重点に取り組む。

課題設定では、地域の小路の場所を確認し、名前の由来や年代などを調べるために、まず地域に出るという行動を起こすことで学習材に対する児童の興味・関心を高める。また、学習課題を自ら設定させるため、自分達で地域の人や観光客にインタビューし、問題点を書いたり、グループで交流したりして解決すべき問題を見つけさせていく。

整理・分析では、目的や相手を確認し、小路の魅力を知ってもらい、行ってもらうために、リーフレットに書く適切な情報を実際に見てもらい反応を返してもらうことで、原因を分析し、改善していく必要性を感じさせていく。

まとめ・創造・表現では、単元の終末だけに行うのではなく、試しに一度リーフレットを作成し、目的が達成できるのかを考えさせ、推敲し改善しながら、自分の活動を見直し分かりやすく表現する力を育てていく。

振り返りでは、コンピテンシー表を用いて資質・能力について力が付いたことや今後の目標を自己決定させ、自己評価する力の向上を図る。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 地域の小路には、それぞれ名前の由来、歴史、役割や特徴があることを知る。(知識及び技能)
- 探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら解決方法を考え、目的意識をもって情報収集、整理・分析、自己評価するなど、問題を解決する方法を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- 地域の小路に関する問題の解決方法を考えることを通して、地域の役に立ちたいという思いをもって、主体的、協同的に課題を解決したり、自己の生き方を考えて実践したりしようとする。(意欲・態度)
- 地域の小路に関する問題の解決に向けて解決方法を創造し実行することで、地域の一員としての自覚をもち、尾道の歴史や地域の人々の生き方を大切にす。(価値観・倫理観)

#### 2 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度	
			意欲・態度 (主体性・積極性)	価値観・倫理観 (尾道市民としてのアイデンティティ)
評価規準	地域には様々な由来をもつ小路が多くあり、その小路には歴史があること、小路には役割があることなどを理解している。 地域の小路に関する問題や今後の課題について概要を知っている。	地域の問題に気付いて学習課題を設定している。 様々な資料や聞き取りなどを活用して適切に情報を収集し、収集した情報を目的に応じて整理している。 伝えたいことを中心に考えて表現し、自他の発表を比べながら聞いている。 コンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。	地域の小路に関する学習課題に対して関心をもち、進んで学習計画を立てている。 地域の問題解決のために進んでアイデアを創造し、取り組もうとしている。 他の人の意見も取り入れてリーフレットなどの改善案を考えている。 これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。	地域の小路や歴史を保存したいという地域の人々の願いを大切にしている。 地域の一員として地域の歴史の伝承に貢献することの意義や素晴らしさを感じている。

#### 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元においては、地域の小路に関する問題を題材として取り上げ、地域に住まれている人々とのかかわりを通して地域の小路に関する問題に気づき、解決方法を創造して実行する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習を支援する。これらのことを通して、地域の小路に関する現状と人々の願いについての理解(知識)を深め、情報収集や整理・分析、振り返りなどを繰り返しながら探究活動に慣れることで課題発見・解決力(思考力、判断力、表現力等)を育成する。また、地域のために役に立ちたいという思いを抱かせることで主体的に学習に取り組む態度(課題解決への主体性・積極性や尾道市民としてのアイデンティティ)を育成する。

#### 4 指導計画 (全34時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)	教科の課題 発見・解決学習
一	<b>課題の設定</b>  日本遺産のポスターを見て、気付いたことを話し合い、小路について知っていることを出し合う。(1)	このポスターの場所を知っているよ。日本遺産のポスターになるくらい小路は有名なんだな。小路ってどのくらいあるのだろう。	クラスでの話し合いを通して、小路の場所や数について興味をもっている。【主体性・積極性】(ワークシート)	
	尾道の小路はどこにどのくらいあるのだろう。			
	<b>情報の収集</b>  尾道の小路の場所や名称について商店街を歩いて確かめる。(2)	尾道には、自分が知らなかった小路がたくさんあるな。それぞれに違う名前がついているな。お地藏さんや井戸がある小路もあるぞ。	小路を歩いてみて発見したことや疑問に思うことを積極的に見つけている。【主体性・積極性】(ワークシート)	
<b>整理・分析</b>  調べて分かったことを地図上に整理したり、交流したりする。(1)	お地藏さんや井戸がある小路もあるぞ。小路によって長さが違う。	調べて分かったことや気付いたことを交流している。【主体性・積極性】(ワークシート)		

<p><b>課題の設定</b></p> <p>尾道に小路が多い理由や名前の由来などについて疑問をもち、学習課題を設定する。(1)</p>	<p>どうして尾道には小路がたくさんあるのかな。それぞれの小路に名前がついているのは何か理由があるのかな。</p>	<p>小路に関する疑問を考え、学習課題を設定している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	
<p>・小路の名前にはどんな由来があるのだろうか。(由来)</p> <p>・小路はいつできたのだろうか。(歴史)</p> <p>・どうしてたくさんの小路があるのだろうか。(役割)</p> <p>・それぞれの小路にどんな特徴があるだろうか。(豆知識)</p>			
<p>情報収集するための方法を話し合う。(1)</p>	<p>インターネットや本で調べるといいと思う。過去の4年生が調べた資料を使おう。地域の人にインタビューするとわかるかな。</p>	<p>調査をするために、分担や方法などを考えている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	
<p><b>情報の収集</b></p> <p>インターネットや本などの資料を使ったり、地域の方々にインタビューしたりして情報を収集する。尾道の歴史や小路に詳しい方から話を聞いたり質問したりする。(8)</p>	<p>名前が付いている小路はやはり理由があったんだな。お寺や神社への参道としてできた小路もあるんだな。おもしろい民話もある。</p> <p>すごい！豊臣秀吉も小路を通っているんだ！研師がいたから研屋小路という名前が付いているんだ。お寺や神社に行くために小路ができたんだな。</p> <p>でも、地域の人に聞いてみたけど、小路のことを詳しく知らない人が多いぞ。観光客は小路自体知らない人もいたぞ。</p>	<p>課題を解決するために、必要なことを適切にメモを取っている。【知識及び技能】(ワークシート)</p> <p>収集した情報を模造紙に整理している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p> <p>整理したことから小路に関する地域の問題を考えている。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「メモの取り方をくふうして聞こう」(4)で話の内容を確かめながらメモする力を育てる。</p>
<p><b>整理・分析</b></p> <p>情報を収集して分かったことを整理する。(2)</p>	<p>すごい！豊臣秀吉も小路を通っているんだ！研師がいたから研屋小路という名前が付いているんだ。お寺や神社に行くために小路ができたんだな。</p> <p>でも、地域の人に聞いてみたけど、小路のことを詳しく知らない人が多いぞ。観光客は小路自体知らない人もいたぞ。</p>	<p>整理したことから小路に関する地域の問題を考えている。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「お願いやお礼の手紙を書こう」(4)で目的に合わせて手紙を書く力を育てる。</p>
<p><b>課題の設定</b></p> <p>地域の人や観光客の小路の認知度の実態から新たな課題を立てる。(1)</p>	<p>尾道の街の特徴である小路をたくさんの人にもっと知ってほしいな。このことを地域の人や観光客に広めたい。</p>	<p>地域の問題から、これからの学習計画を立てることが出来る。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	
<p>地元の人や観光客はあまり小路のことを知らない。地元の人や観光客に小路はただの路じゃなくて、魅力があることをもっと知ってほしい。小路に行ってもらいたい。</p> <p>リーフレットにまとめよう。</p>			
<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>グループで試しに1つ小路を選んで、実際にリーフレットを作り、地元の人に配ったりお店に置かせてもらったりする。(5)</p>	<p>これまで調べて分かったことを中心にまとめるといいな。1学期にリーフレットを作ったから書きやすいね。</p>	<p>調べたことの中から、伝えたいことを考えて、分かりやすく表現している。【思考力・判断力・表現力等】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「広告と説明書を読みくらべよう」(8)</p>
<p><b>課題の設定</b></p> <p>自分達で作ったリーフレットに対して地元の人や観光客の反応を知り、課題を考える。(1)</p>	<p>あれ？小路のことはよく分かったという意見が多いけれど、行ってみたいとはあまり思っていない。どうして？</p>	<p>調査の結果から、新たな学習課題を設定している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	<p>で文章を読み比べ、目的に合わせた表現の違いを読み取る力を育てる。</p>

小路のことは分かってもらえたけど、行ってみたいと思ってももらえていない。  
どうすれば行ってみたいと思ってもらえるんだろう。

**整理・分析**

小路に行ってみたいと思ってももらえなかった原因を分析し、解決策を考える。(1)  
本時(24/34)

**情報の収集**

課題を解決するために、もう一度小路を調査しよう。(2)

**まとめ・表現**

リーフレットを書く。(4)

**実行**

役割を決め、挨拶の練習をする。(1)

リーフレットのお願  
いに行く。(2)

**ふりかえり**

単元で身に付いた力と学び方を振り返り、自分の生き方を考える。(1)

小路に行くに役に立つ情報やその小路にあるきれいな景色やすごい物やおいしいお店の情報を伝えると行ってみたいと思ってもらえるな。

小路に行ってみたいと思  
ってもらえるために、みんな  
でこの小路の魅力をもう一  
回調査するぞ。

よく分かってもらえたところはそのままで、行ってみたいと思ってもらえることを工夫して書こう。

1学期にお願いに行ったことを思い出して練習しよう。言葉遣いや挨拶には気を付けよう。

小路の学習をして、名前の由来や小路がある理由など初めて知ったことばかりだった。小路は尾道が暮らしやすくなるために作られたり、古い歴史があったり。あまり小路については知られていないことがわかったので、これからは僕たちが小路のことを伝えていきたい。

目的意識や相手意識をもって、リーフレットの内容の改善策を考えている。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)

課題を解決するために、目的意識や相手意識をもって調査することができる。【主体性・積極性】(ワークシート)

伝えたいことを中心に考えて、分かりやすく表現している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)

友だちの意見を取り入れリーフレットを作成している。【主体性・積極性】(ワークシート)

尾道市民として、学習を通して、これからの自分の生き方や生活に生かしたいことを考えている。【尾道市民としてのアイデンティティ】(ワークシート)

三



## 5 本時の展開 (24/34)

### (1) 本時の目標

目的意識や相手意識をもって、リーフレットの内容の改善策を考えることができる。

### (2) 観点別評価規準

目的を達成するために、原因を分析して、改善策を考えている。

【思・判・表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 これまでの学習を想起する。	○ 前時までの学習を振り返らせる。(試しにリーフレットを作ってみたがリーフレットを見て、小路に行ってみたいと思ってもらえていない) ○ アンケート結果を集計したものを提示し、全体で行ってみたいと思わなかった数を表にして実感させる。 ○ 本時で何を学ぶのか全体で確認する。	このままでは、地元の人や観光客に小路に行ってみようと思ってもらえない。どうすればいいのかを話し合えばいい。
2 めあてを設定する。	小路に行ってみたいと思わない原因を話し合い、解決策を考えよう。	まずは、グループでアンケートの結果を見てみる。
3 見通しをもつ。	◆ 本時でどんな力を付けたいかコンピテンシー表を見て確認させる。 ○ どのように学習を進めていくのか、学習方法を児童と考える。	場所があまり分からなかったから、行ってみたいと思ってもらえてないな。
4 グループで考える。	○ 地元の人や観光客から集めたアンケートを基に、行ってみたいと思わなかった原因をホワイトボードに書き出す。 ○ 地元の人と観光客の意見を分けて整理させる。	地元の方は小路に何か役に立つ物、観光客には、その小路にあるすごい物やおいしいお店の情報があると思ってもらえると思うな。
5 全体で交流する。	○ 各グループの小路に行ってみたいと思わなかった原因を交流し、共通点や相違点を発表させる。	目的を達成するために、原因を分析して、改善策を考えている。 【思・判・表】
6 個人やグループで考える。	○ 挙げた原因の中から、すぐに解決できそうなものとすぐには解決できそうにはないものに分けて、どうすれば解決できるのか個人やグループで考えさせる。	今すぐには解決できない問題もあるな。もう一度、小路に行つて調査が必要だ。
7 まとめる。	○ 課題を解決するために、これからどんな学習をしなければならないか個人やグループでめあてを持たせる。 ○ これからの学習について発表させる。 小路に行つてもらふために、書き直したり付け加えたりして、もう一度リーフレットを作り直す。もう一度小路に調査に行く。	今日は、実際に地元の人や観光客が書いた物を見て、小路に行つてもらふためには、もっと相手のことを知つて相手が行つてみたいと思う小路の情報をリーフレットに書く必要があると思つました。
8 振り返る。	○ 話し合ったことを基に、自分たちのグループが行う表現方法を定める。 ○ 今日の授業でどんな力が付いたか、考えの変容などをコンピテンシー表に書かせる。	

# 「伝えよう、6年生の学校生活」 ～すてきな6年生になるために～

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

## 1 児童観

本学級は、6年女子1名の知的障害特別支援学級である。

### 資質・能力に関する実態

本児童は、知的障害特別支援学級在籍6年目の児童である。一人の学級であるということもあり、コミュニケーション能力に課題があり、語彙数も少ないため、正確に内容を理解したり表現したりすることは難しい。作文など文章で表現する際、読み手を意識して順序に気を付けながら文を書いたり、伝えたい思いを表現したりすることが苦手である。また、知識が定着するのにも時間がかかり、どの学習においても反復学習が必要不可欠である。自力で考えることは難しいが、複数のものの中から、正しいものを考えて選択することは可能である。しかし、選択肢が多岐にわたったり、微妙な違いを捉えて選択を迫られたりすると思考が停止してしまうことがある。加えて、選択した理由を答えたり、根拠付けながら説明したりする力が不十分で、教科書に書かれている記述をそのまま自分の考えとして結び付けてしまうことが多い。事実を感想と区別が付きにくいいため、自分の意見を自信をもって伝えることが困難である。

人から頼りにされたり、人の喜ぶ顔を見たりすることで、学習意欲が高まることが多い。そこで、楽しい学習にすることや日常生活と結び付けることで、定着を早めたり、確実に知識や技能を習得したりすることが必要である。

## 2 単元について

### (1) 単元観

本単元は、6年生で経験した行事や活動を報告するリーフレット作りを通して、事実と感想、意見などの記述の仕方を工夫して書く力を身に付けていくことのできる単元である。また、目的や相手の知りたいことを予想しながら書くことを選び、読み手にとって有益な情報とは何かを考える力も育成される。そこで、本単元の学習では、6年生になってから経験した行事の中で、さくら学級に在籍している5年生に、来年度に向けてアドバイスをするという目的意識をもって、リーフレットを作る活動を行う。相手の知りたい情報は何か予測しながら、必要なことを書くだけでなく、その文章に合った写真を選択してリーフレットを作成していく。常に相手のことを考え、自分本位のリーフレットにならないように留意することも指導できる単元である。

「新聞記事を読み比べよう」の学習では、写真を用いることで、伝えたいことが的確に伝わることから資料を用いることの有用性についても学習している。また、相手のことを考えながら学習することで、人と関わりをもったり自分の役割を認識したりすることが可能になる。これらのことから、本単元は、これまでの経験と既習を生かしながら展開することが可能な単元である。

### (2) 指導観

第一次では、さくら学級の5年生に伝えるという相手意識をもたせるために、アンケートを行い、学習の意欲付けを行う。また、学習のまとめで行うリーフレット作りに向けて、いろいろなリーフレットを集めて、リーフレットに触れる時間を設定する。

第二次では、さくら学級在籍の5年生から、お願いの手紙をもらい、6年生になって経験した行事について想起させる。5年生の児童が知りたいことや自分が伝えたいことを考え、紹介する行事を選択し決定する。その際、ただ楽しかったからという理由だけでなく、相手のことを考えながら選択できるように指導を行う。そのために、ひとつの行事につき楽しかったこととアドバイスを必ず書くようにパターン化しておくことが必要である。

第三次では、作成したリーフレットを紹介する活動を設けることで、達成感をもたせたり、自信をつけさせたりしていきたい。

### (3) 単元の目標（めざす児童の姿）

- 経験したことから書くことを見付け、伝えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
- 目的や相手を意識して、必要な事柄を集め、伝えたい内容を明確にしている。 (思考力、判断力、表現力等)

## 3 単元の評価規準

- これまでに経験した事柄を整理し、書くことを見付け、伝えることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)
- 読み手を意識しながら必要な情報を予測し、意欲的に文章に表現することができる。 (思考力、判断力、表現力等)

#### 4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では、常に読み手を意識しながら、リーフレットを作成する。そのため、自分の伝えたいことばかりを自分本位に書いてはいけないことを学び、相手にとって分かりやすいリーフレットを作成するという目標を設定する。毎時間の振り返りでも、相手を意識できているかを確認させ、書く内容や正しい文章かどうか判断し、推敲する時間を設けたい。これらの活動を通して、相手が何を知りたいか考えるなどの思考力・表現力（スキル）を育成することができると思う。

#### 5 指導計画（全15時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（評価方法）
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>学習の見通しを立てる。 6年生の行事を伝えるリーフレットを作るという活動の目標を知り、リーフレット作りに必要なことをとらえる。 さくら学級の5年生に6年生の行事で楽しみにしていることについてインタビューを行う。（1）</p>	<p>6年生で楽しかった思い出がたくさんあるな。 頑張ってきたことは、どんなことがあるかな。</p>	<p>これからの学習に向けて意欲的に取り組もうとしている。 【態度】（行動観察）</p>
<p>【本質的な問い】相手にとって分かりやすく伝えるためには、どのように書けば良いだろう。</p>			
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>6年生の行事を振り返り、リーフレットにまとめる内容を決める。 選択した行事について具体的にどのようなことを書くか考える。 文章に適している写真を選ぶ。 （本時2／15）（6）</p> <p>メモをもとに下書きを行い、内容の推敲を行う。 リーフレットのレイアウトを考える。（3）</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>完成した下書きのリーフレットを見ながら、文章を推敲し、よりよいリーフレットになるように再構成する。 リーフレットの清書をする。（4）</p>	<p>楽しかったことについてたくさん伝えたいな。 自分が楽しかった出来事ばかりを書くだけではなく、相手が知りたいことを考えよう。 書く内容は、思い出や感想ばかりではなく、注意することやポイントを書く方が良いな。 ここに使う写真はどのようなものがあるとわかりやすいのかな。</p> <p>この情報や写真はどこに使うと効果的かな。 内容の順序や写真の大きさ、資料の配置を考えよう。</p> <p>それぞれの行事にポイントは書いているかな。 内容に合う写真を選択できているのかな。 よりよいリーフレットにするためには、どこを替えたらいいか。</p>	<p>目的を理解した上で、相手を意識して、自分の考えや思いをしっかりと文章と写真を用いて表現している。 【思・判・表】（リーフレット）</p> <p>目的を理解し、自分の書いた文章や選択した写真が相手にとって分かりやすいものになっているのか内容を推敲している。 【思・判・表】（リーフレット、行動観察）</p> <p>リーフレットのレイアウトを考えたり、感想・アドバイスをそれぞれ分けて書くことができているか確認したりしている。 【思・判・表】（リーフレット）</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>振り返り</b></p> <p>自分の作成したリーフレットをさくら学級の児童に紹介する。（1）</p>	<p>どのように発表すると分かりやすく伝わるかな。 すてきな6年生になれるようにしてあげたいな。</p>	<p>自分の活動を振り返り、作成したリーフレットを堂々と発表している。 【態度】（行動観察）</p>

## 6 本時の展開 (2/15)

### (1) 本時の目標

相手意識をもち、自分が選択した行事の説明だけでなく、6年生の行事を経験する際に気を付けるポイントやアドバイスを考えることができる。

### (2) 観点別評価規準

目的や相手を意識して、相手の知りたい情報を予測しながら、アドバイスを示すなど、自分の考えをしっかりと表現している。

【思・判・

表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 学習課題を確認し、見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ さくら学級の5年生からのお願いの手紙を読み、経験した行事について伝える目的をもてるようにする。</li> <li>◆ さくら学級の5年生に向けて書くことを伝え、6年生ならではの行事を選択できるように、相手意識をもたせる。</li> <li>◆ 経験した行事を振り返り、どの行事について紹介するかを決めやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生になってからいろいろな行事を経験したな。</li> <li>運動会は5年生も一緒に経験したから、経験していないことについて書いてあげたほうがいいな。</li> </ul>
<p>友達の知りたいと思っていることを考え、紹介する内容を決めよう。</p>		
2 リーフレットに載せる記事を決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ お願いの手紙をもとに、これまで経験した行事の中から、伝えたい行事を決定する。</li> <li>◆ 行事を想起する際の手がかりとして、写真を提示し、具体的に思い出すことができるようにする。</li> <li>◆ 自分の伝えたい思いだけで選択しないように、めあてを常に意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一番初めの6年生ならではの行事は入学式だったな。</li> <li>先生の文章だと、どんなことを伝えたいのかははっきりしないな。</li> </ul>
3 リーフレットに書く内容を決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思い出に残っていることや自分の感想ばかりでなく、気を付けておかなければならないところやポイントを書くことができるように、入学式当日の流れを劇で確認する。</li> <li>◆ 劇を取り入れることで、経験したことを思い出せるようにする。</li> <li>◆ 劇の際に、自分が困ったことを思い出し、5年生に向けて、的確なアドバイスを考えられるようにする。</li> <li>○ 紹介する行事についての説明や頑張ったことなどを考えることで、リーフレットに書く内容の見通しをもたせる。</li> <li>◆ 行事について漠然と考えるのは難しいので、頑張ったことや大変だったことなどの項目別に話をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「入学式は楽しかったです。」を書きたいな。</li> <li>為になるアドバイスをしてあげたいな。</li> <li>入学式で気を付けることについて知りたいと思うな。</li> </ul>
4 まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれどのようなことについて書くのか見通しをもたせるために、行事についての説明やアドバイスを付箋に書いてまとめる。</li> <li>◆ リーフレットにするときに混乱しないように、短文でまとめながら、付箋に書いてけるように指示する。</li> <li>◆ 説明、アドバイス、自分のがんばりなど内容別に分けて付箋を貼ることで、視覚的に分類できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や相手を意識して、相手の知りたい情報を予測しながら、アドバイスを示すなど、自分の考えをしっかりと表現している。 【思・判・表】(リーフレット)</li> <li>入学式で気を付けることは、名札をつけてあげるところかな。</li> </ul>
5 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習について振り返りを行い、次時に向けての意欲を高める。</li> <li>◆ 良かった点と反省点を振り返らせ、自分の学びに生かし、意欲を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生を笑顔にする為には、絵本を読んであげたりもしたな。</li> </ul>
<p>入学式を紹介します。6年生の仕事も多く、これまでに経験したことがない行事だからです。アドバイスは、緊張している1年生に笑顔で接してあげるところです。</p>		

# 「どんな模様ができるかな！」

## ～秋と遊ぼう～

本題材で育成する資質・能力

コミュニケーション

### 1 児童観

本学級は、1年男子1名、4年男子1名、5年女子1名の計3名の自閉症・情緒障害特別支援学級である。

#### 資質・能力に関する実態

本学級の児童は、これまで、たんぼ学級やすみれ学級と栽培活動や行事を中心に季節を感じたり、協力し合ったり、喜びを共感し合ったりする協働体験を行っている。また、交流学級での活動や学校生活を送る中で人と関わることを学んできている。

コミュニケーションについては、相手から挨拶をされると挨拶を返したり、二者選択の質問や簡単な応答をしたりすることはできる。しかし、いずれも指導者からのアプローチに対する反応であり、児童同士のコミュニケーションは取りにくい。また、自発的に自分の思いや考えを伝えたり、自分が困ったときに助けを求めたりすることは苦手である。

個々の児童の様子は次の通りである。

A児 (1年)	本学級では、大きな声で挨拶をすることができるようになり、登校時には、児童会役員に自分から挨拶をすることもできるようになってきた。しかし、自信がなかったり、分からなかったりすると間違えたくないという思いから、小さい声になったり、寡黙になったりすることがある。少しずつ同学年と遊ぶようになってきたが、自分から友達を誘うことは少ない。
B児 (4年)	自分が興味・関心をもっている事柄は、喜んで話したり、尋ねたりすることができるが、一方的な話になりやすい。一人遊びが好きで単独行動することに不安感をもっていない。他者への関心が乏しく自分の思いを話すことは苦手なため、困ったことがあっても自分から尋ねることは少なく、同学年とのコミュニケーションが取りにくい。
C児 (5年)	交流関係は狭く、慣れた人とは、表情豊かに思いを伝えることができるが、大勢の中では、緊張と不安を感じやすいため、信頼できる友達や教師がそばにいないと新しい活動に踏み出しにくい。得意とすることは、積極的に取り組めるが、苦手とすることや自分にはできないと感じたことには、なかなか取り組むことができない。

### 2 題材について

- 次期特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の次の項目を受け、児童の実態をふまえて設定している。

#### 2. 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関すること (C児)

#### 3. 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (A児・B児・C児)

#### 6. コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (A児)

- (2) 言語の受容と表出に関すること (B児)

### (1) 題材観

本学級では、異学年で学習を進めている特性上、教科学習において互いに交流することは少ない。そのため、モジュールの音読を全員で行ったり、下級生が上級生に学習の成果を発表する機会を設定したりしている。また、自立活動においてソーシャルスキルトレーニングを行ったり、栽培活動を行ったりしながら、個々の実態に応じて適切な言動やコミュニケーションの方法を学習してきた。

本題材は、お家の人やお世話になっている先生方へのクリスマスプレゼントとしてしおりを製作する。この、しおり制作を通して、自分一人だけでなく、他の人と関わって楽しかった、みんなでやって楽しかった思いを共有することをねらいとしている。また、協働で作業するためにどうすればよいかを考えて、順番を守ったり、譲り合ったりするなどの場を設定し、困ったときには助けを求めたり、手伝ってもらったらお礼を言える力を身に付けることをねらいとしている。

### (2) 指導観

本学級の児童は、他者への関心が乏しい傾向にあることから、まず、友達と協力する必然性をもたせる。しおりは、マッピング模様を施すこととし、一人ではきれいに仕上がりにくいサイズの用紙を準備する。しおり制作を通して、マナーやルールを守り、友達と協力して作品を完成させる喜びを体験させたい。次に、クリスマスプレゼントとして、しおりを製作し、お家の人やお世話になっている先生方に渡すことへの満足感や達成感をもたせたい。本学級の児童は、これまで、運動会の招待状や父の日のカードなどを製作することに意欲的で、お家の人が喜んでくれることを想像して渡す日を待ちわびていた。このことから、クリスマスプレゼントの製作には、意欲的に参加することが予想される。その上で、活動の中でコミュニケーションの資質・能力の向上を図る。

### (3) 題材でめざす児童の姿

A児 (1年)	友達に手伝ってもらいながら、しおりを作ることができる。
B児 (4年)	友達と協力し、しおりを作ることができる。
C児 (5年)	自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして、しおりを作ることができる。

### 3 題材の評価規準

A児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"><li>相手の話を受け入れ、一緒に活動することができる。</li><li>しおりの作り方をよく聞き、見通しをもつことができる。</li></ul>
B児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"><li>相手に手伝って欲しいことを伝え、一緒に活動することができる。</li><li>しおりの作り方を理解することができる。</li></ul>
C児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"><li>自分の思いを相手に伝え、一緒に活動することができる。</li><li>しおりの作り方を理解し、不安なところについて質問することができる。</li></ul>

### 4 本題材において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本題材では、しおり制作を通して、自分一人だけでなく、他の人と協力して作品を仕上げることは面白かった、みんなでやって楽しかった思いを共有し、活動の中でコミュニケーションの力を養うことにより、相手と関わる際の具体的な方法を身に付けていくことができると考える。

5 指導計画（全2時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一 マール模様を作ろう	<p><b>課題の設定</b></p> <p>お家の人やお世話になっている先生方にクリスマスプレゼントとして、しおりを作るという見通しをもつ。</p>	<p>しおりってどんなものなのかな。 しおりがあると本を読むとき便利だな。 誰にプレゼントしようかな。</p>	
	<p><b>情報の収集</b></p> <p>模様の作り方の説明を聞き、製作する。(1) (本時)</p>	<p>【本質的な問い】 どうすれば、みんなでしおりを完成させることができるのだろうか。</p> <p>どうやって作るんだろう。 きれいな模様ができるな。 何色を使おうかな。</p> <p>紙を誰かに持ってもらわないとできないな。 誰から作っていいかな。 絵の具は、みんなで使わないといけな。</p> <p>一人一人違う模様ができたな。 できあがったものを見せ合おう。 みんなで協力して片付けよう。</p>	<p>A児 相手の話しを受け入れ、一緒に模様作りをすることができる。 【人間関係の形成3- (1)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 相手に手伝って欲しいことを伝え、協力して模様作りをすることができる。 【人間関係の形成3- (1)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>C児 自分の思いを相手に伝えたり、下級生の手助けをしたりしながら、模様作りをすることができる。 【人間関係の形成3- (1)】 (行動観察・ワークシート)</p>
二 しおりを作ろう	<p><b>整理・分析</b></p> <p>しおりを完成させる。</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>お家の人やお世話になっている先生方にプレゼントするしおりが完成した感想を発表する。</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>自分の目標が達成できたか振り返る。(1)</p>	<p>どんな形に切ろうかな。 メッセージを書こうかな。 紅葉の葉をのせてみよう。</p> <p>ラミネートの仕方をよく見ておこう。 どの色のリボンがいいかな。 きれいに仕上げよう。</p> <p>やったあ。できたぞ。早く渡したいな。 なかなかいいのができたと思うな。 どれをどの人に渡すか悩むな。</p> <p>友達に手伝ってもらって、しおりを作ることができたぞ。 友達と協力しながら、しおりを作ることができたぞ。 友達を手伝ったり、手伝って欲しいことを相手に伝えたりして、しおりを作ることができた。</p>	<p>A児 しおりの作り方をよく聞き、見通しをもつことができる。 【コミュニケーション6- (1)】 (行動観察)</p> <p>B児 しおりの作り方を理解することができる。 【コミュニケーション6- (2)】 (行動観察)</p> <p>C児 しおりの作り方を理解し、不安なところについて質問することができる。 【心理的な安定2- (1)】 (行動観察)</p>

6 本時の展開 (1/2)

(1) 本時の目標

- A児…友達と一緒に仲良く紙に模様を付けることができる。
- B児…友達に手伝って欲しいことを伝え、紙に模様を付けることができる。
- C児…自分の考えを友達に伝えたり、声をかけたりしながら紙に模様を付けることができる。

(2) 観点別評価規準

- A児…友達と一緒に仲良く紙に模様を付けている。 【人間関係の形成3- (1)】
- B児…友達に手伝って欲しいことを伝え、紙に模様を付けている。 【人間関係の形成3- (1)】
- C児…自分の考えを友達に伝えたり、声をかけたりしながら紙に模様を付けている。 【人間関係の形成3- (1)】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆) 予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
<p>1 ウォーミングアップゲームを行う。 ・フライングペーパー</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>○ 「息を合わせる」がポイントであることを伝える。</p> <p>誰にプレゼントしようかな。 しおりは、本を読むとき、便利だな。 きれいなしおりを作りたいな。</p> <p>○学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。 ◆タイムスケジュールを示し、見通しをもたせる。</p>	
紙に模様をつけよう。		
<p>3 自分のめあてを確認する。</p>	<p style="text-align: center;">A児                      B児                      C児</p> <p>① 友達と一緒に仲良く紙に模様を付ける。 ② 友達に手伝って欲しいことを伝え、紙に模様を付ける。 ③ 自分の考えを友達に伝えたり、声をかけたりしながら紙に模様を付ける。</p>	<p>A児 ○相手の話しを受け入れ、模様作りをすることができる。</p>
<p>4 模様作りの説明を聞く。</p>	<p>○見本を提示した後、模様の付け方を説明する。 ◆手順を写真で掲示し、視覚的支援とする。 ○デモンストレーションを行い、取り組む活動についてしっかりイメージをもてるようにする。 ◆二人一組でマーブル模様を写し取る様子を見せる。</p> <p>おもしろい模様だな。 どうやって作るんだろう。</p>	<p>【人間関係の形成3- (1)】 (行動観察・ワークシート)</p>
<p>5 模様を作る。①</p>	<p>○手順に従って模様を紙に写し取らせる。 ◆小さい巻紙を用意し、二人一組で行う必然性をもたせる。</p> <p>○○くん。紙の端を持って、ゆっくり下ろしてね。 △△くん。ありがとう。</p>	<p>B児 ○相手に手伝って欲しいことを伝え、協力して模様作りをすることができる。</p>
<p>6 模様を作る。②</p>	<p>○マーブル模様の紙を提示し、作り方を相談させた後、挑戦させる。 ◆相談コーナーを作り、話し合いをしやすいとする。 ◆みんなで考えたやり方で挑戦させる。</p>	<p>【人間関係の形成3- (1)】 (行動観察・ワークシート)</p>
<p>7 まとめと振り返りをする。</p>	<p>○自分の目標が達成できたか振り返る。 ◆ワークシートで自己評価し、発表させる。 ◆指導者による評価に加え、児童同士の相互評価も尋ね、がんばった点を認め合い満足感をもたせる。</p> <p>◆次回の予定を伝え、次の活動への意欲をもたせる。</p> <p>・みんなと楽しくマーブリングをすることができました。 ・手伝ってもらって、おもしろい模様ができました。 ・みんなで協力し合って、きれいな模様ができました。しおりにするのが、楽しみです。</p>	<p>C児 ○自分の思いを相手に伝えたり、下級生の手助けをしたりしながら、模様作りをすることができる。</p> <p>【人間関係の形成3- (1)】 (行動観察・ワークシート)</p>





# 「お楽しみ会をしよう」 ～協力してお楽しみ会を成功させよう～

本題材で育成する資質・能力

表現力 人間関係の形成

## 1 児童観

本学級は、2年女子1名、4年女子1名の計2名の聴覚障害特別支援学級である。

### 資質・能力に関する実態

本学級は、学年が違うこともあり、児童同士で関わり合うことは少ない。同じ学級で学習するために、お互いのことに関心を持ち、理解し、尊重しあう関係を形成してほしいと願っている。そこで「聴く・話す」などのソーシャルスキルトレーニングを通して、友達の考えを受容したり、共感したりする学習を進めてきた。児童は、自分の気持ちを相手に伝えたり、相手の話に耳を傾けたりすることはできるようになってきた。しかし相手の意見に対して、聞き返したり反論したり付け加えたりするなどの話し合い活動については課題がある。

個々の児童の様子は次の通りである。

	児童の様子	平均聴力レベル
A児 (2年)	集団の中では、受け身になりやすい傾向にあるが、指名された時には、発表できるようになってきている。わからないことや疑問に思ったことに対しては、質問したり、確認したりすることもできるようになってきた。しかし、積極的に自分の考えを発表したり、友達の考えを想像したりすることが苦手である。	右 70.0 dB 22.5 dB (補聴器) 左 68.7 dB 23.7 dB (補聴器)
B児 (4年)	自分が興味・関心のあることに対しては、主体的に活動することができる。しかし、苦手な課題に向き合うことに時間がかかる。人と話をすることは好きだが、脈絡のないことを一方的に話したり、相手を意識した話にはならなかったりする場合が多い。集団において、まわりをよく見て行動しているが、小集団で自分の考えを一方的に押しつける様子が見られる。	右 101 dB 22.5 dB (補聴器) 左 112 dB 23.8 dB (人工内耳)

## 2 題材について

- 次期特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の次の項目を受け、児童の実態をふまえて設定している。

### 3. 人間関係の形成

- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (B児)

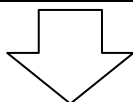
### 6. コミュニケーション

- (3) 言語の形成と活用に関すること (A児)

- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること (A児) (B児)

### (1) 題材観

A 児は、活動内容に主体的に関わろうとすること、そして、B 児は相手の気持ちを推し量り行動することに課題があると考え。そこで、本題材では「お楽しみ会をする」という共通の目標に向かって学習を進めていく。互いに自分の意見を伝え合い、お楽しみ会の成功をイメージしながら協力して活動することをねらいとしている。協力し、一つの計画を実現する手立てとして、アンケートを実施する。アンケートをすることで友達の考えを汲み取り、気持ちを想像して話し合いを進めるようにする。また、二人が協力して計画をしていくことで、主体性や相手意識や言語運用能力の向上を目指している。



### (2) 指導観

本学級の児童は、交流学級での話し合いにおいて特に受け身になりやすい。言語力に課題があるため、自分の考えをもつ前に学習活動が進んでいっている。聴覚障害のある児童の場合、会話による補充が十分できないため目の前の状況だけで判断しがちである。そのため、そこに至るまでの状況の推移についても振り返りながら順序立てて考えるなど、出来事の流れに基づいて、総合的に判断する経験が必要であるとされている。これまでの自立活動では「聴き方・話し方」を学習してきた。自分が思ったことを理由を付けて話をすることや、相手の思いを聞いて考えを理解したり、わからない時には確認をしたりすることを練習してきた。本題材において、二人で計画していく段階で話し合いが煮詰まることも想定している。話し合いが円滑に進まないときには活動を止めて、視覚支援を行いながら話し合いの流れを整理したり問題点を確認したり、必要に応じて選択肢を与えるなどの支援を行うようにする。目標に向かって取り組んでいくことに満足感や達成感をもたせることによって、コミュニケーション能力や対人関係を円滑にする力の向上を図っていききたい。

### (3) 題材でめざす児童の姿

A児 (2年)	場や相手の状況に応じて、アンケートの内容を読み取り、比較して考え、友達の意見をまとめるなど主体的に話し合いを展開することができる。
B児 (4年)	自分の意見を示しながら、友達の意見を聞き返したり、理由を聞いたり、付け加えたり話をするなどその場に応じて適切な行動をとることができる。

## 3 題材の評価規準

A児 (2年)	<ul style="list-style-type: none"><li>アンケートの内容から友達の考えを汲み取り、気持ちを想像して伝えることができる。</li><li>分からないときに聞き返したり、質問したりすることができる。</li><li>内容を確認しながら話をまとめて、話し合いを進めていくことができる。</li></ul>
B児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"><li>相手の話の内容を理解しながら最後まで聞くことができる。</li><li>話を聞いて分からない時には聞き返し、理由を聞くことができる。</li><li>友達の意見を聞きながら、自分の意見を付け加えて話することができる。</li></ul>

## 4 本題材において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本題材では、お楽しみ会に招く側の立場となり、招待される側からの情報を整理・分析していく活動を通して、二人で協力して計画を実現する過程においてコミュニケーション能力を深め、表現力の向上と人間関係の形成を図るものとする。

5 指導計画 (全8時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一 お楽しみ会について考えよう	<p><b>課題の設定</b></p> <p>すみれ学級にさくら学級とたんぼぼ学級の友達を招いて、お楽しみ会を計画する。(1)</p>	<p>いつしようかな。 どんなふうに進めたらいいかな。</p> <p>たんぼぼ学級のお姉さんにしてもらった紙芝居のように何か私たちもやってみよう。</p> <p>さくら学級やたんぼぼ学級の友達にも何か出しものをしてもらえないかな。</p>	<p>A児…やりたいと思うことを適切な言葉で伝えることができる。 【コミュニケーション6-(5)】 (行動観察)</p> <p>B児…先生や友達の話最後まで聞いて理解することができる。 【人間形成3-(2)】 (行動観察)</p>
<p><b>【本質的な問い】</b> お楽しみ会を成功させるためにはどうすればいいのだろう。</p>			
二 アンケートをしてみよう	<p><b>情報の収集</b></p> <p>アンケートをする。(1)</p> <p>さくら学級とたんぼぼ学級にアンケートを作って、お楽しみ会でどんなことがしたいかを他のクラスからの情報収集する。</p>	<p>お楽しみ会をしたいということを伝えないといけないね。</p> <p>アンケートをして、さくら学級とたんぼぼ学級の友達の考えを聞いてみよう。</p> <p>何か発表してもらおうことはできないかな。</p>	<p>A児…場や相手の状況を考えて話することができる。 【コミュニケーション6-(5)】 (行動観察)</p> <p>B児…場や相手の状況を考えて話することができる。 【コミュニケーション6-(5)】 (行動観察)</p>
三 計画を立てよう	<p><b>整理・分析</b></p> <p>アンケートをもとに友達の考えを知り、お楽しみ会のプログラムにできるかどうかを考える。(1) (本時3/8)</p> <p>お楽しみ会のプログラムを完成する。(2)</p>	<p>アンケートをしたことで、たんぼぼ学級とさくら学級の考えを知ることができた。</p> <p>意見をまとめてみよう。</p> <p>どんなプログラムにしていくと楽しいかな。</p> <p>みんなでできるゲームをすると楽しいかもしれないね。</p> <p>どんな順番にしたら盛り上がるかな。</p>	<p>A児…場や相手の状況を考えて話することができる。 【コミュニケーション6-(5)】 (行動観察)</p> <p>B児…話を最後まで聞いて、それに対して質問や確認することができる。 【人間関係の形成3-(2)】 (行動観察)</p>
四 お楽しみ会をしよう	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>役割分担を決めてお楽しみ会に向けて準備する。(1)</p> <p>お楽しみ会をする。(1)</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>自分たちの計画について振り返る。(1)</p>	<p>どんな役割があるかな。 役割分担をしよう。</p> <p>司会進行がわかりやすいように、大きなプログラムを書こう。 説明がわかるように、大きな声ではっきりと発表しよう。</p> <p>みんなで楽しい時間をもつことができるかな。</p> <p>私たちが計画したプログラムで・・・がよかったな。 順番は・・・のほうがよかったかな。</p>	<p>A児…コミュニケーションに対する意欲を高め、言葉を生活の中で生かすことができる。 【コミュニケーション6-(3)】 (行動観察)</p> <p>B児…友達が考えていることを理解しながら、活躍できそうな役割を担うことができる。 【人間関係の形成3-(2)】 (行動観察)</p>

6 本時の展開 (3/8)

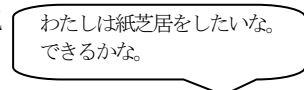
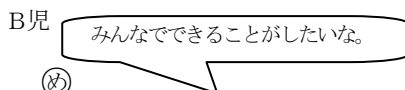
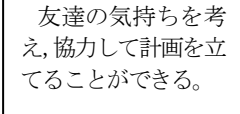
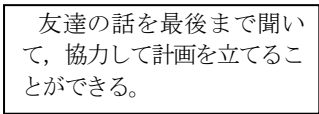
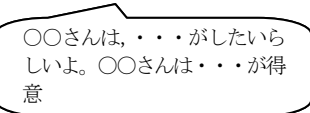
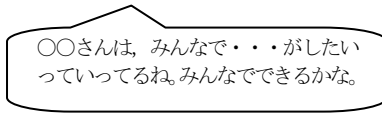
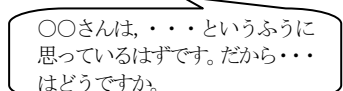
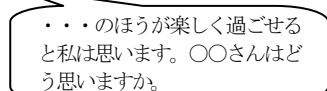
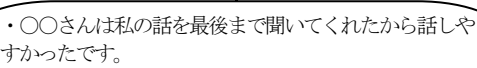
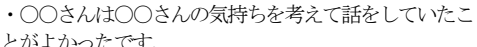
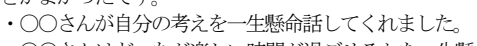
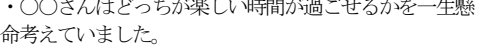
(1) 本時の目標

A児…友達の立場や気持ちを想像しながら、話し合い、お楽しみ会の計画を立てることができる。  
 B児…友達の話の内容を理解しながら最後まで聞いて、相手が聞き取りやすい声で発表することができる。

(2) 観点別評価規準

A児…友達の立場や気持ちを想像しながら、話し合い、お楽しみ会の計画を立てている。 【コミュニケーション6-(5)】  
 B児…友達の話の内容を理解しながら最後まで聞いて、相手が聞き取りやすい声で発表している。 【人間関係の形成3-(2)】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆) 予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
1 本時の学習課題をつかむ。	○ 前時に実施したアンケート結果をふまえてお楽しみ会のプログラムを考えていくことを伝える。	
お楽しみ会を成功させるためにプログラムを工夫しよう。		
2 自分のめあてを確認する。	○学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。 ◆タイムスケジュールを示し、見通しをもたせる。 A児  B児  (め)  (め) 	A児 ○友達の気持ちを考えながら話し合いをすることができる。 ○自分が考えを積極的に話すことができる。 【コミュニケーション6-(5)】 (行動観察・ワークシート)
3 アンケートを整理する。	○アンケートを整理させる。 ◆アンケートを読み上げさせ、黒板に掲示していく。  	B児 ○友達の考えを最後まで聞いて、質問や確認をすることができる。
4 話し合いをする。	○話し合いのルールや話型を提示し、安心して話し合いが進められるようにする。 ◆黒板のアンケートをもとに考えることができるように視覚的な支援をする。 ◆考えを選択し、決定した方に丸を付け、二人の決定事項を明確にさせる。 ◆意見が違う場合は、理由を加えて相手の意見について考えながら選択させる。 ◆お互いが納得いくまで、質問し、確認することなど学習のルールを提示する。  	○相手が聞き取りやすい声の大きさを話することができる。 【人間関係の形成3-(2)】 (行動観察・ワークシート)
5 まとめと振り返りをする。	○友達のよかったことを発表する。 ◆ワークシートを用意し、自己評価させる。 ◆次回の予定を伝え、次の活動への意欲をもたせる。    	

## 平成30年度 御指導いただいた先生方

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 比治山大学・比治山大学短期大学部 広島大学	教育課程調査官 副学長 名誉教授	笠井 健一 先生 林 武広 先生 河野 智文 先生
福岡教育大学 国語教育講座	教授	岩田 耕司 先生
福岡教育大学 数学教育講座	准教授	松尾 真理 先生
広島県教育委員会 義務教育指導課	指導主事	神鳥 裕史 先生
広島県東部教育事務所	指導主事	保森 智彦 先生
尾道市教育委員会	指導主事	大矢 純一 先生
尾道市教育委員会	指導主事	石本 美喜 先生
尾道市教育委員会	指導主事	山口 晴子 先生
尾道市教育委員会	指導主事	井桁 陽介 先生
広島県立尾道特別支援学校	教育相談主任	新林 美穂 先生
広島県立尾道特別支援学校	教育相談主任・地域支援部長	

## 平成30年度研究同人

宮本 佳宏	植木 雅子	槇田 有香	渡邊 翠大
灰垣 亜希子	綿貫 岳人	岡 明美	谷川 友弥
重光 泰徳	菅方 賢司	舛上 敏成	赤羽 夏美
才谷 瑛一	亀本 拓朗	上田 千紘	黒飛 美稲
岡田 美紀代	川嶋 佳那美	島本 佳代子	大谷 千恵子
原田 匠	岩本 章子	前田 真由美	福田谷 知加子
中谷 稔	岡田 陽子	石田 博子	貝川 充洋
柏原 ひとみ	Marie Wyatt		